

事業年報 2020

JA秋田厚生連

能代厚生医療センター



能代厚生医療センター年報
第 16 号

令和 4 年 3 月 発行

発行者 能代厚生医療センター
院長 太田原 康 成

発行所 能代厚生医療センター
〒016-0014 能代市落合字上前田地内
☎ (0185) 52-3111
Fax (0185) 55-0123
E-mail somu@yamamoto-hosp.noshiro.akita.jp
ホームページ <http://yamamoto-hosp.noshiro.akita.jp/>

印刷製本 株式会社全農ビジネスサポート秋田支店
〒010-1633 秋田市新屋島木町 1 番41号

目 次

巻 頭 言 院長 太田原康成	1	地域医療連携室	87
沿 革	2	医療福祉相談室	88
組 織 概 要	5	訪問看護ステーション	89
フロアマップ	7	居宅介護支援事業所	91
施設基準等の届出事項	8	看 護 部	92
組 織 図	9	中央手術部	93
資格所有者一覧	11	3 B 病 棟	95
病院の主な行事	17	精神科作業療法室	96
臨 床 指 標	23	4 A 病 棟 (地域包括ケア病棟)	97
患者統計表		5 A 病 棟	98
年度別患者利用状況調	27	5 B 病 棟	99
退院患者統計	29	6 A 病 棟	100
D P C 医療機関別係数について	35	6 B 病 棟	101
院内がん登録統計	36	7 A 病 棟	102
各 科 紹 介		7 B 病 棟	103
血液・腎臓内科 リウマチ科	43	各種委員会・プロジェクトチーム	
循環器内科	45	医療安全管理委員会	105
消化器内科	46	研修管理委員会	107
呼吸器外科	48	薬事委員会	111
呼吸器内科	49	職員衛生委員会	112
精 神 科	50	医療ガス安全管理委員会	115
精神科デイケア	51	輸血療法委員会	116
小 児 科	52	化学療法委員会	121
外 科	53	栄養管理委員会	123
脳神経外科	56	放射線安全管理委員会	124
整 形 外 科	57	院内感染対策委員会	125
皮 膚 科	60	倫理委員会	127
泌 尿 器 科	62	訪問看護ステーション・	
産 婦 人 科	64	居宅介護支援事業所運営委員会	128
耳鼻咽喉科	66	健診センター運営委員会	129
薬 剤 科	67	臨床検査適正化検討委員会	133
中央放射線部	70	手術部運営委員会	134
臨床検査科	72	医療機器安全管理委員会	135
リハビリテーション科	74	保険医療対策委員会	136
栄 養 科	76	救急医療委員会	137
リンパ浮腫ケア室	78	褥瘡対策委員会	138
臨床工学科	79	緩和医療委員会	141
血液浄化センター	81	クリニカルパス委員会	144
健診センター	82	透析機器安全管理委員会	146
入退院支援センター	85	医療情報システム委員会	147
		診療材料委員会	148
		栄養サポートチーム	149
		災害医療支援チーム (DMAT)	150
		精神科リエゾンチーム	151
		患者満足度向上プロジェクト	152
		地域連携プロジェクト	154
		医療の質向上プロジェクト	155
		情報発信プロジェクト	157
		職員満足度向上プロジェクト	158

基 本 理 念

わたしたちは、地域中核病院として地域の皆様の健康を守ります。

基 本 方 針

1. 地域の皆様に信頼され、愛される病院づくりを推進します。
2. より安全で高度な医療を提供します。
3. 優れた医療者を育成します。

患者さんの権利と義務

患者さんの権利

1. 人格を尊重されて、思いやりのある医療を受ける権利
2. 安全で最良の医療を公平に受ける権利
3. 診療情報や説明を十分理解し、治療方法を自身が決定できる権利
4. 診療に関する個人情報やプライバシーが保護される権利
5. セカンドオピニオン（主治医以外の医師の意見）を求める権利
6. 情報開示を求める権利

患者さんの義務

1. 治療にあたり症状を正確に伝えて下さい。
2. 医療提供者の治療方針に沿って、自ら健康の回復、維持及び増進に積極的に取り組んで下さい。
3. 適切な医療を維持するため、診療にかかった費用をお支払い下さい。
4. 病院内では静粛にし、全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則を守って下さい。

義務に違反した場合

1. 義務に違反する行為等があったときは診療を中止することがあります。
2. 暴言・暴力等の行為があったときは警察に通報します。

巻 頭 言

能代厚生医療センター

院長 太田原 康 成



私達は病院理念である「地域中核病院として地域の皆様の健康を守ります」のもとに日々活動しています。令和2年度、新型コロナウイルス感染症が世界中を震撼させましたが、その対策に多くのエネルギーを注力して参りました。この感染症対策なしには「地域の皆様の健康を守る」ことが出来なからです。

令和2年度上半期は、患者さんの行動変容により患者さんの数が減少しました。この時は更に患者さんが減少したり、院内感染が生じて病院機能を制限せざるを得ない場合も想定しました。患者さんの減少は一時的で、病院機能を制限することなく現在に至っており、「地域の皆様の健康を守る」行動を継続出来たと自負しています。

今後も新型コロナウイルス感染症対策は続きます。将来の病院が前に進む道しるべとしてこの年報を捧げます。

沿革

昭和	7年	11月	山本郡医療購買利用組合設立
	8年	2月	病院開設 
	9年	11月	新病棟建築
	13年	6月	山本郡医療購買利用組合に改組
	17年	11月	県信用販売購買利用組合連合会に統合し山本組合病院と改称
	18年	12月	県農業会に移管
	23年	8月	秋田県厚生農業協同組合連合会に移管
	29年	4月	准看護婦養成所開設
	30年	11月	類焼により一部病棟を除き焼失 
	31年	3月	再建に着手10月完成す 
	33年	1月	総合病院の名称承認
	38年	5月	診療管理棟改築
	39年	7月	准看護婦学校、看護婦寄宿舍竣工
	43年	7月	附属精神神経科病院竣工
	48年	5月	地域センター病院の指定
	60年	3月	准看護婦学校廃校

	62年	8月	移転新築工事着工 
平成	元年	7月	新病院完成
	元年	8月	新病院にて移転、開院  病床数580床（一般470床、結核20床、精神60床、伝染30床）
	元年	10月	救急告示病院指定
	5年	7月	病院群輪番制病院指定
	8年	12月	災害拠点病院指定
	11年	4月	山本在宅介護支援センター設置
	11年	4月	厚生連山本訪問看護ステーション設置
	11年	11月	感染症指定医療機関指定病棟再編 病床数553床（一般470床、結核20床、精神60床、感染3床）
	12年	4月	秋田県厚生連山本指定居宅介護支援事業所設置、神経内科新設
	12年	6月	精神救急指定病院指定
	13年	5月	形成外科新設
	15年	3月	結核病床廃止
	11年	11月	病棟再編・療養病棟設置、病床区分届出／病床数534床（一般422床、療養48床、精神60床、感染4床）
	15年	7月	作業療法開始（施設基準届出）
	16年	3月	協力型臨床研修病院指定
	16年	10月	基幹型臨床研修病院指定
	17年	2月	病床種別の変更（療養病床を一般病床へ）／病床数534床（一般470床、精神60床、感染4床）
	18年	3月	病棟再編
	18年	4月	化学療法治療室設置、医療安全対策室設置
	18年	8月	地域医療連携室設置
	19年	9月	森岳診療所閉所
	20年	2月	がん診療連携拠点病院指定 病棟再編（産科分娩の集約化による）
	21年	5月	発熱外来設置
	21年	10月	緩和ケア室設置（現 緩和ケアセンター）
	22年	2月	病棟再編 病床数500床（一般436床、精神60床、感染4床）

	22年	6月	院内改修（血液浄化センター、医療機器管理センター、人間ドック、外来化学療法室、感染症病室）
	22年	7月	D P C（診断群分類別包括制度）導入
	22年	11月	入院支援センター設置
	22年	12月	精神デイケア（小規模なもの）開始
	23年	4月	精神デイケア（大規模なもの）開始
	23年	5月	日本医療機能評価 ver.6 認定
	24年	3月	救急外来拡充
	24年	6月	病棟再編 病床数482床（一般418床、精神60床、感染4床） 標榜診療科名の変更・追加 （内科→血液・腎臓内科、消化器科→消化器内科、循環器科→循環器内科、呼吸器科→呼吸器内科、リウマチ科、糖尿病・代謝内科、腫瘍内科）、リンパ浮腫ケア室開設
	25年	3月	1階外来棟改修、内視鏡室拡充
	25年	5月	標榜診療科名の追加（消化器外科）
	25年	11月	健診センター改修（乳房撮影室）
	25年	12月	健診センター改修（エックス線TV室）
	26年	2月	院内改修（院内喫茶店）
	26年	4月	院内改修（4階：リハビリテーション室、言語聴覚室、3階：第2処置室）
	26年	10月	健診センター改修（胸部撮影室）
	26年	12月	病棟再編（地域包括ケア病棟48床 開始）
	27年	4月	「能代厚生医療センター」へ病院名称変更 病棟再編 病床数473床（一般409床、精神60床、感染4床） 地域がん診療病院指定
	27年	7月	7対1看護基準取得／地域包括ケア病棟 辞退
	27年	8月	地域包括ケア病棟 取得
	27年	11月	病棟再編 病床数469床（一般405床、精神60床、感染4床）
	28年	2月	病棟再編 病床数456床（一般392床、精神60床、感染4床）／1F外来棟改修、血液・腎臓内科 拡充
	28年	5月	日本医療機能評価（一般病院2／精神病院）3rdG：Ver1.1認定
	29年	4月	標榜診療科名の廃止（心臓血管外科）
	29年	10月	認知症疾患医療センター設置
	29年	11月	精神病棟入院基本料 13：1 認可
	30年	4月	第3回日総研接遇大賞受賞
	30年	7月	患者支援センター設置
	31年	4月	標榜診療科名の追加（呼吸器外科） 病棟再編（科別病床増減） ※病床数456床（一般392床、精神60床、感染4床）に変更なし
令和	2年	1月	病棟再編（科別病床増減） ※病床数456床（一般392床、精神60床、感染4床）に変更なし
	3年	2月	病棟再編 病床数393床（一般329床、精神60床、感染4床） 4B病棟休床→多目的室へ

組 織 概 要

1. 経営主体

- (1) 名 称 秋田県厚生農業協同組合連合会
- (2) 代 表 者 代表理事理事長 小野地 章一
- (3) 所 在 地 秋田市八橋南二丁目10番16号
- (4) 設 立 昭和23年8月2日
- (5) 出 資 金 46億4,145万円／15会員（内連合会2）（令和2年3月31日現在）
- (6) 運 営 事 業
 - 1. 医療に関する事業 …………… グループ病院（9病院）
 - 2. 保健に関する事業
 - 3. 老人の福祉に関する事業
 - 4. 前各号の事業に附帯する事業

2. 病院の概況

- (1) 名 称 J A秋田厚生連 能代厚生医療センター
- (2) 代 表 者 院長 太田原 康 成
- (3) 所 在 地 能代市落合字上前田地内
- (4) 設 立 平成元年8月18日
- (5) 開 設 者 秋田県厚生農業協同組合連合会
- (6) 面 積

病院及び 附属施設の 状況	施 設 名	敷地面積(㎡)	建物延べ面積	備 考
	病 院	49,504.370	33,190.703	車庫、駐輪場、カルテ庫含む
			57.600	訪問看護ステーション 居宅介護支援事業所
	計	49,504.370	33,248.303	
	旧森岳診療所	1,830.480	－	
	職 員 駐 車 場	5,291.000	－	
	病 院 住 宅	5,558.740	1,742.850	13戸
	合 計	62,184.590	34,991.153	

- (7) 標 榜 科
 - 血液腎臓内科 ●精 神 科 ●神 経 内 科 ●呼吸器内科 ●消化器内科
 - 循環器内科 ●小 児 科 ●外 科 ●消化器外科 ●整 形 外 科
 - 形 成 外 科 ●脳神経外科 ●呼吸器外科 ●皮 膚 科 ●泌 尿 器 科
 - 産 婦 人 科 ●眼 科 ●耳鼻咽喉科 ●リハビリテーション科 ●放 射 線 科
 - 麻 酔 科 ●糖尿病代謝内科 ●腫 瘍 内 科 ●リウマチ科 （以上24科）

(8) 許可病床及び基準看護

病 床 区 分	許可病床数	入院基本料
一 般 病 床	329床	7 対 1
一部 地域包括ケア病棟	(うち 48床)	
感 染 病 床	4 床	
精 神 病 床	60床	13対 1
合 計	393床	－

- (9) 主な医療設備 M R I、全身用C T（64ch）、ライナック、R I、血管連続撮影装置、超音波診断装置、人工透析装置、対外衝撃波結石碎装置

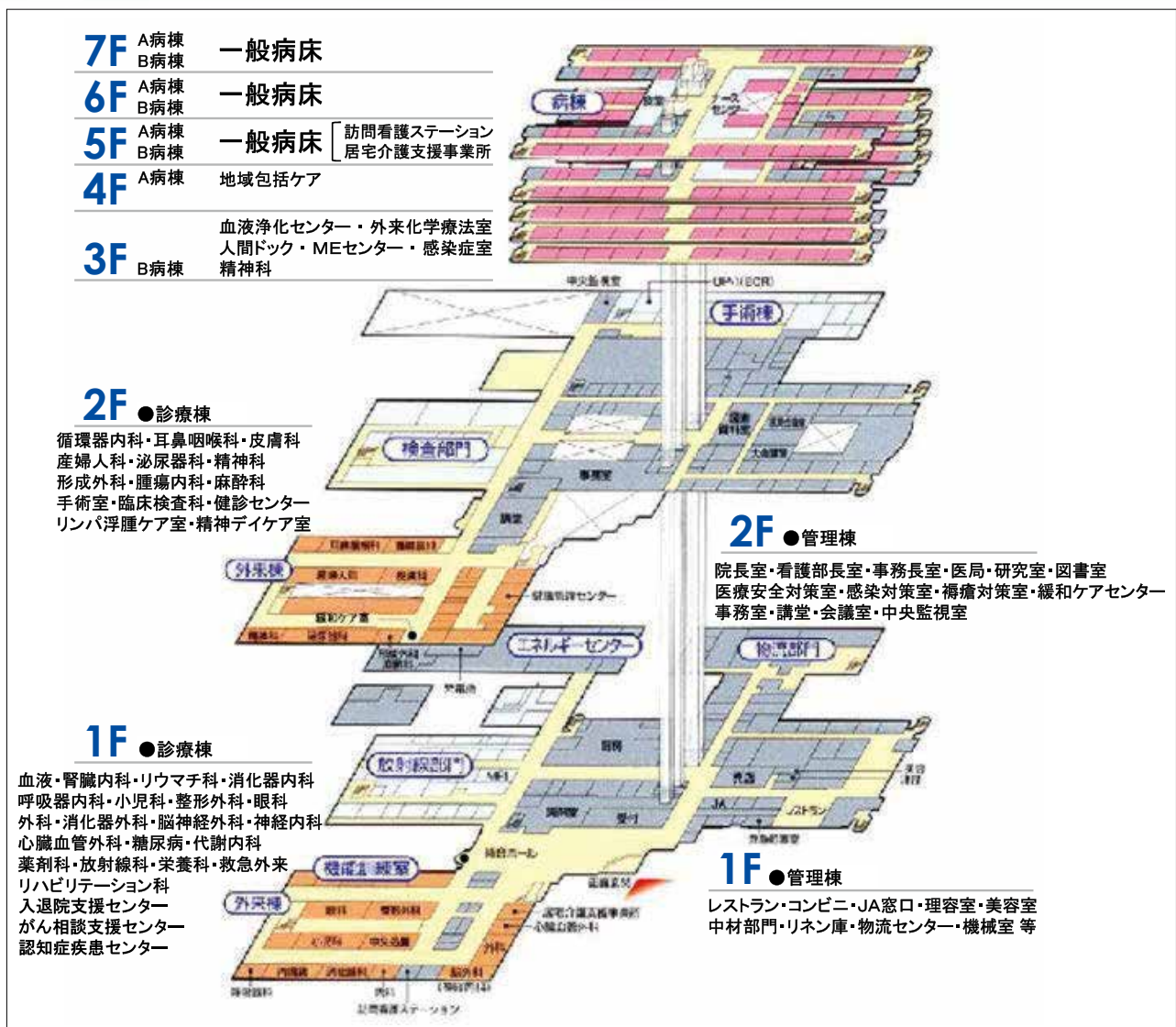
(10) 職 員 状 況 (令和3年3月31日現在)

職 種	常 勤	嘱 託	非 常 勤	合 計
医 師	41	6.7	8.2	55.9
臨 床 研 修 医 師	6		1	7
保 健 師	4		0.5	4.5
助 産 師	24		3	27
看 護 師	257		23.2	280.2
准 看 護 師	5		9.7	14.7
薬 剤 師	13			13
臨床放射線技師	16			16
臨床検査技師	23		3	26
臨床工学技士	8		1	9
理学療法士	12			12
作業療法士	11			11
言語聴覚士	2			2
視能訓練士	1		1	2
管理栄養士	6		0.9	6.9
栄 養 士			1	1
臨床心理士	2			2
事務職員	30		41.5	71.5
ケースワーカー	5		1	6
技能職員			1	1
助手職員			44.6	44.6
現業職員			7.8	7.8
合 計	466	6.7	148.4	621.1

※非常勤は常勤換算数

施 設 認 定			
機 関 指 定	第三者機関施設認定	専門医・認定医等研修施設の認定	
救 急 告 示 医 療 機 関	日本医療機能評価機構 3rdG;Ver1.1認定病院	日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本がん治療認定医研修施設
病 院 群 輪 番 制 病 院		日本周産期・新生児医学会補完研修施設	マンモグラフィ健診施設画像認定施設
災 害 拠 点 病 院		日本精神神経学会専門医制度研修施設	日本臨床細胞学会認定施設
地 域 が ん 診 療 病 院		日本脳神経外科学会専門医訓練施設	日本脳ドック学会認定施設
精 神 科 救 急 指 定 病 院		日本医学放射線学会放射線科専門医研修施設	日本脳卒中学会認定研修教育施設
臨床研修病院(協力型・基幹型)		日本消化器病学会専門医制度指導施設	日本リウマチ学会教育認定施設
第二種感染症指定医療機関		日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本呼吸器外科学会認定関連施設
労 災 保 険 指 定 医 療 機 関		日本皮膚科学会認定専門医研修施設	日本胸部外科学会関連施設
保 険 医 療 機 関		日本耳鼻咽喉科学会専門医制度研修施設	日本血液学会血液研修施設
指定自立支援医療機関(精神通院医療)		日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設	
指定自立支援医療機関(育成・更生医療)		日本眼科学会学会専門医制度研修施設	
母 体 保 護 法 指 定 医 療 機 関			
精 神 保 健 指 定 医 療 機 関			
療 育 医 療 機 関 指 定			
肝 炎 治 療 指 定 医 療 機 関			
結 核 指 定 医 療 機 関			
身体障害者福祉法指定医療機関			

フロアマップ



施設基準等の届出事項

令和3年度（令和3年12月1日時点）

【基本診療料】

- 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料１）
- 精神病棟入院基本料（１３対１）
- 臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
- 救急医療管理加算
- 妊娠婦救急搬送入院加算
- 診療録管理体制加算１
- 医師事務作業補助体制加算１（１５対１）（一般）
- 医師事務作業補助体制加算１（１５対１）（精神）
- 急性期看護補助体制加算（５０対１）
- 看護職員夜間１６対１配置加算１
- 療養環境加算
- 重症者等特別療養環境加算
- 無菌治療室管理加算１
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- がん拠点病院加算（地域がん診療病院）
- 医療安全対策加算１
- 医療安全対策地域連携加算１
- 感染防止対策加算１
- 感染防止対策地域連携加算
- 抗菌薬適正使用支援加算
- 患者サポート体制充実加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算 ※
- 精神科救急搬送患者地域連携受入加算
- 入退院支援加算注８に係る総合機能評価加算
- 後発医薬品使用体制加算１
- 病棟薬剤業務実施加算１
- データ提出加算２
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 入退院支援加算１
- 入院時支援加算
- 認知症ケア加算１
- 精神疾患診療体制加算
- 精神科急性期医師配置加算
- 地域包括ケア病棟入院料２
（地域包括ケアに係わる看護職員配置加算）
（地域包括ケアに係わる看護補助者配置加算）
- 地域医療体制確保加算
- 超急性期脳卒中加算
- 排尿自立支援加算

※

年間分娩件数	396件
配置医師数	4名
配置助産師数	19名

【食事療養費】

- 入院時食事療養費（1）
○食堂加算

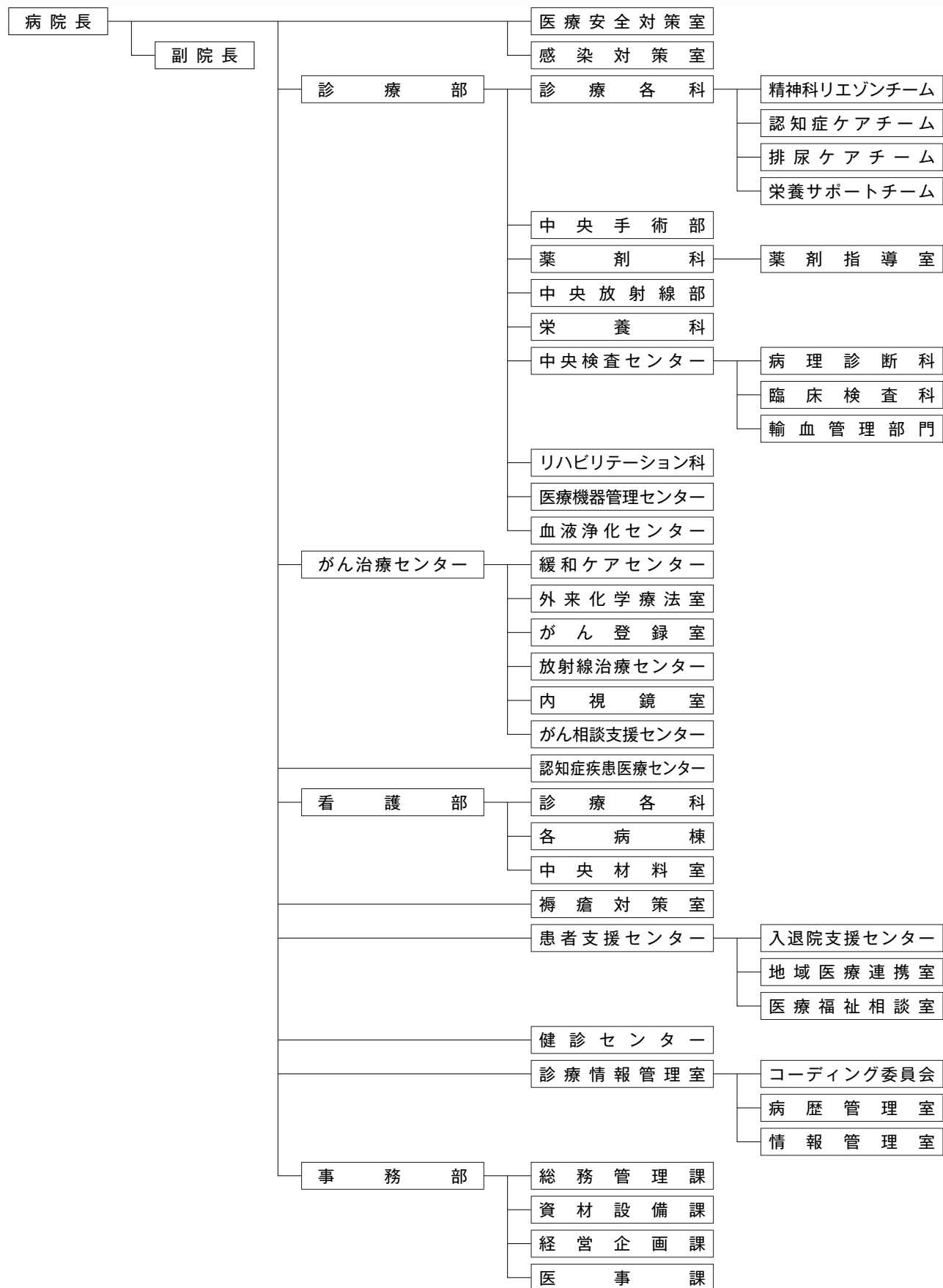
【特掲診療料】

- 酸素単価
- 外来栄養食事指導料（連携充実加算）
- 遠隔モニタリング加算（ベースメーカー指導管理料）
- 喘息治療管理料
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料イ
- がん患者指導管理料ロ
- がん患者指導管理料ハ
- 乳腺重症化予防ケア・指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 小児科外来診療料
- 院内トリアージメント料

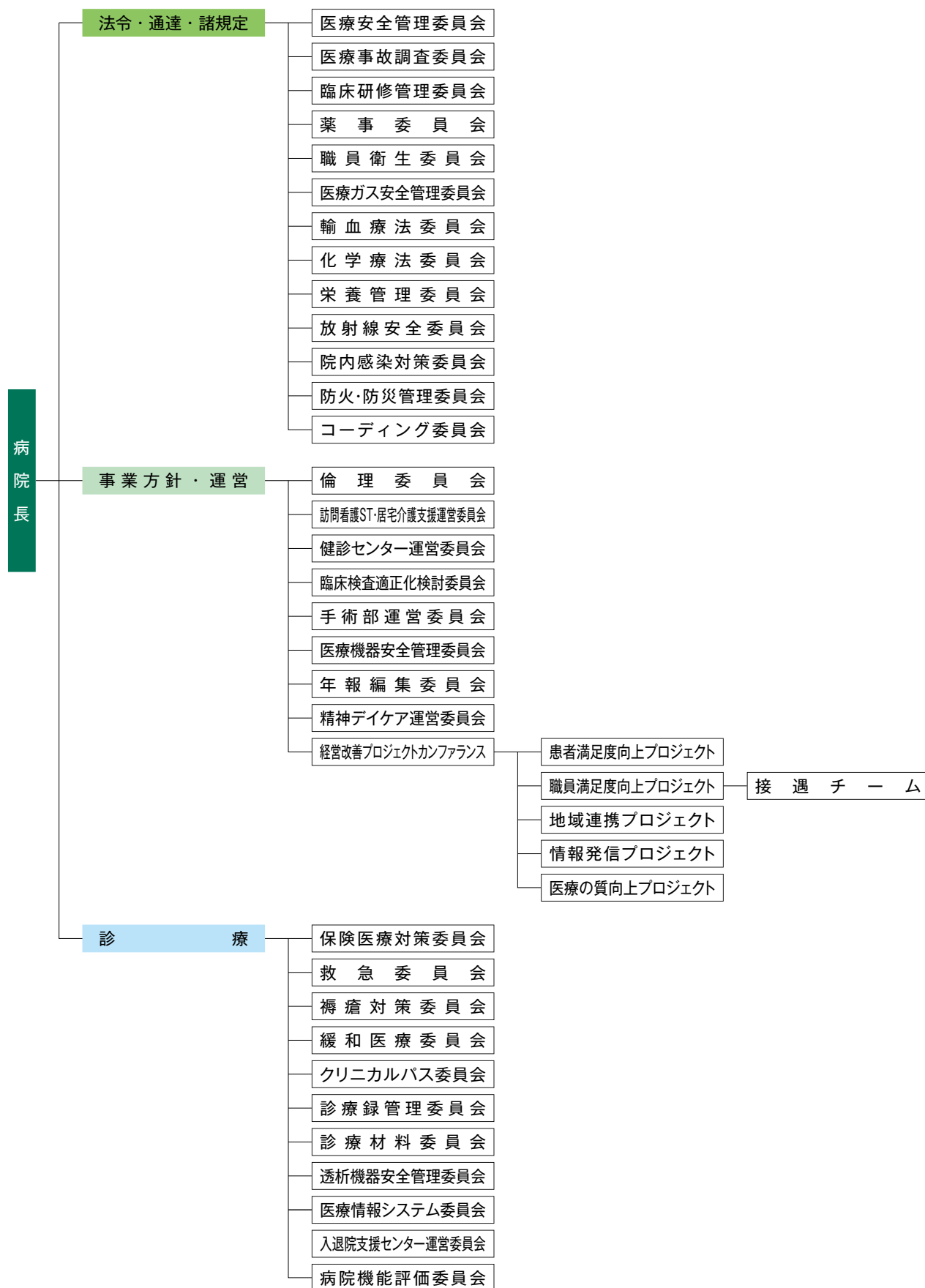
【特掲診療料】

- 夜間休日救急搬送医学管理料
- 救急搬送看護体制加算 1
- ニコチン依存症管理料
- がん治療連携計画策定料
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 外来排尿自立指導料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 在宅患者訪問看護・指導料
- 同一建物居住者訪問看護・指導料
- 造血管腫瘍遺伝子検査
- B R C A 1 / 2 遺伝子検査
- H P V 核酸同定検査及びH P V 核酸検出
(簡易ジェノタイプ判定)
- 検体検査管理加算 (Ⅳ)
- 植込型心電図検査
- 時間内歩行試験
- ヘッドアップティルト試験
- 神経学的検査
- 小児食物アレルギー負荷試験
- 画像診断管理加算 1
- C T 撮影及びM R I 撮影
- 大腸C T 撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 連携充実加算 (外来化学療法)
- 無菌製剤処理料
- 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ)・初期加算
- 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)・初期加算
- 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)・初期加算
- がん患者リハビリテーション料
- 認知療法・認知行動療法 2
- 精神科ショート・ケア (小規模なもの)
- 精神科デイ・ケア (大規模なもの)
- 精神科デイ・ケア (小規模なもの)
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料
(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
- 人工腎臓 (慢性維持透析を行った場合 1)
- 導入期加算 1
- 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 椎間板内酸素注入療法
- 乳がんセンチネルリンパ節加算 2
- ペースメーカー移植術及び交換術
- 大動脈バルーンパンピング法 (ⅠA B P 法)
- 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 16 に掲げる手術
- 胃瘻造設術 (経皮的内視鏡胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術含む)
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 体外衝撃波胆石破碎術
- 腹腔鏡下肝切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- 腎腫瘍凝固・焼灼術 (冷凍凝固によるもの)
- 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
- 人工尿道括約筋埋込・置換術
- 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
- 輸血管理料 (Ⅰ)
- 輸血適正使用加算
- 貯血式自己血輸血管理体制加算
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 外来放射線治療加算
- 放射線治療専任加算
- 高エネルギー放射線治療
- 1 回線量増加加算

組 織 図



院内委員会組織図



資格所有者一覧

令和2年3月31日現在

診療部門	氏名	資格	所属団体
診療部門（医師）			
脳神経外科	太田原康成	脳神経外科専門医	一般社団法人 日本脳神経外科学会
		脳卒中専門医	日本脳卒中学会
		総合診療医	日本慢性期医療協会
産婦人科	松井 俊彦	産婦人科専門医	公益社団法人 日本産科婦人科学会
整形外科	佐藤 毅	整形外科専門医	公益社団法人 日本整形外科学会
		スポーツ認定医	社団法人 日本整形外科学会
		自己血輸血責任医師	日本自己血輸血学会／輸血・細胞治療学会
血液・腎臓内科	波多野善明	総合内科専門医	一般社団法人 日本内科学会
		血液指導医	一般社団法人 日本血液学会
		血液専門医	一般社団法人 日本血液学会
		日本内科学会認定内科医	一般社団法人 日本内科学会
		インфекションコントロールドクター（ICD）	ICD制度協議会
産婦人科	柴田 悟史	産婦人科専門医	公益社団法人 日本産科婦人科学会
放射線科	眞山 一郎	放射線科（診断）専門医	公益社団法人 日本医学放射線学会
		核医学専門医	一般社団法人 日本核医学会
		PET核医学認定医	一般社団法人 日本核医学会
呼吸器外科	松崎 郁夫	日本消化器外科学会認定医	一般社団法人 日本消化器外科学会
		外科専門医	一般社団法人 日本外科学会
		日本医師会認定産業医	日本医師会
整形外科	久保田 均	整形外科専門医	社団法人 日本整形外科学会
		スポーツ認定医	社団法人 日本整形外科学会
呼吸器内科	金田 浩人	インфекションコントロールドクター（ICD）	ICD制度協議会
耳鼻咽喉科	江戸 雅孝	耳鼻咽喉科専門医	一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会
精神科	齋藤 英知	精神科専門医	公益社団法人 日本精神神経学会
		精神保健指定医	厚生労働省
		精神科専門医制度指導医	公益社団法人 日本精神神経学会
皮膚科	矢島 晴美	皮膚科専門医	公益社団法人 日本皮膚科学会
臨床検査科	村上 正代	病理専門医	一般社団法人 日本病理学会
		細胞診指導医	公益社団法人 日本臨床細胞学会
		日本医師会認定産業医	日本医師会
消化器内科	藤島 裕耕	肝臓専門医	一般社団法人 日本肝臓学会
		消化器病専門医	一般財団法人 日本消化器病学会
		消化器内視鏡専門医	一般社団法人 日本消化器内視鏡学会
		消化器内視鏡指導医	一般社団法人 日本消化器内視鏡学会
		日本内科学会認定内科医	一般社団法人 日本内科学会
循環器内科	木村 州孝	循環器専門医	一般社団法人 日本循環器学会
精神科	山田 篤	精神科専門医	公益社団法人 日本精神神経学会
		精神保健指定医	厚生労働省
		精神科専門医制度指導医	公益社団法人 日本精神神経学会
精神科	佐藤 優真	精神保健指定医	厚生労働省
呼吸器内科	長谷川幸保	呼吸器専門医	日本呼吸器学会
血液・腎臓内科	伊藤 貢	日本内科学会認定内科医	一般社団法人 日本内科学会
循環器内科	梅田 有理	日本内科学会認定内科医	一般社団法人 日本内科学会
小児科	近野 勇樹	小児科専門医	公益社団法人 日本小児科学会
		小児科指導医	公益社団法人 日本小児科学会
外科	加藤久仁之	外科専門医	一般社団法人 日本外科学会
		消化器外科専門医	一般社団法人 日本消化器外科学会
		大腸肛門病専門医	一般社団法人 日本大腸肛門病学会
		日本大腸肛門病学会指導医	一般社団法人 日本大腸肛門病学会
		日本消化器外科学会指導医	一般社団法人 日本消化器外科学会
		日本外科学会指導医	一般社団法人 日本外科学会
		日本内視鏡外科学会技術認定医	一般社団法人 日本内視鏡外科学会
		検診マンモグラフィ読影認定医	NPO法人マンモグラフィ健診精度管理中央委員会
		消化器がん外科治療認定医	一般社団法人 日本消化器外科学会
		がん治療認定医	日本がん治療認定医機構
		ストーマ認定士	日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会

診療部門	氏名	資格	所属団体
外科	西成 悠	外科専門医	一般社団法人 日本外科学会
		消化器外科専門医	一般社団法人 日本消化器外科学会
		消化器がん外科治療認定医	一般社団法人 日本消化器外科学会
		ジオン注（四段階注射法）	内痔核治療法研究会
		がん治療認定医	日本がん治療認定医機構
整形外科	伊藤 博紀	整形外科専門医	公益社団法人 日本整形外科学会
		リウマチ専門医	一般社団法人 日本リウマチ学会
整形外科	佐々木 寛	整形外科専門医	公益社団法人 日本整形外科学会
整形外科	飯田 純平	整形外科専門医	公益社団法人 日本整形外科学会
脳神経外科	南波 孝昌	脳神経外科専門医	一般社団法人 日本脳神経外科学会
		脳卒中専門医	一般社団法人 日本脳卒中学会
泌尿器科	小峰 直樹	泌尿器科専門医	一般社団法人 日本泌尿器科学会
		泌尿器科指導医	一般社団法人 日本泌尿器科学会
		がん治療認定医	日本がん治療認定医機構
泌尿器科	伊藤 隆一	泌尿器科専門医	一般社団法人 日本泌尿器科学会
		泌尿器科指導医	一般社団法人 日本泌尿器科学会
産婦人科	畠山 佑子	産婦人科専門医	公益社団法人 日本産科婦人科学会
		周産期専門医	日本周産期・新生児医学会
		細胞診専門医	日本臨床細胞学会
耳鼻咽喉科	辻 正博	耳鼻咽喉科専門医	一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会
		耳鼻咽喉科専門研修指導医	一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会
		がん治療認定医	日本がん治療認定医機構
放射線科	岩間 孝英	放射線科治療専門医	公益社団法人 日本医学放射線学会
		核医学専門医	一般社団法人 日本核医学会
		がん治療認定医	日本がん治療認定医機構
		肺がんCT検診認定医	肺がんCT検診認定機構
		日本医学放射線学会研修指導者	日本医学放射線学会（J R S）
健診センター	三木 一伸	腎臓専門医	一般社団法人 日本腎臓学会
健診センター	畠山 昇	日本消化器集団検診学会認定医	日本消化器がん集団検診学会
麻酔科	東海林 圭	麻酔科指導医・専門医	公益社団法人 日本麻酔学会
麻酔科	松本 純一	麻酔科指導医	公益社団法人 日本麻酔学会

氏 名	資 格
医療技術部門	
大 原 正 之	がん薬物療法
大 原 正 之	認定実務実習指導
木 村 正 行	生涯研修履修認定
木 村 正 行	認定実務実習指導
齊 藤 匡 昭	がん薬物療法
齊 藤 匡 昭	認定実務実習指導
齊 藤 匡 昭	病院薬学
加賀谷 明日美	抗菌化学療法
加賀谷 明日美	生涯研修履修認定
石 川 孝 仁	病院薬学
田 村 直 斗	病院薬学
山 本 奈都美	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師
石 山 隼 人	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師
山 田 利 信	超音波検査士（臨床検査技師）
清 水 盛 也	超音波検査士（臨床検査技師）
藤 嶋 利 花	超音波検査士（臨床検査技師）
成 田 淳 子	超音波検査士（臨床検査技師）
水 木 千 絵	超音波検査士（臨床検査技師）
川 端 寛 子	超音波検査士（臨床検査技師）
川 端 寛 子	超音波検査士（臨床検査技師）
小 玉 浩 輝	超音波検査士
小 玉 浩 輝	超音波検査士
藤 嶋 正 人	細胞検査士
佐々木 美利加	細胞検査士
秋 元 繭 子	細胞検査士
小山田 晴 香	細胞検査士
日 沼 ゆかり	認定看護師（日本看護協会）
出 雲 隆 子	認定看護師（日本看護協会）
袴 田 陽 子	認定看護師（日本看護協会）
菅 原 俊 子	認定看護師（日本看護協会）
伊 藤 郁 子	認定看護師（日本看護協会）
小 林 真 紀	認定看護師（日本看護協会）
工 藤 純 子	認定看護師（日本看護協会）
佐々木 伸 子	認定看護師（日本看護協会）
田 中 富三男	認定看護師（日本看護協会）
工 藤 ゆき子	認定看護師（日本看護協会）
内 藤 建 介	認定看護師（日本精神科看護協会）
金 谷 恵利子	診療情報管理士
佐々木 翔	診療情報管理士
飛 澤 茉佑子	診療情報管理士
米 谷 明沙美	診療情報管理士
工 藤 恵理華	診療情報管理士
佐 藤 洋 子	診療情報管理士
工 藤 綾 華	社会福祉士
佐 藤 希	社会福祉士
佐 藤 里花子	社会福祉士
松 尾 拓 哉	社会福祉士
佐々木 凜 生	社会福祉士
三 浦 真己子	社会福祉士
山 田 好	精神保健福祉士
佐 藤 希	精神保健福祉士
佐 藤 里花子	精神保健福祉士
松 尾 拓 哉	精神保健福祉士
佐々木 凜 生	精神保健福祉士
丸 山 広	透析技術認定士
赤 坂 紀 之	透析技術認定士
佐々木 和 義	透析技術認定士
内 藤 恭 子	透析技術認定士
伊 藤 淳 志	透析技術認定士
丸 山 広	血液浄化専門臨床工学技士

氏 名	資 格
佐々木 和 義	医療機器情報コミュニケーター (MD I C)
山 本 真 櫻	植込み型心臓デバイス認定士
伊 藤 浩	放射線治療品質管理士
金 子 大 輔	放射線治療品質管理士
伊 藤 浩	放射線治療専門放射線技師
金 子 大 輔	放射線治療専門放射線技師
松 橋 忠 昭	放射線機器管理士
松 橋 忠 昭	放射線管理士
成 田 公 輝	画像等手術支援認定診療放射線技師
石 山 隼 人	画像等手術支援認定診療放射線技師
石 山 隼 人	医療情報技師
八 木 勇 介	医療画像情報精度管理士
成 田 公 輝	磁気共鳴専門技術者
松 橋 忠 昭	胃がん健診専門技師
丹 清 彦	胃がん健診専門技師
八 木 勇 介	胃がん健診専門技師
石 山 隼 人	肺がんＣＴ健診認定技師
松 橋 忠 昭	X線ＣＴ認定技師
伊 藤 泰 伸	X線ＣＴ認定技師
成 田 公 輝	X線ＣＴ認定技師
成 田 公 輝	A i 認定診療放射線技師
石 山 隼 人	A i 認定診療放射線技師
佐々木 駿 也	第一種放射線取扱主任者
加 藤 亜有子	認定輸血検査技師
山 田 利 信	二級臨床検査士
藤 嶋 正 人	有機溶剤作業主任者
小山田 晴 香	有機溶剤作業主任者
佐々木 美利加	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者
松 嶋 香 織	日本糖尿病療養指導士
佐 藤 友 美	秋田県糖尿病療養指導士
清 水 竜 喜	秋田県糖尿病療養指導士
岸 野 美代子	秋田県糖尿病療養指導士
永 井 宏 史	秋田県糖尿病療養指導士
高 橋 美 香	秋田県糖尿病療養指導士
松 嶋 香 織	秋田県糖尿病療養指導士
市 川 宏 美	秋田県糖尿病療養指導士
三 浦 果 歩	秋田県糖尿病療養指導士
佐 藤 由 佳	秋田県糖尿病療養指導士
大 鐘 智香子	秋田県糖尿病療養指導士
山 田 佳 子	秋田県糖尿病療養指導士
佐 藤 永 尚	秋田県糖尿病療養指導士
畠 山 栄 子	秋田県糖尿病療養指導士
高 橋 美 香	N S T 専門療法士
松 嶋 香 織	N S T 専門療法士
岩 谷 真希子	N S T 専門療法士
安 部 留美子	N S T 専門療法士
北 嶋 清 子	N S T 専門療法士
木 村 亜矢子	フットケア研修
伊 藤 淳 志	フットケア研修
平 川 朋 子	フットケア研修
石 川 周	3学会合同呼吸療法認定士
内 藤 恭 子	3学会合同呼吸療法認定士
舘 岡 賢 太	3学会合同呼吸療法認定士
丹 真理子	臨床輸血看護師
佐 藤 智 子	臨床輸血看護師
工 藤 佐智子	臨床輸血看護師
佐々木 恵	臨床輸血看護師
工 藤 佐智子	自己血輸血看護師
佐 藤 智 子	自己血輸血看護師
丹 真理子	自己血輸血看護師
工 藤 誠 子	自己血輸血看護師

氏 名	資 格
中 村 奈緒子	第2種滅菌技師
山 田 佳 子	第1種 消化器内視鏡技師
大 鐘 智香子	第1種 消化器内視鏡技師
小 野 良 子	第1種 消化器内視鏡技師
金 谷 恵利子	日本クリニカルパス学会パス認定士
日 諸 千 春	リンパ浮腫療法士
日 諸 千 春	フェルディ式医療リンパドレナージ複合的理学療法
大 塚 聖 子	フェルディ式医療リンパドレナージ複合的理学療法
檜 森 敏 子	弾性ストッキングコンダクター
塚 本 麻 美	弾性ストッキングコンダクター
佐々木 伸 子	弾性ストッキングコンダクター
細 川 かほ子	弾性ストッキングコンダクター
平 川 由美子	弾性ストッキングコンダクター
大 鐘 智香子	弾性ストッキングコンダクター
加賀谷 寛 子	弾性ストッキングコンダクター
佐々木 伸 子	ストーマ認定士
岩 谷 真希子	東北ストーマリハビリテーション講習会
伊 東 恵 美	東北ストーマリハビリテーション講習会
田 中 愛 美	東北ストーマリハビリテーション講習会
三 浦 美香子	東北ストーマリハビリテーション講習会
益 田 昌 美	東北ストーマリハビリテーション講習会
日 諸 千 春	東北ストーマリハビリテーション講習会
伊 藤 晴 香	東北ストーマリハビリテーション講習会
田 中 富三男	東北ストーマリハビリテーション講習会
佐 藤 智 子	東北ストーマリハビリテーション講習会
藤 田 美代子	東北ストーマリハビリテーション講習会
大 高 玲 子	東北ストーマリハビリテーション講習会
佐々木 伸 子	ストーマリハビリテーション（リーダーシップコース）講習会
藤 田 美代子	ストーマリハビリテーション（リーダーシップコース）講習会
高 橋 紀美代	人間ドック健診情報管理指導士
石 井 美保子	人間ドック健診情報管理指導士
田 村 博 美	人間ドック健診情報管理指導士
櫻 庭 優 子	医療クオリティ マネジャー
櫻 庭 優 子	医療安全管理者 アドバンストコース
千 葉 愛	医療安全管理者
丹 真理子	医療安全管理者
安 部 留美子	医療安全管理者
児 玉 香	医療安全管理者
小 川 菜穂子	医療安全管理者
渡 部 昌 子	医療安全管理者
川 井 美奈子	医療安全管理者
出 雲 隆 子	医療安全管理者
田 口 知 子	医療安全管理者
赤 塚 悦 子	医療安全管理者
佐 藤 明 子	医療安全管理者
日 沼 ゆかり	医療安全管理者
櫻 庭 優 子	医療安全管理者
鈴 木 輝 子	医療安全管理者
高 橋 紀美代	第1種衛生管理者
石 井 美保子	第1種衛生管理者
田 村 博 美	第1種衛生管理者
千 葉 愛	認定ベビーマッサージ講師
渡 部 昌 子	A B Mアタッチメントベビーマッサージインストラクター認定
土 屋 三和子	新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）
高 橋 鈴 音	新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）
高 田 万 希	新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）
落 合 華 恵	新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）
阿 部 里 紗	新生児蘇生法「一次」コース（Bコース）
田 畑 信 子	新生児蘇生法「一次」コース（Bコース）
齋 藤 福 見	新生児蘇生法「一次」コース（Bコース）
菊 池 聖 子	新生児蘇生法「一次」コース（Bコース）

氏 名	資 格
渡 部 郁 子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
丹 真 理子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
門 脇 真 澄	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
工 藤 佐智子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
渡 部 昌 子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
舩 屋 明 海	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
村 上 郁 恵	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
松 橋 由 衣	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
高 坂 正 子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
田 中 綾 乃	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
中 村 愛	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
檜 森 敏 子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
大 塚 夕希子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
安 田 葵	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
千 葉 愛	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
渡 部 昌 子	新生児蘇生法「一次」コース（Ｂコース）
門 脇 真 澄	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
加 藤 真 弓	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
田 中 綾 乃	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
村 上 郁 恵	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
渡 部 郁 子	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
出 雲 隆 子	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
渡 部 昌 子	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
工 藤 誠 子	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
檜 森 敏 子	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
工 藤 佐智子	アドバンス助産師認定（クリニカルラダー レベルⅢ）
櫻 庭 優 子	がん相談支援センター相談員
野 呂 江津子	がん相談支援センター相談員／基礎ⅠⅡ終了
松 尾 拓 哉	がん相談支援センター相談員／基礎ⅠⅡ終了
山 崎 智 子	がん相談支援センター相談員／基礎ⅠⅡ終了
阿 部 綾 華	がん相談支援センター相談員／基礎Ⅲ終了
千 葉 愛	思春期保健相談員
千 葉 愛	A L S Oプロバイダー
工 藤 恵理華	院内がん登録実務初級者認定
飛 澤 茉佑子	院内がん登録実務初級者認定
工 藤 恵理華	院内がん登録実務初級者認定
成 田 恵	院内がん登録実務初級者認定
佐 藤 洋 子	院内がん登録実務中級者認定
太田原 康 成	D M A T
佐々木 寛	D M A T
佐々木 和 義	D M A T
阿 部 玲 子	D M A T
荒 木 誠	D M A T
佐々木 翔	D M A T
高 杉 謙 祐	D M A T

病院の主な行事

病院の主な行事

《4月》

- 1日(水) 定期人事異動辞令交付式(講堂)
新入職員辞令交付式(講堂)
- 3日(金) 新入職員研修会(講堂)
- 13日(金) キャンサーボード(大会議室)
- 15日(水) 管理者会議(大会議室)
- 22日(水) 診療科長会議(講堂)
- 23日(木) 医局会議(医局ラウンジ)

《5月》

- 11日(月) キャンサーボード(大会議室)
- 13日(水) 病院機能向上委員会(講堂)
- 20日(水) 管理者会議(講堂)
- 27日(水) 診療科長会議(講堂)
- 28日(木) 医局会議(医局ラウンジ)

《6月》

- 3日(水) 病院機能向上委員会(講堂)
- 8日(月) キャンサーボード(大会議室)
- 17日(水) 管理者会議(大会議室)
- 24日(水) 診療科長会議(講堂)
- 25日(木) 医局会議(医局ラウンジ)

《7月》

- 1日(水) 病院機能向上委員会(講堂)
- 7日(火) BLS研修会<新人対象>(講堂)
- 13日(月) キャンサーボード(大会議室)
- 15日(水) 管理者会議(講堂)
- 22日(水) 診療科長会議(講堂)
- 30日(木) 医局会議(医局ラウンジ)

《8月》

- 5日(水) 新型コロナ対策訓練(大会議室)
- 19日(月) 管理者会議(講堂)
BLS研修会(講堂)
- 26日(水) 診療科長会議(講堂)
- 27日(木) 医局会議(医局ラウンジ)

《9月》

- 14日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 16日(水) 管理者会議 (大会議室)
B L S 研修 (講堂)
- 16日(水) 新型コロナ発生時を想定したシミュレーション訓練 (講堂)
- 23日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 24日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)

《10月》

- 2日(金) 接遇研修会 (講堂)
- 12日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 21日(水) 管理者会議 (講堂)
- 23日(水) B L S 研修会 (講堂)
診療科長会議 (講堂)
- 24日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)
- 27日(火) 診療科長会議 (講堂)
- 29日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)

《11月》

- 6日(金) 上期監事監査 (講堂)
- 9日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 18日(水) 管理者会議 (講堂)
業務改善発表会 (講堂)
- 19日(木) 淳城幼稚園ありがとう訪問 (講堂)
- 20日(金) 院内他職種交流勉強会 (講堂)
- 25日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 26日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)
能代厚生医療センター運営委員会 (講堂)

《12月》

- 1日(火) 接遇自慢大会 (講堂)
- 2日(水) 病院機能向上委員会 (講堂)
- 5日(土) 緩和ケア研修会 (講堂)
- 7日(月) 感染業務改善発表会 (講堂)
- 14日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 16日(水) 管理者会議 (講堂)
- 23日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 24日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)
- 29日(火) メス納め式 (手術室)

《1月》

- 18日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 20日(水) 管理者会議 (講堂)
- 27日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 28日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)
- 31日(日) 病棟再編に伴う患者移動 (移動開始9時予定)

《2月》

- 8日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 17日(水) 管理者会議 (講堂)
- 24日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 25日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)

《3月》

- 8日(月) キャンサーボード (大会議室)
- 17日(水) 管理者会議 (講堂)
- 24日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 25日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)
- 18日(木) 火災訓練①
- 19日(金) 火災訓練②
- 24日(水) 診療科長会議 (講堂)
- 25日(木) 医局会議 (医局ラウンジ)
- 31日(水) 退職者辞令交付式 (講堂)

主な行事写真

4月



辞令交付式挨拶



辞令交付式



新採用職員辞令交付式



新入職員研修会

8月



対策訓練

9月



接遇研修会

11月



若手プロジェクト他職種勉強会



淳城幼稚園ありがとう訪問

12月



接遇自慢大会

1月



ハートフルスタッフ表彰

3月



火災訓練



研修医修了証授賞式

部 活 動



野球部三病院野球大会

臨床指標

当院は、医療の質の向上を目的として病院の様々な機能を測定・評価しております。平成30年度より日本病院会のQ Iプロジェクトに参加しており、当院独自のデータも含め入手できるデータから臨床指標を作成・公開しています。

なお、他の指標や実績については各診療科ならびに各部門の頁をご参照下さい。一部定義や算式が異なるものもあります。

1 病院全体に関する指標

項 目		実 績	
1	延べ患者数（入院）	H30年	128,135人
定義／計算	実数	R 1 年	129,127人
		R 2 年	118,158人
2	延べ患者数（外来）	H30年	212,045人
定義／計算	実数	R 1 年	205,639人
		R 2 年	186,182人
3	平均在院日数（一般病床）	H30年	14.9日
定義／計算	在院患者数／（新入院患者数＋退院患者数）÷ 2	R 1 年	14.2日
		R 2 年	15.6日
4	平均在院日数（精神病床）	H30年	70.1日
定義／計算	在院患者数／（新入院患者数＋退院患者数）÷ 2	R 1 年	64.3日
		R 2 年	55.8日
5	病床利用率	H30年	77.0%
定義／計算	入院患者数延数／病床許可数×365日	R 1 年	77.3%
		R 2 年	82.4%

2 感染制御に関する指標

項 目		実 績	
1	広域抗菌薬使用時の培養検査実施率	H30年	22.0%
定義／計算	分母のうち、血液等のいずれかの培養検査が実施された件数／手術なしの注射抗菌薬が使用された患者数	R 1 年	33.6%
		R 2 年	43.4%
2	血液培養実施時の2セット実施率	H30年	89.1%
定義／計算	分母のうち血液培養を2セット提出した患者数／血液培養を提出した患者数	R 1 年	88.0%
		R 2 年	78.7%

3 救急医療に関する指標

項 目		実 績	
1	年間救急車受入数	H30年	2,041件
定義／計算	①実数②救急車受入件数／救急車受入要請件数	R 1 年	2,261件
		R 2 年	2,209件
2	救急車応需率	H30年	99.1%
定義／計算		R 1 年	99.3%
		R 2 年	99.3%

4 地域連携に関する指標

項 目		実 績	
1	紹介率	H30年	22.8%
定義／計算	紹介患者数／初診患者数	R 1 年	24.3%
		R 2 年	23.2%
2	逆紹介率	H30年	33.8%
定義／計算	逆紹介患者数／初診患者数	R 1 年	41.0%
		R 2 年	41.4%

5 検査に関する指標

項 目		実 績	
1	術中迅速検査数（組織診、細胞診）	H30年	13件
定義／計算	実数（組織診、細胞診）	R 1 年	4 件
		R 2 年	10件
2	超音波検査数	H30年	12,557件
定義／計算	実数	R 1 年	12,507件
		R 2 年	10,571件

6 栄養に関する指標

項 目		実 績	
1	特別食比率	H30年	27.6%
定義／計算	特別食数／全食事総数	R 1 年	32.7%
		R 2 年	36.7%

7 教育・研修に関する指標

項 目		実 績	
1	認定看護師数	H30年	7名
定義／計算	実数	R 1 年	10名
		R 2 年	10名

8 手術に関する指標

項 目		実 績	
1	手術件数	H30年	1,681件
定義／計算	実数	R 1 年	1,753件
		R 2 年	1,624件
2	全身麻酔件数	H30年	1,123件
定義／計算	実数	R 1 年	1,286件
		R 2 年	1,202件

患者統計表

年度別患者利用状況調

外来

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和 1 年度		令和 2 年度	
	延人員	1 日当 人 員	延人員	1 日当 人 員	延人員	1 日当 人 員	延人員	1 日当 人 員	延人員	1 日当 人 員
内 科	11,782	48.3	11,088	45.4	11,420	47.0	11,179	46.8	10,739	44.2
循 環 器 科	22,502	92.2	24,045	98.5	23,542	96.9	22,883	95.7	20,574	84.7
消 化 器 科	14,865	60.9	13,533	55.5	12,866	52.9	12,527	52.4	12,645	52.0
呼吸器内科	14,026	57.5	14,165	58.1	14,086	58.0	13,362	55.9	11,716	48.2
精 神 科	24,332	99.7	24,268	99.5	25,660	105.6	25,278	105.8	23,189	95.4
小 児 科	8,980	36.8	8,324	34.1	8,245	33.9	7,871	32.9	6,005	24.7
外 科	7,693	31.5	7,824	32.1	7,788	32.0	7,927	33.2	7,940	32.7
呼吸器外科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1,660	6.9	2,581	10.6
心 臓 外 科	303	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳 外 科	7,023	28.8	6,975	28.6	6,382	26.3	5,602	23.4	4,642	19.1
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
整 形 外 科	27,368	112.2	27,179	111.4	27,062	111.4	24,354	101.9	21,521	88.6
形 成 外 科	2,086	8.5	1,904	7.8	1,253	5.2	1,132	4.7	1,087	4.5
皮 膚 科	11,094	45.5	11,070	45.4	10,097	41.6	9,672	40.5	8,511	35.0
泌 尿 器 科	25,488	104.5	25,075	102.8	24,129	99.3	22,356	93.5	23,309	95.9
産 婦 人 科	14,485	59.4	14,996	61.5	13,290	54.7	13,088	54.8	12,356	50.8
眼 科	945	3.9	938	3.8	848	3.5	1,071	4.5	1,218	5.0
耳 鼻 咽 喉 科	11,998	49.2	11,828	48.5	12,058	49.6	12,142	50.8	10,846	44.6
放 射 線 科	1,910	7.8	2,026	8.3	1,550	6.4	1,579	6.6	1,380	5.7
神 経 内 科	1,228	5.0	1,186	4.9	1,138	4.7	1,196	5.0	1,204	5.0
糖尿病・代謝内科	5,448	22.3	5,183	21.2	4,907	20.2	5,076	21.2	4,575	18.8
腫 瘍 内 科	233	1.0	213	0.9	261	1.1	168	0.7	144	0.6
ド ッ ク	5,555	22.8	5,620	23.0	5,463	22.5	5,516	23.1	5,217	21.5
合 計	219,344	899.0	217,440	891.1	212,045	872.6	205,639	860.4	191,399	787.7
前 年 対 比	-732	-3.0	-1,904	-7.8	-5,395	-22.2	-6,406	-26.8	-14,240	-58.6

稼 働 日 数	244	244	243	239	243
---------	-----	-----	-----	-----	-----

入院

	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和1年度		令和2年度	
	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員	延人員	1日当 人 員
内 科	9,206	25.2	8,934	24.5	9,497	26.0	11,226	30.7	8,604	23.6
循 環 器 科	11,680	32.0	13,833	37.9	16,014	43.9	13,885	37.9	12,134	33.2
消 化 器 科	9,192	25.2	8,905	24.4	9,911	27.2	10,124	27.7	12,202	33.4
呼吸器内科	19,344	53.0	17,512	48.0	15,417	42.2	10,889	29.8	9,260	25.4
精 神 科	19,250	52.7	18,205	49.9	17,755	48.6	17,387	47.5	15,890	43.5
小 児 科	2,648	7.3	2,128	5.8	2,222	6.1	1,858	5.1	1,058	2.9
外 科	6,609	18.1	6,537	17.9	8,317	22.8	10,062	27.5	9,529	26.1
呼吸器外科							4,348	11.9	3,895	10.7
心 臓 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
脳 外 科	12,135	33.2	11,323	31.0	9,938	27.2	9,671	26.4	8,689	23.8
麻 酔 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
整 形 外 科	22,195	60.8	25,155	68.9	22,025	60.3	23,418	64.0	22,356	61.2
形 成 外 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
皮 膚 科	777	2.1	539	1.5	718	2.0	1,019	2.8	574	1.6
泌 尿 器 科	8,184	22.4	8,451	23.2	3,862	10.6	5,155	14.1	5,452	14.9
産 婦 人 科	11,210	30.7	10,210	28.0	9,799	26.8	7,390	20.2	6,485	17.8
眼 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
耳 鼻 咽 喉 科	2,959	8.1	2,647	7.3	2,550	7.0	2,591	7.1	2,029	5.6
放 射 線 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
神 経 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
糖尿病・代謝内科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
腫 瘍 内 科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ド ッ ク	154	0.4	150	0.4	110	0.3	104	0.3	78	0.2
合 計	135,543	371.4	134,529	368.6	128,135	351.1	129,127	352.8	118,235	323.9
前 年 対 比	3,923	10.7	-1,014	-2.8	-6,394	-17.5	992	2.7	992	2.7

稼働日数	365	365	365	366	365
------	-----	-----	-----	-----	-----

退院患者統計

(令和2年度)

- ・診療情報管理システムにて集計した。
- ・転科がある場合は転科毎にカウントとした。
- ・大分類については、主病名を I C D - 10 (2013年版) に基づいてコーディングし、集計した。

1. 診療科別・月別・延退院患者数 (科別死亡数・剖検数)

2. 診療科別退院患者率

3. 診療圏別延退院患者数

4. 疾病別・診療科別・延退院患者数 (大分類)

5. 性別・年齢階層別延退院患者数

6. 年齢階層別延退院患者数 (死亡数・剖検数)

7. H28～R2年度診療科別延退院患者数推移

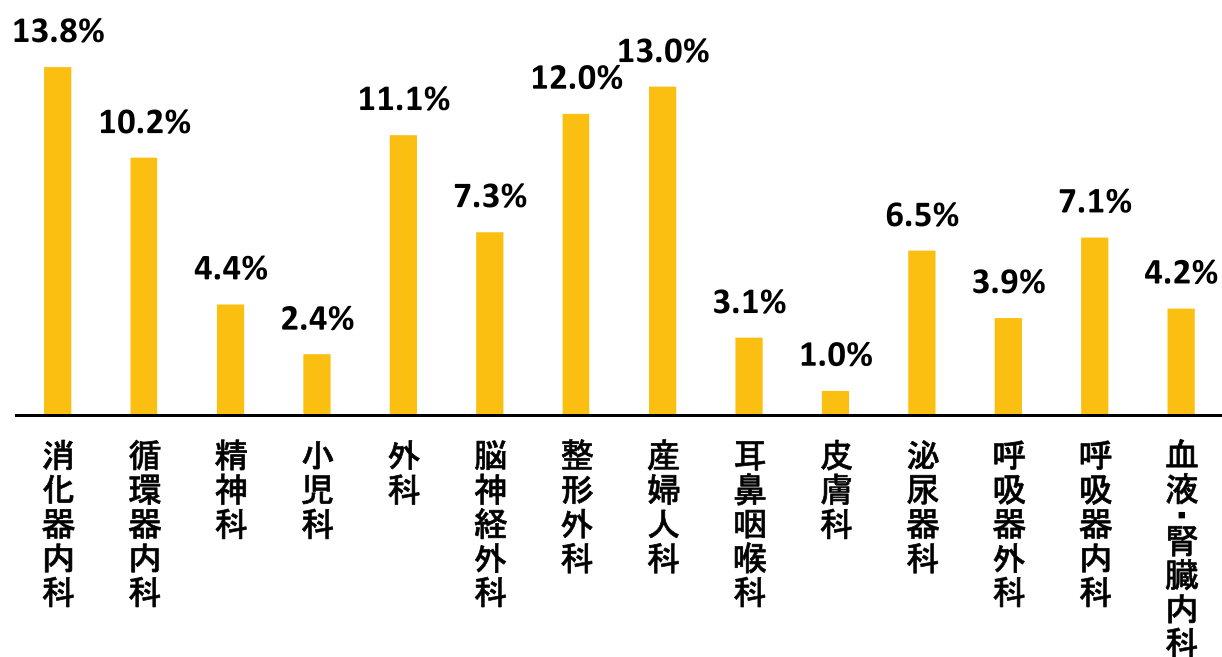
1. 診療科別・月別・延退院患者数（死亡数・剖検数）

能代厚生医療センター

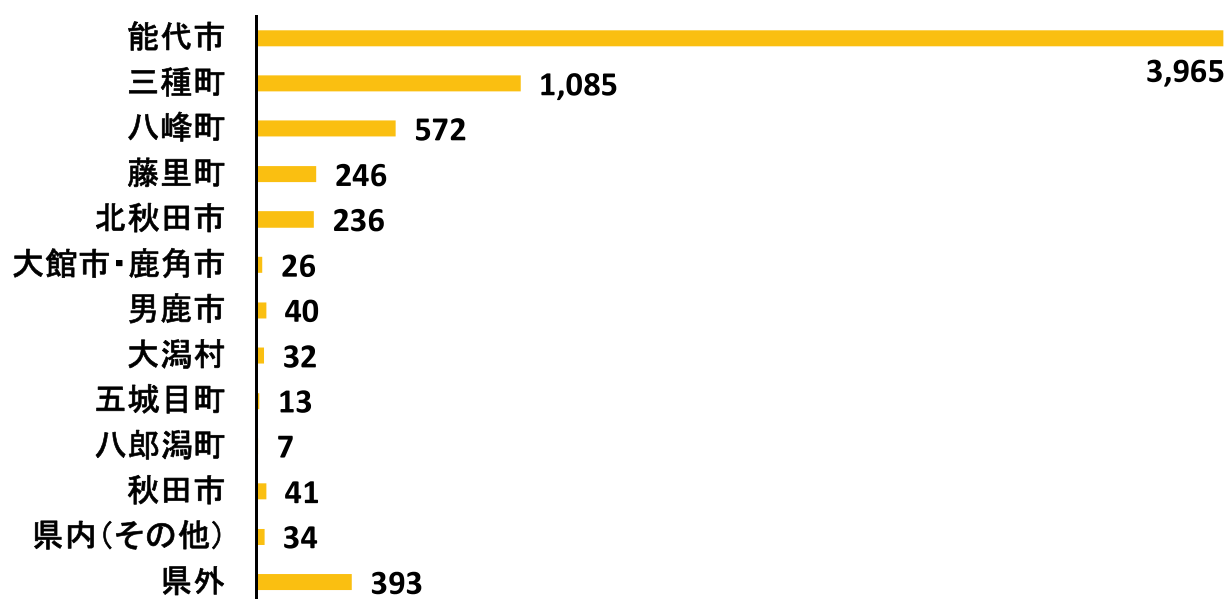
（単位：人）

		合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡	剖検
合 計	合計	6,690	562	517	562	576	561	521	570	524	598	544	544	611	428	1
	男	3,185	277	240	266	275	260	249	263	242	279	261	286	287	239	1
	女	3,505	285	277	296	301	301	272	307	282	319	283	258	324	189	
消 化 器 内 科	合計	925	73	70	91	83	71	80	67	89	86	67	68	80	69	
	男	498	49	34	54	43	34	41	34	44	46	36	40	43	27	
	女	427	24	36	37	40	37	39	33	45	40	31	28	37	42	
循 環 器 内 科	合計	684	61	63	54	53	66	32	55	56	57	62	59	66	58	
	男	386	42	32	31	30	34	15	31	35	30	35	39	32	28	
	女	298	19	31	23	23	32	17	24	21	27	27	20	34	30	
精 神 科	合計	295	25	27	19	29	22	23	26	25	28	20	22	29	5	
	男	111	12	10	7	9	7	7	8	11	12	9	8	11	3	
	女	184	13	17	12	20	15	16	18	14	16	11	14	18	2	
小 児 科	合計	162	10	15	7	14	19	12	17	15	16	14	8	15		
	男	90	5	8	5	9	8	10	11	7	9	7	6	5		
	女	72	5	7	2	5	11	2	6	8	7	7	2	10		
外 科	合計	744	61	60	75	48	46	51	73	52	60	67	84	67	54	
	男	427	38	33	39	27	30	34	41	28	31	37	50	39	34	
	女	317	23	27	36	21	16	17	32	24	29	30	34	28	20	
脳 神 経 外 科	合計	486	42	41	50	44	36	39	41	33	36	37	36	51	47	
	男	258	18	24	28	23	16	26	23	17	21	19	17	26	29	
	女	228	24	17	22	21	20	13	18	16	15	18	19	25	18	
整 形 外 科	合計	801	61	61	58	53	68	74	67	54	82	72	80	71	7	
	男	360	29	23	28	25	36	39	30	32	30	29	32	27	3	
	女	441	32	38	30	28	32	35	37	22	52	43	48	44	4	
産 婦 人 科	合計	872	81	74	72	80	85	71	84	71	65	61	57	71	7	
	男															
	女	872	81	74	72	80	85	71	84	71	65	61	57	71	7	
耳 鼻 咽 喉 科	合計	205	14	9	22	24	10	15	17	19	21	23	16	15	12	
	男	102	4	5	10	12	4	5	7	7	15	10	14	9	6	
	女	103	10	4	12	12	6	10	10	12	6	13	2	6	6	
皮 膚 科	合計	65	9	5	5	9	8	7	5	1	5	4	3	4		
	男	36	6	3	3	5	4	4	4	1	1	1	1	3		
	女	29	3	2	2	4	4	3	1		4	3	2	1		
泌 尿 器 科	合計	437	42	26	35	47	51	30	35	37	37	26	30	41	26	
	男	284	26	19	20	30	35	19	23	18	25	18	21	30	18	
	女	153	16	7	15	17	16	11	12	19	12	8	9	11	8	
呼 吸 器 外 科	合計	258	21	19	22	26	25	26	26	17	20	19	17	20	16	
	男	179	15	17	12	20	18	16	19	10	11	15	12	14	14	
	女	79	6	2	10	6	7	10	7	7	9	4	5	6	2	
呼 吸 器 内 科	合計	472	34	27	32	40	37	31	31	30	62	52	36	60	77	1
	男	311	18	18	21	25	26	21	21	21	40	34	27	39	54	1
	女	161	16	9	11	15	11	10	10	9	22	18	9	21	23	
血液・腎臓内科	合計	284	28	20	20	26	17	30	26	25	23	20	28	21	50	
	男	143	15	14	8	17	8	12	11	11	8	11	19	9	23	
	女	141	13	6	12	9	9	18	15	14	15	9	9	12	27	

2. 診療科別退院患者率



3. 診療圏別延退院患者数



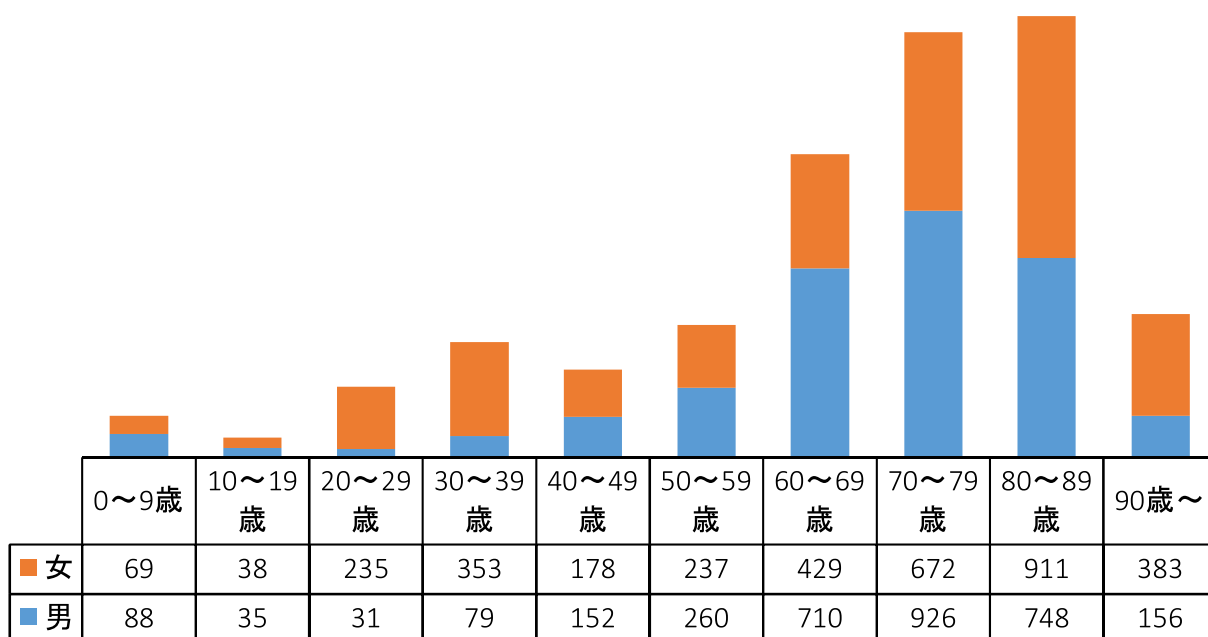
4. 疾病別・診療科別・延退院患者数（大分類）

能代厚生医療センター

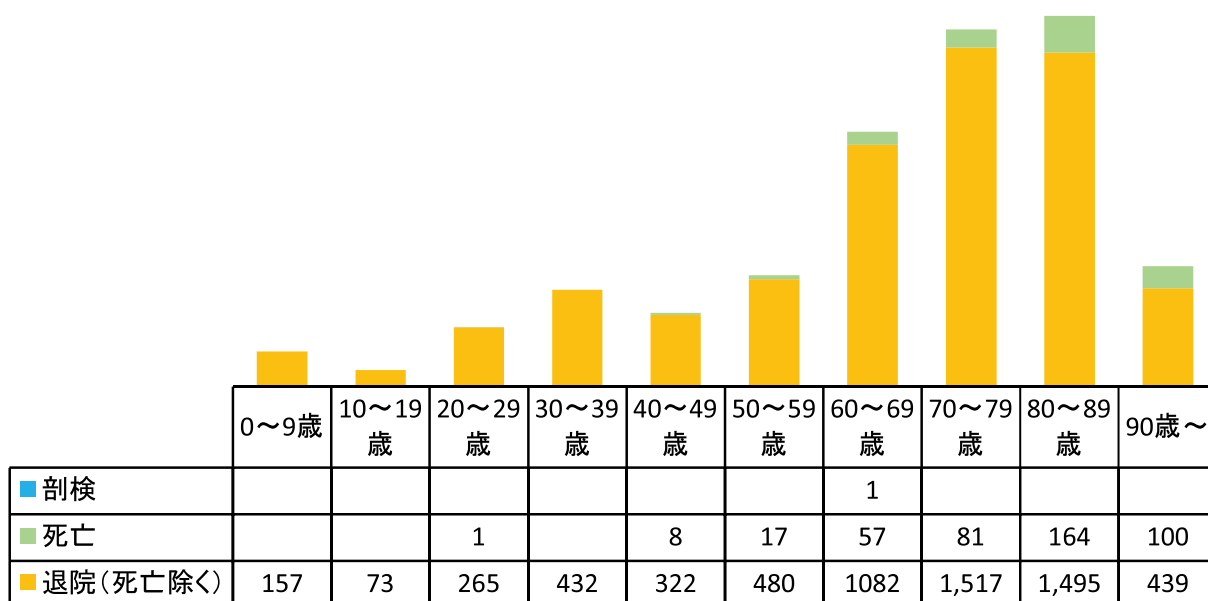
（単位：人）

		合 計	消化器 内 科	循環器 内 科	精神科	小児科	外科	脳神経 外 科	整 形 外 科	産婦人 科	耳 鼻 咽喉科	皮膚科	泌尿器 科	呼吸器 外 科	呼吸器 内 科	血液・腎 臓内科
合計	合計	6,690	925	684	295	162	744	486	801	872	205	65	437	258	472	284
	男	3,185	498	386	111	90	427	258	360		102	36	284	179	311	143
	女	3,505	427	298	184	72	317	228	441	872	103	29	153	79	161	141
01：感染症及び寄生虫 症	合計	123	40	1		25	4	1	1		1	20	1	4	12	13
	男	54	16			10	3	1	1			11	1	2	5	4
	女	69	24	1		15	1				1	9		2	7	9
02：新生物＜腫瘍＞	合計	1,775	358	2		1	407	11	10	334	37	2	138	191	170	114
	男	962	231	1		1	241	6	9		26	1	123	125	129	69
	女	813	127	1			166	5	1	334	11	1	15	66	41	45
03：血液及び造血器の 疾患並びに免疫機 構の障害	合計	43	5	10		2		1	1				1	2	3	18
	男	18	1	5		2		1	1					2	2	4
	女	25	4	5									1		1	14
04：内分泌、栄養及び 代謝疾患	合計	102	22	13	1	7	2	6	7		4	3	4	1	15	17
	男	64	9	8	1	7	2	3	5		3	3	3	1	8	11
	女	38	13	5				3	2		1		1		7	6
05：精神及び行動の障 害	合計	238	2	2	227		2	2	1							2
	男	89	1	2	82		1	1	1							1
	女	149	1		145		1	1								1
06：神経系の疾患	合計	142	2	1	57	3		61	13		3			1		1
	男	73	1	1	24	2		33	8		3			1		
	女	69	1		33	1		28	5							1
07：眼及び付属器の疾 患	合計	1										1				
	男	1										1				
	女															
08：耳及び乳様突起の 疾患	合計	73						1			72					
	男	22									22					
	女	51						1			50					
09：循環器系の疾患	合計	751	10	421	1		2	302	4		1		3	3	2	2
	男	386	4	219	1		1	152	3		1		3	2		
	女	365	6	202			1	150	1					1	2	2
10：呼吸器系の疾患	合計	497	21	47		24	12	11	6		55		13	36	239	33
	男	305	10	30		14	7	6	1		31		6	28	155	17
	女	192	11	17		10	5	5	5		24		7	8	84	16
11：消化器系の疾患	合計	700	407	2		2	275		1	2	4		1	1	1	4
	男	355	200			2	144		1		2		1	1	1	3
	女	345	207	2			131			2	2					1
12：皮膚及び皮下組織 の疾患	合計	59	1	1		2	6	1	14	1		27		1		5
	男	27		1		1	2	1	7			14		1		
	女	32	1			1	4		7	1		13				5
13：筋骨格系及び結合 組織の疾患	合計	314	4	5		3		1	283		2	2				14
	男	152	1	4		2			139		1	1				4
	女	162	3	1		1		1	144		1	1				10
14：腎尿路生殖器系の 疾患	合計	357	8	9		9	10	1	1	33			250	1	5	30
	男	163		2		5	8						132			16
	女	194	8	7		4	2	1	1	33			118	1	5	14
15：妊娠、分娩及び産 じょく（褥）	合計	495								495						
	男															
	女	495								495						
16：周産期に発生した 病態	合計	51				51										
	男	28				28										
	女	23				23										
17：先天奇形、変形及 び染色体異常	合計	28		10		6	7			1	1		2		1	
	男	18		9		2	7									
	女	10		1		4				1	1		2		1	
18：症状、徴候及び異常臨 床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	合計	162	27	30	1	13	4	11	1	4	17	1	16	4	10	23
	男	72	9	16	1	5	2	7	1		6		7	4	4	10
	女	90	18	14		8	2	4		4	11	1	9		6	13
19：損傷、中毒及びそ の他の外因の影響	合計	616	17	10	8	14	11	73	433	2	8	9	8	13	2	8
	男	288	14	7	2	9	8	46	165		7	5	8	12	1	4
	女	328	3	3	6	5	3	27	268	2	1	4		1	1	4
20：傷病及び死亡の外 因	合計	151	1	120			2	3	25							
	男	102	1	81			1	1	18							
	女	49		39			1	2	7							
21：健康状態に影響を 及ぼす要因及び保 健サービスの利用	合計	12													12	
	男	6													6	
	女	6													6	
22：特殊目的用コード	合計	2													2	
	男	1													1	
	女	1													1	

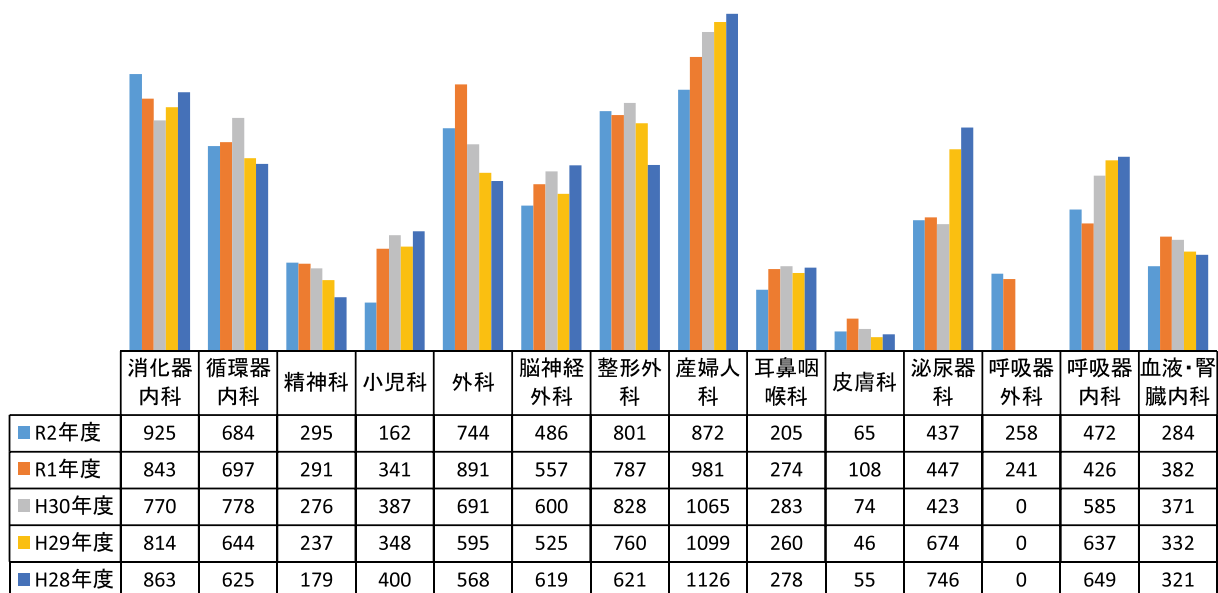
5. 性別・年齢階層別延退院患者数



6. 年齢階層別延退院患者数（死亡数・剖検数）



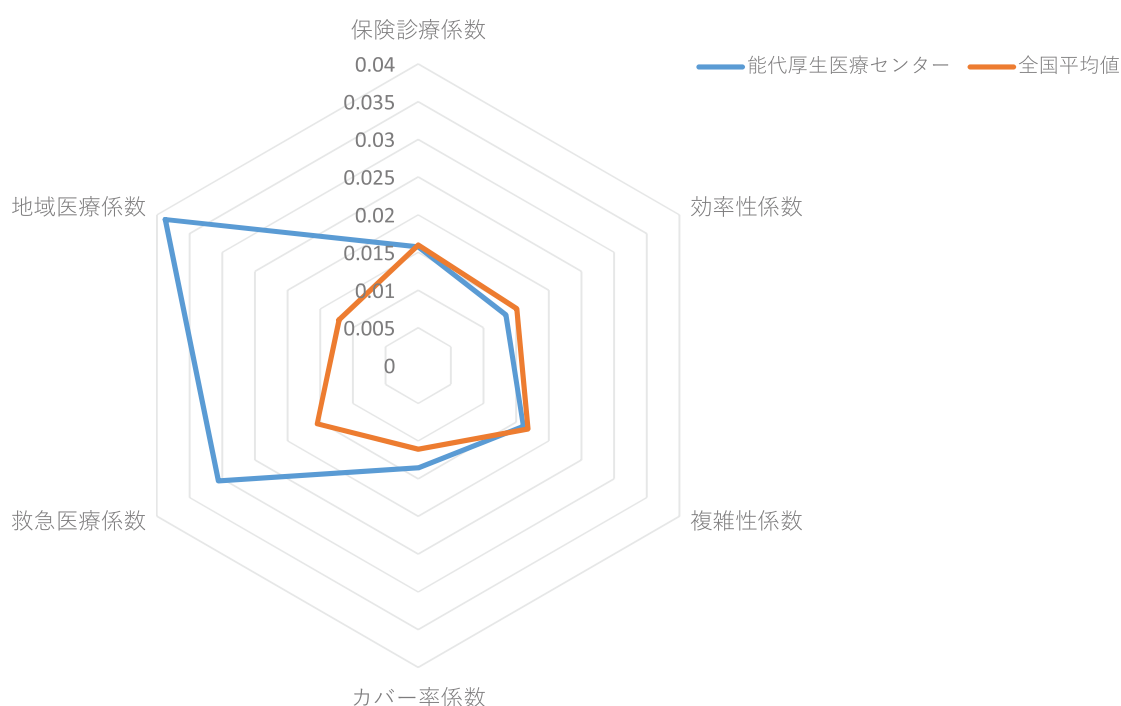
7. 診療科別延退院患者数推移



D P C 医療機関別係数について

1. 令和2年度D P C 医療機関別係数：1.40380
2. 令和2年度D P C 医療機関別係数内訳
 - 1) 基 礎 係 数：1.4040 ※D P C 標準病院群の診療機能を評価した係数
 - 2) 機能評価係数Ⅰ：0.27900 ※施設基準の取得状況により設定される係数
 - 3) 機能評価係数Ⅱ：0.12810

3. 令和元年度機能評価係数Ⅱの内訳



	保険診療係数	効率性係数	複雑性係数	カバー率係数	救急医療係数	地域医療係数
能代厚生医療センター	0.01575	0.0134	0.0161	0.01356	0.03059	0.03873
全 国 平 均 値	0.01599	0.0151	0.0168	0.01108	0.01547	0.01212

各係数の説明

保険診療係数：D P C 対象病院における、適切なD P C データの提出などを評価

効 率 性 係 数：各医療機関における在院日数短縮の努力を評価

複 雑 性 係 数：1 入院あたりの医療資源投入の観点から見た患者構成への評価

カバー率係数：様々な疾患に対応できる総合的な耐性についての評価

救急医療係数：救急医療（緊急入院）の対象となる患者治療に要する資源投入の解離を評価

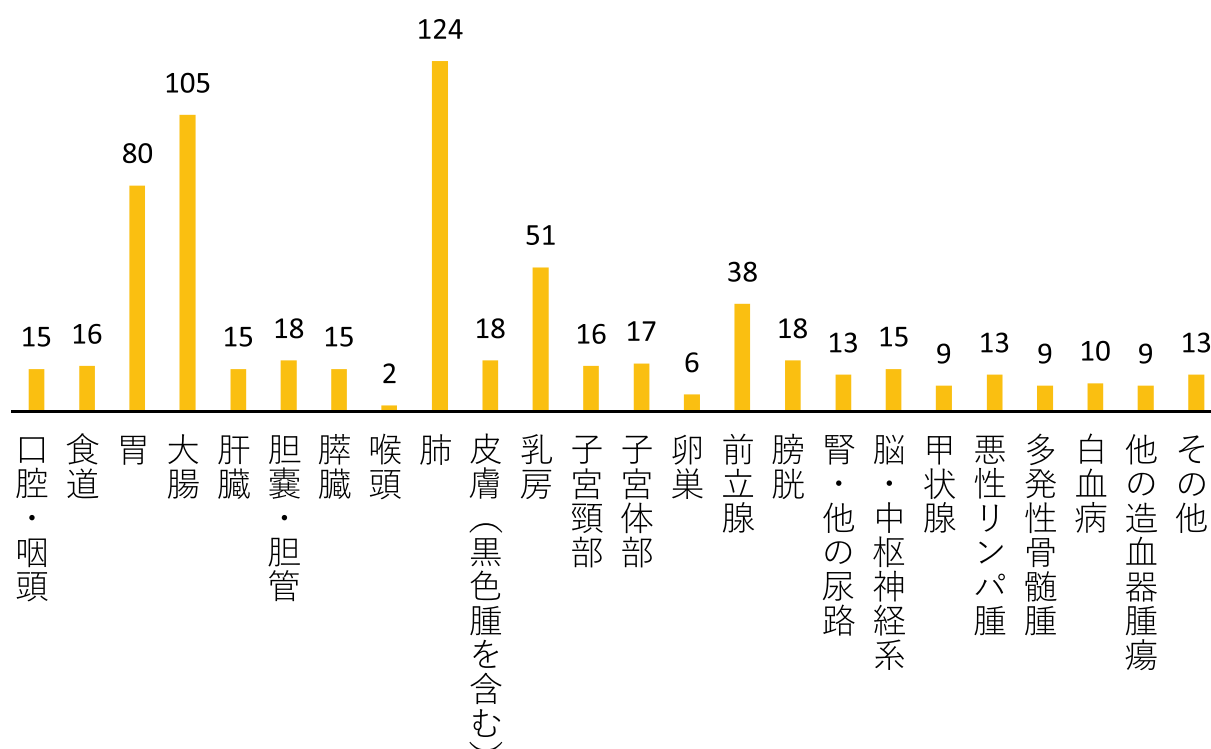
地域医療係数：地域医療への貢献を評価

院内がん登録統計

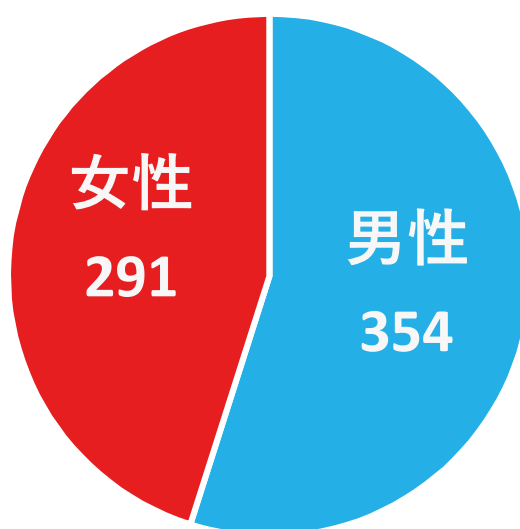
- ・「がん診療連携拠点病院等 院内がん登録 標準登録様式 2016年版」に基づき登録・集計した。
- ・部位及び組織診断コードについては I C D - O - 3 (international classification of Diseases for Oncology, Third Edition) により分類した。
- ・1腫瘍1登録で、入院・外来共通登録対象とした。
- ・登録にあたってはレセプト病名及びD P C病名から登録候補を抽出した。
- ・登録・集計は、院内がん登録システム (Hos-CanR Next) にて行った。
- ・2020年が診断年となるもので集計した。
(自施設診断：診断日、他施設診断：当院への初診日)
- ・部位分類は国立がん研究センターの院内がん登録調査「部位分類コード対応」に基づき分類した。

1. 部位別登録件数
2. 性別登録件数
3. 地域別登録件数
4. 年齢階層別登録件数
5. 部位別・性別登録件数 (上位10部位)
6. 主要5部位性別登録件数
7. 主要5部位年齢階層別登録件数
8. 主要5部位組織別登録件数

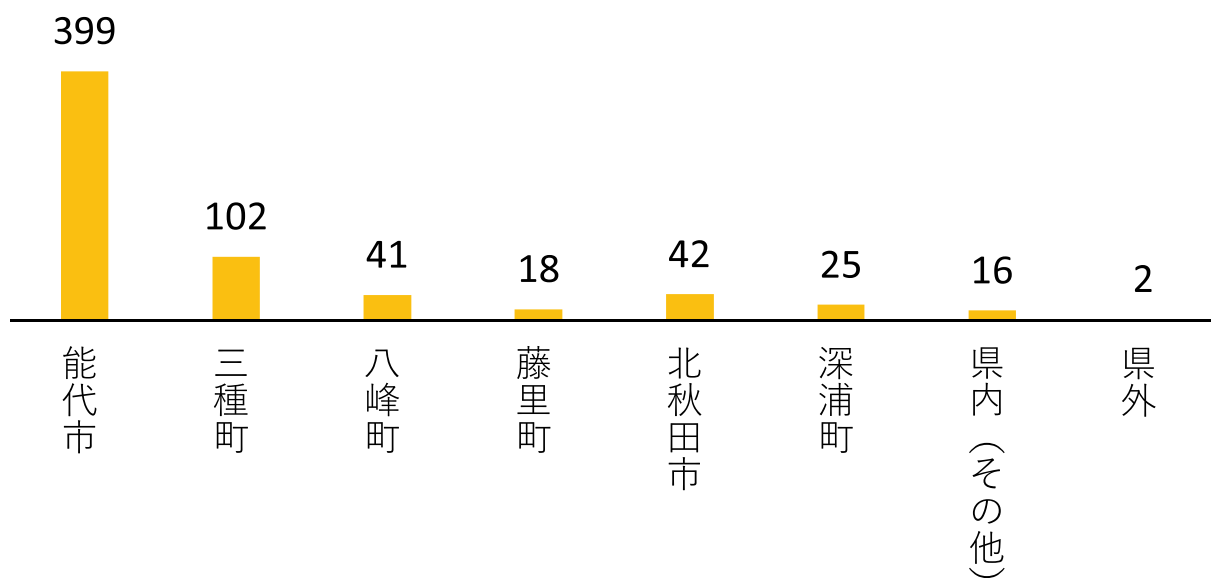
1. 部位別登録件数



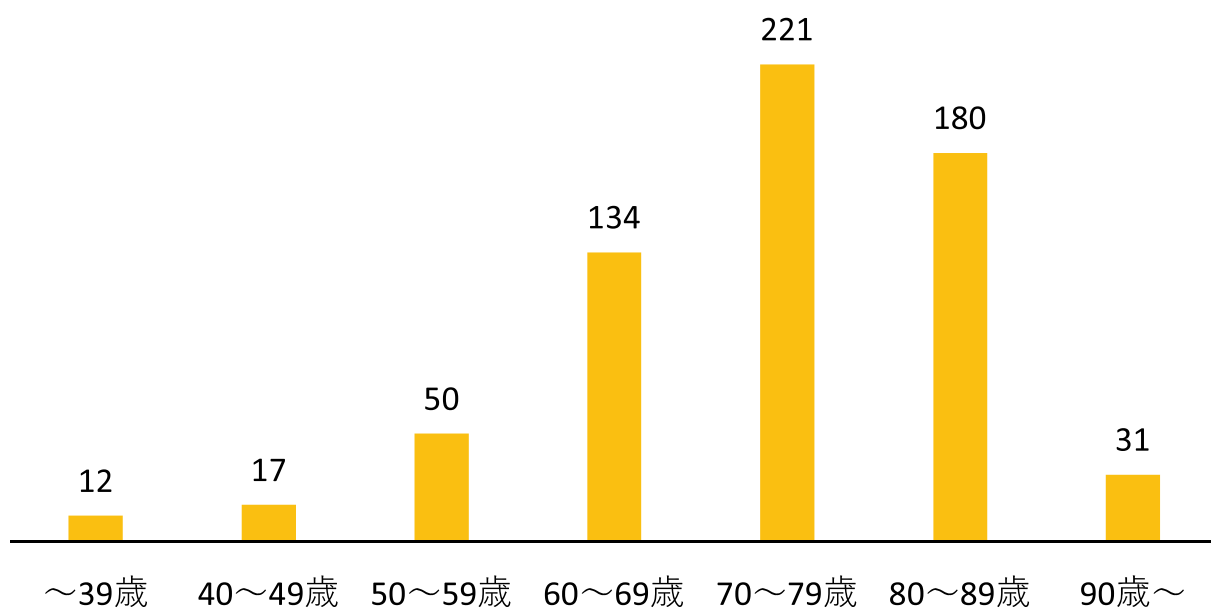
2. 性別登録件数



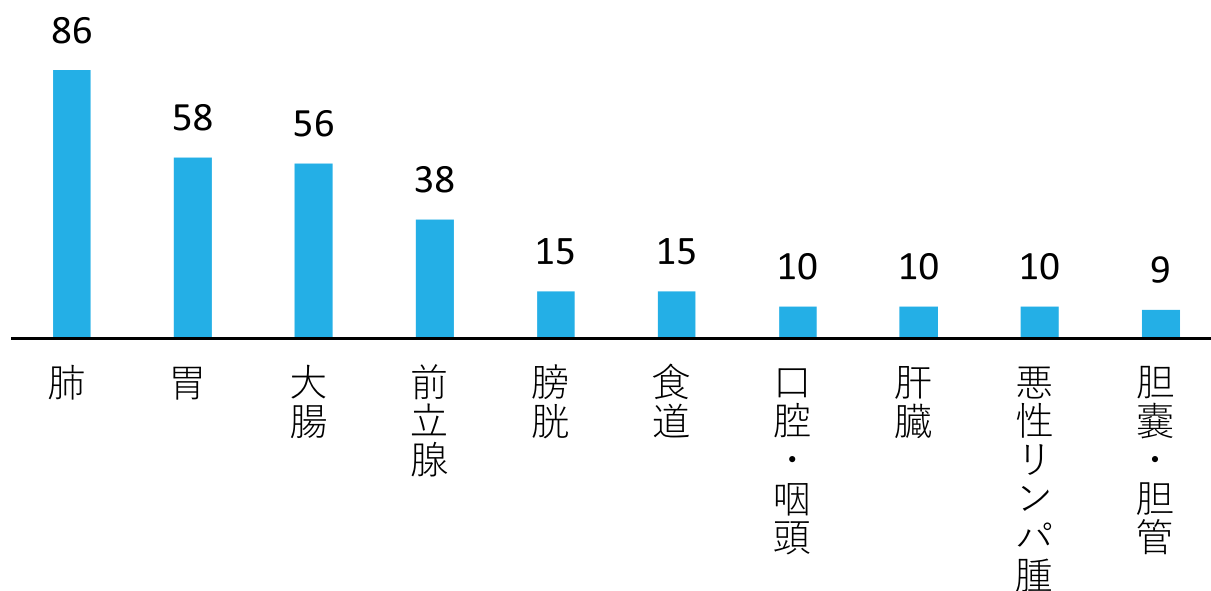
3. 地域別登録件数



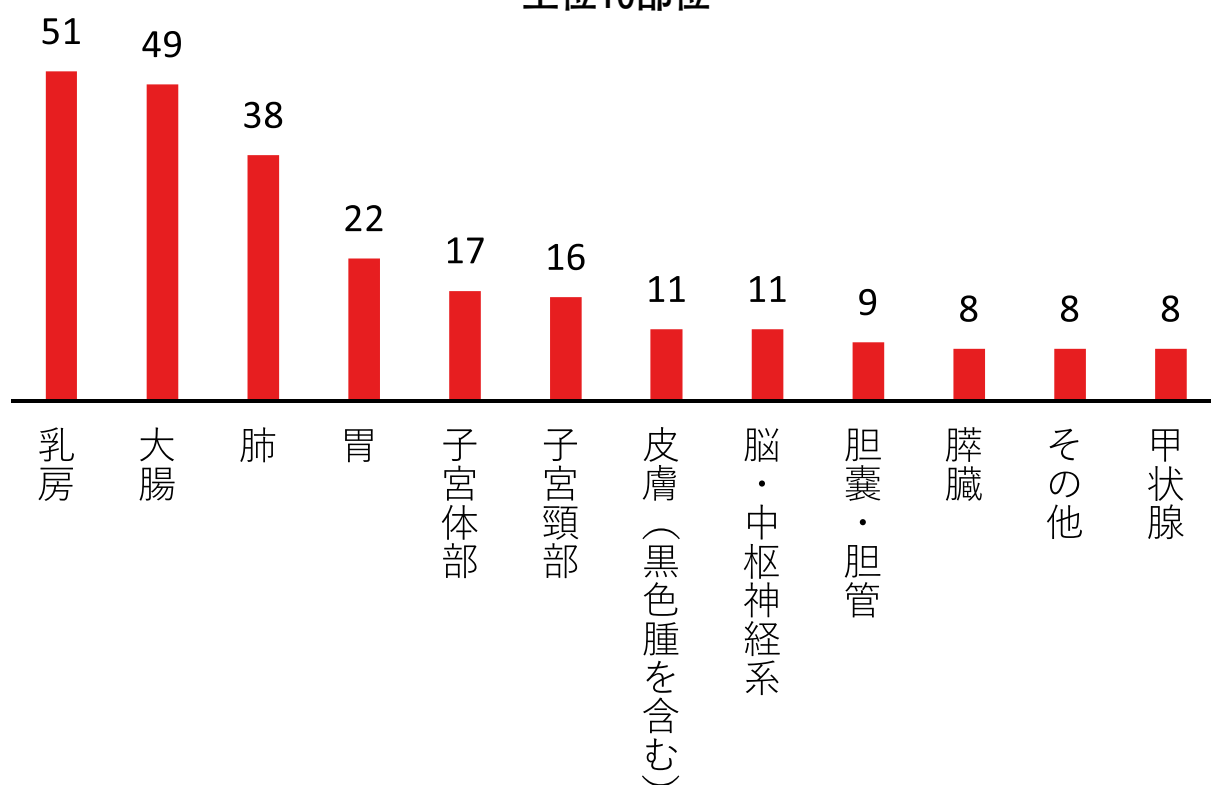
4. 年齢階層別登録件数



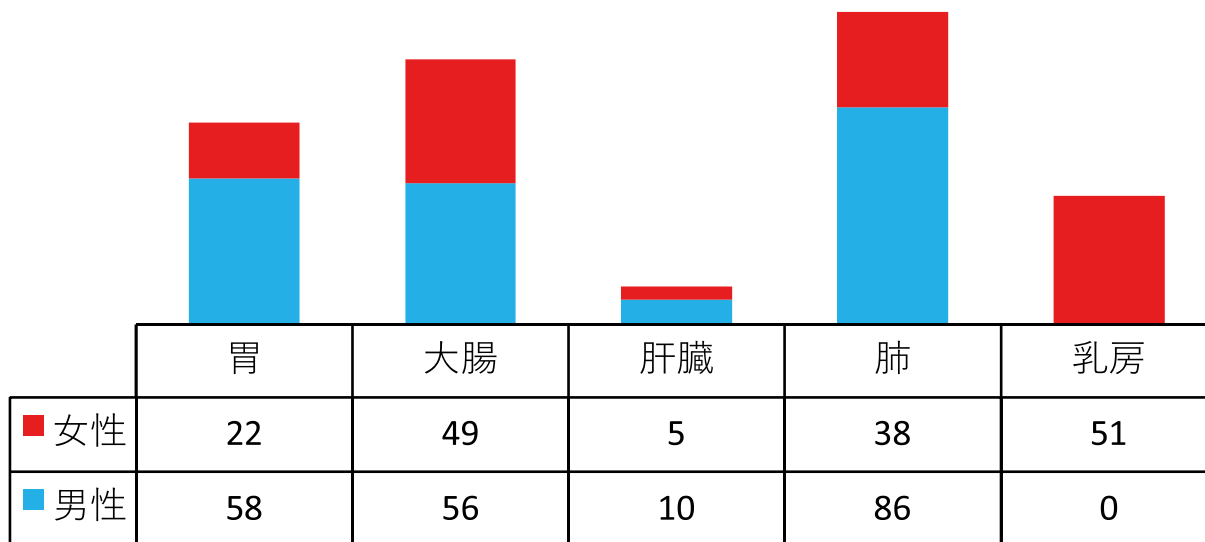
5. 部位別・性別登録件数（男性） 上位10部位



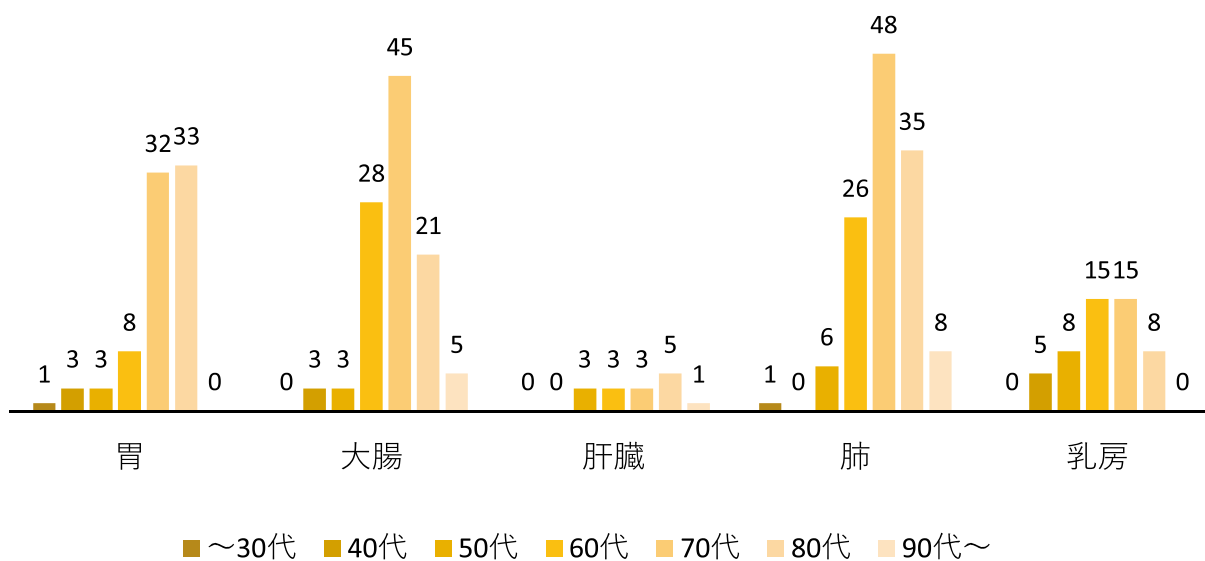
5. 部位別・性別登録件数（女性） 上位10部位



6. 主要5部位性別登録件数



7. 主要5部位年齢階層別登録件数



8. 主要5部位組織別登録件数

局在名称	組織コード	組織診断名	男性	女性	計
胃	8000／3	新生物、悪性	1	1	2
	8140／3	腺癌	13	4	17
	8211／3	管状腺癌	43	15	58
	8260／3	乳頭腺癌	1	0	1
	8490／3	印環細胞癌	0	1	1
	8936／3	胃腸管間質腫瘍（GIST）	0	1	1
大腸	8000／3	新生物、悪性	2	3	5
	8140／2	上皮内腺癌	18	7	25
	8140／3	腺癌	12	14	26
	8211／2	上皮内管状腺癌	4	1	5
	8211／3	管状腺癌	20	20	40
	8240／3	カルチノイド腫瘍	0	1	1
	8260／3	乳頭状腺癌	0	2	2
	8480／3	粘液腺癌	0	1	1
肝臓	8170／3	肝細胞癌	9	4	13
	8160／3	肝内胆管癌	1	1	2
肺	8041／3	小細胞癌	13	1	14
	8070／3	扁平上皮癌	13	1	14
	8071／3	扁平上皮癌，角化	1	0	1
	8140／3	腺癌	23	18	41
	8230／3	充実型腺癌	4	0	4
	8250／3	微小浸潤腺癌	2	3	5
	8260／3	乳頭型腺癌	21	9	30
	8550／3	腺房型腺癌	1	1	2
	8000／3	新生物、悪性	8	5	13
乳房	8480／3	粘液癌	0	1	1
	8500／2	非浸潤性乳管癌	0	5	5
	8500／3	浸潤性乳管癌	0	43	43
	8520／3	浸潤性小葉癌	0	1	1
	8401／3	アポクリン癌	0	1	1

各科紹介

血液・腎臓内科 リウマチ科

文責 波多野善明

【スタッフ紹介】

2020年4月～2021年3月の担当

役 職	医師氏名	資 格	専 門
副 院 長	波多野善明	日本内科学会認定 総合内科専門医 日本内科学会認定 認定内科医 日本血液学会認定 血液専門医	血液内科
科 長	伊藤 貢	日本内科学会認定 認定内科医	血液内科
医 員	山田 雅弘		血液内科

【診療科紹介】

血液疾患、腎疾患、膠原病を専門分野とし、診療患者は外来・入院とも8割以上が専門分野の患者となっている。診療圏は例年通り、湖東総合病院以北の秋田県北部と青森県深浦町までの日本海沿岸に及んでいる。

2020年度の入院は波多野、伊藤 貢、山田雅弘が担当した。外来は波多野、伊藤、山田；血液疾患担当担当で、非常勤医師として秋田大学 血液腎臓膠原病内科 加賀 一先生に毎週木曜午前の腎・膠原病専門外来、山下鷹也先生に毎週金曜午前の血液専門外来を担当して頂いた。

【診療実績】

2020年4月～2021年3月における入院患者の主な疾患名を示す。血液疾患と腎・膠原病が大半を占めるが、感染症、内分泌疾患、固形癌など多岐に渡っている。

※2018年4月～2021年3月データ

患 者 数 実 績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	9,497	11,226	8,604
《1日平均》	26	30.8	23.6
外来患者数	11,420	11,179	10,739
《1日平均》	47.8	46.8	44.2
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
非ホジキンリンパ腫	91	89	48
骨髄異形成症候群	26	29	20
多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	21	25	24
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	18	23	9
肺炎等	13	21	14
重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	10	17	10
ネフローゼ症候群	6	12	8
急性白血病	19	11	12
体温異常	11	10	3
慢性白血病、骨髄増殖性疾患	10	9	—

【学会発表、論文、講演、その他発表、研修会など】

《学会発表》

- ①肺腺癌に対するPembrolizumab治療経過中に発症した血球貪食症候群

山田雅浩，波多野善明，坂本祥，伊藤貢，高橋直人

第222日本内科学会東北地方会、2021年2月20日仙台

《論文発表》

- ①進行性多巣性白質脳症（PML）の合併が疑われた骨髓異形成症候群（MDS）の剖検例

竹内 明、石塚 悠、村上 正代、倉橋保奈美、加賀 一、波多野善明

日本内科学会雑誌 今月の症例、第110巻8号、1641－1648.

【学 会 活 動】

波多野善明：日本内科学会認定医制度教育関連病院 教育責任者

日本内科学会 指導医

日本血液学会 指導医

伊藤 貢：日本内科学会 指導医

【地域における活動】

波多野善明：秋田県厚生連臨床研修協議会 副会長

秋田県臨床研修協議会 委員

日本骨髓バンク調整医師

【ま と め】

2018年度は、2019年2月16日に開催された第216回日本内科学会東北地方会において、当科指導のもと初期研修医 窪田有紗が発表した演題が優秀賞に賞された。2019年度は、2020年2月22日に開催された第219回日本内科学会東北地方会において当科指導のもと初期研修医 竹内 明が発表した演題が、「教育的見地から優れた臨床報告」として日本内科学会からの依頼により「日本内科学会雑誌 今月の症例」に掲載された（日本内科学会雑誌 今月の症例、第110巻8号、1641－1648）。

今年度は、第222回日本内科学会東北地方会において血液専攻医 山田雅弘が発表した演題が、同じく「教育的見地から優れた臨床報告」として、日本内科学会からの依頼により同雑誌に掲載されることとなった。

これからも臨床、研修医・専攻医指導等、診療の充実に努めたい。

秋田大学循環器内科より派遣された医師5名で外来・入院診療を行っております。

午前の外来診療については、秋田大学第循環器内科より応援医師に来ていただき3診体制で行い、午後は主に検査・手術を予定しています。

入院診療で扱う疾患としては、心筋梗塞、狭心症、洞不全症候群、房室ブロック、心房粗細動、心室頻拍、肥大型心筋症、拡張型心筋症、心筋炎、末梢動脈病変、深部静脈血栓症が主にあげられます。

令和2年度より急性冠症候群に対する緊急PCIを施行させていただいております。

令和年1月1日から令和2年12月31日までの主な検査・手術件数は以下になっております。

【診療実績】

患者数実績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	16,014	13,885	12,134
《1日平均》	43.8	37.9	33.2
外来患者数	23,542	22,883	20,574
《1日平均》	96.9	95.7	84.7
ペースメーカー新規植え込み	30	21	22
ペースメーカー電池交換	18	30	24
心臓カテーテル検査	198	197	164
新規入院患者数 主な内訳 MDC6別			
心不全	237	172	146
狭心症、慢性虚血性心疾患	141	155	154
徐脈性不整脈	54	59	50
閉塞性動脈疾患	37	43	32
頻脈性不整脈	53	43	50
肺炎等	30	34	21
弁膜症（連合弁膜症を含む。）	25	32	27
誤嚥性肺炎	5	12	12
解離性大動脈瘤	7	9	8
急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再発性心筋梗塞	16	8	37

【主な検査・手術件数】

心臓カテーテル検査	198件	経食道エコー	9件
冠動脈インターベンション	65件	心筋シンチ	34件
内 緊急PCI	18件	冠動脈CT	116件
待機PCI	65件	心臓MRI	10件
ペースメーカー植込み術	21件	PWV／ABI	1171件
ジェネレーター交換術	24件		
末梢血管形成術（PPⅠ）	10件		
IVCフィルター	10件		
心臓超音波検査	4041件		

消化器内科

文責 藤島 裕耕

【スタッフ紹介】

R.2.4-10 藤島、岡本、平井、青川、沢口 医師

R.2.10-R.3.3 藤島、岡本、青川、沢口 医師

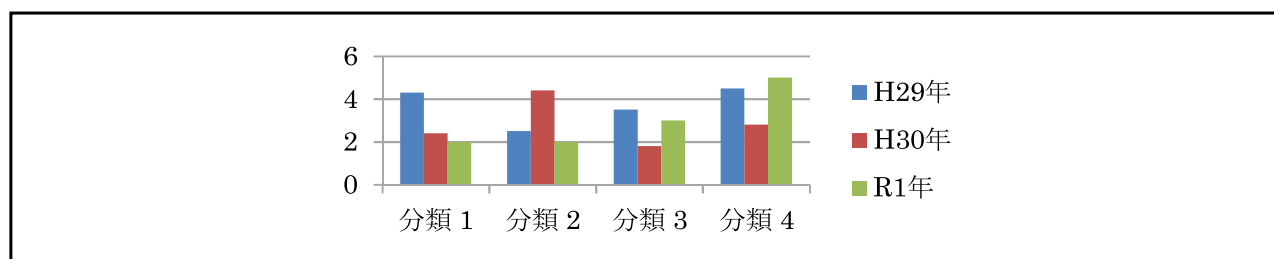
【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	平成31年度	令和2年度
延入院患者数	8,905	10,124	12,020
《1日平均》	24.4	27.7	32.9
外来患者数	13,533	12,527	12,645
《1日平均》	55.7	52.4	52
小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	134	154	36
胆管（肝内外）結石、胆管炎	70	80	129
ヘルニアの記載のない腸閉塞	28	42	24
胃の悪性腫瘍	43	40	72
胆嚢水腫、胆嚢炎等	35	38	32
ウイルス性腸炎	23	33	26
胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	36	29	31
食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	33	29	32
膵臓、脾臓の腫瘍	31	27	22
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	11	24	29
内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	120	148	27
内視鏡的胆道ステント留置術	46	47	50
内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	33	34	47
内視鏡的消化管止血術	46	31	49
内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	36	24	47
内視鏡的胆道結石除去術（胆道碎石術を伴うもの）	5	17	15
内視鏡的乳頭切開術（胆道碎石術を伴う）	14	14	15
下部消化管ステント留置術	3	10	11
内視鏡的胆道結石除去術（その他のもの）	5	10	13
胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む）	8	9	7

《学会発表》

年 月 日	学 会 名	題 名	発 表 者
R 3 年 3 月 19 日	肝硬変診療若手勉強会	『当院における肝硬変患者のマネジメント』	座長 藤島裕耕
R 2 年 8 月 28 日	秋田県消化器リモート研究会	『つかえ感で来院し、EUS-FNAをした食道巨大粘膜下腫瘍の一例』	松本 陽平
R 2 年 8 月 28 日	秋田県消化器リモート研究会	『原発性硬化性胆管炎に合併したと考えた胆管癌の一例』	鈴木 陽子

令和1年度内訳（経年3年程度）



【診療科コメント】

本年度は、新たに秋田大学消化器内科より青川医師（平成29年卒）と秋田厚生医療センターの地域枠研修として沢口医師（平成28年卒）が加わり診療を行った。また毎週木曜日秋田大学より内視鏡診療で吉田医師（平成25年卒）の応援があった。

平均年齢が、若返り技術の習得や経験を積むことに積極的であり、充実した診療ができたと思っている。やはり一定の診療レベルの維持には、スタッフの人数が必要であると痛感した。世間ではコロナに伴う診療縮小や検査、入院の必要性の見直しが提言されていたが、幸い当地区の感染に影響は少なく、当科でも大きな影響はなかった。一方、病院の方針である外来診療の縮小化で、外来患者を他院への紹介が増えた。いわゆる地域連携の強化と考えている。

今後はコロナの終息となり、学会や人的交流が復活することが予想される。地域中核病院として期待に応えるよう頑張りたい。

呼吸器外科

文責 松崎 郁夫

【スタッフ紹介】

診療部長 松崎 郁夫

医 員 栗山 章司

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和 1 年度	令和 2 年度
延入院患者数	—	4,348	3,895
《 1 日平均》	—	11.9	10.7
外来患者数	—	1,660	2,581
《 1 日平均》	—	6.9	10.6
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
肺の悪性腫瘍	—	156	179
気胸	—	12	11
肺炎等	—	12	8
間質性肺炎	—	8	1
播種性血管内凝固症候群	—	5	—
肺・胸部気管・気管支損傷	—	5	12
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	—	4	2
誤嚥性肺炎	—	3	4
呼吸器系の良性腫瘍	—	3	8
縦隔の良性腫瘍	—	3	—
主な手術（入院）			
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超える）	—	40	37
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	—	7	6
胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	—	7	4
胸腔鏡下肺切除術（その他）	—	4	—
胸腔鏡下試験切除術	—	3	6
気管切開術	—	3	2
胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術	—	2	—
中心静脈注射用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	—	1	—
肺縫縮術	—	1	—
肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超える）	—	1	1
肺の悪性腫瘍	—	4,348	3,895
気胸	—	11.9	10.7
肺炎等	—	1,660	2,581
間質性肺炎	—	6.9	10.6
播種性血管内凝固症候群	—		
肺・胸部気管・気管支損傷	—	156	179
縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	—	12	11
誤嚥性肺炎	—	12	8

呼吸器内科

文責 金田 浩人

【スタッフ紹介】

診療部長／I C D 金田 浩人
科 員／4月～ 坂本 祥
10月～ 長谷川幸保

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	15,417	10,889	9,260
《1日平均》	42.2	29.8	25.4
外来患者数	14,088	13,362	10,739
《1日平均》	58	55.9	44.2
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
肺の悪性腫瘍	121	116	156
肺炎等	210	82	68
間質性肺炎	36	49	34
喘息	15	27	8
慢性閉塞性肺疾患	16	25	19
胸水、胸膜の疾患（その他）	9	14	16
肺・縦隔の感染、膿瘍形成	9	14	8
誤嚥性肺炎	55	11	35
体温異常	9	9	—
体液量減少症	4	8	3

精神科

文責 澤田 尚子

【スタッフ紹介】

精神科外来 計10名

医師 4 名、看護師 2 名、外来クラーク 2 名、事務 2 名

診療部長：齋藤 英知（精神保健指定医、専門医、指導医、精神保健判定医）

医 長：野澤 宏二（精神保健指定医、専門医、指導医）

科 長：山田 篤（精神保健指定医、専門医、指導医）

科 長：佐藤 優真（精神保健指定医、専門医）

科 長：工藤 瑞樹（専門医）

【部門紹介】

主な疾患として統合失調症、気分障害（躁うつ病など）、アルコール依存症、認知症などの治療をおこなっています。また能代・北秋田地域の精神科救急医療を担っており、夜間休日の緊急入院にも対応しています。退院後のスムーズな地域移行を目指し、入院診療、病棟作業療法、精神保健福祉士による退院 支援、精神科デイケアとの連携による継続的な支援を行っています。

【入院診療】

病状安定までの保護及び安静のため病棟は閉鎖病棟となっております。うつ病、躁うつ病、統合失調症、行動・心理症状を伴った認知症、神経症などの患者さんが入院治療を行っております。

精神科薬物治療法と入院精神療法が中心ですが、薬物難治例や精神症状により食事も取れない状態の方など適応のある患者さんに対しては麻酔科医の協力のもと、修正型電気けいれん療法（m-E C T）を行っております。病状の安定化、対人交流・社会性の改善、日常生活の援助などを目的としてH23年11月より病棟作業療法が開始となりました。

【その他の治療】

- ・コンサルテーション・リエゾン精神医学
- ・緩和ケアにおける精神的なケア
- ・精神科救急（能代・北秋田精神科救急医療圏拠点病院、身体合併症対応病院）
- ・クロザピンによる治療（血液腎臓内科医などの協力による）
- ・認知症疾患医療センター

【臨床心理士による心理面接・心理検査】

医師からの依頼に応じて、臨床心理士が心理面接、心理検査を実施しています。当科における心理面接、心理検査は精神科医師による治療を受けている患者が前提であり、検査の目的や面接目標、経過について、主治医や外来・病棟スタッフと情報を共有しながら行っています。最近は、小児科や神経内科からの依頼で心理検査を実施する例も増えています。

【診療実績：R2／4～R3／3】

	1日平均人数	備 考
外来患者人数	95.4名	※稼働日数のほとんどが1日100名以上。多い日は1日150名を超える。

精神科デイケア

文責 澤田 尚子

【スタッフ紹介】

精神科デイケア	計5名
専従看護師	2名
専従作業療法士	1名
専従臨床心理技術者	1名
専任臨床心理技術者	1名

【部門紹介】

H22年12月から精神科デイケア（小規模）、H23年4月から精神科デイケア（大規模）として開設。毎週月曜日から金曜日（土日・祝日を除く）まで活動しています。『今よりもっと、自分らしく、いきいきと生活できる』ことを目的とし、安心して病気や対人関係などについて相談できる環境の提供、手工芸や季節の行事、外出プログラムなどのレクリエーションを通じた余暇活動の提供、料理や体力作りなどの生活技能訓練、精神疾患や障害に配慮した就労支援活動を行っています。

【稼働実績：R2／4～R3／3】

	1日平均人数	備 考
デイケア参加人数	9.1名	※新型コロナウイルス流行に伴い、1日の参加者を12名に制限している

【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

《講演会・研修会》

名 称	テ ー マ	講 師	開 催 日	会 場	事務局
新人教育 メンタル研修	①アイスブレイキング（コミュニケーションゲーム）	齊藤 知裕	R2年4月13日	講 堂	副師長会
	②自分の心のバランスを知ろう	齊藤 知裕	R2年6月19日	講 堂	副師長会
	③クレーム対応について	澤田 尚子	R2年8月7日	精 神 科 デ イ ケ ア	副師長会
2年目 フォローアップ研修	①メンタルヘルスを保つために	澤田 尚子	R2年7月20日	講 堂	継続教育 委 員 会
	②メタ認知について	齊藤 知裕	R2年11月20日	講 堂	継続教育 委 員 会
3年目 フォローアップ研修	①就職3年目について	澤田 尚子	R2年8月17日	講 堂	継続教育 委 員 会
プリセプター・エルダーカンファレンス	①コミュニケーションについて	澤田 尚子	R2年10月9日	講 堂	

《出前講座など 地域における活動》

題 名	演 者 名	開 催 日	開 始 時 間	会 場	依頼者
保健所相談	医師 齋藤 英知	毎月1回	14時～15時	保 健 所	保 健 所

小 児 科

【スタッフ紹介】

科 長 近野 勇樹

医 長 成田 鮎子（～令和2年4月30日）

医 員 坂口 裕紀（令和2年4月1日～）

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	2,222	1,858	1,058
《1日平均》	6.1	5.1	2.9
外来患者数	8,245	7,871	6,005
《1日平均》	33.9	32.9	24.7
新規入院患者数 主な内訳 MDC6別			
新生児疾患（低出生体重、新生児仮死、黄疸など）	95	52	44
ウイルス性腸炎	68	48	14
上気道炎	49	47	17
急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	59	46	3
喘息	13	18	4
熱性けいれん	26	17	8
てんかん	8	16	2
インフルエンザ、ウイルス性肺炎	1	14	—
その他の感染症（真菌を除く。）	8	9	8
腎臓または尿路の感染症	4	8	4

外科

文責 西成 悠

【スタッフ紹介】

役 職	医師氏名	資 格	専 門
科 長	加藤久仁之	日本外科学会指導医・専門医 日本消化器外科学会 指導医・専門医 日本大腸肛門病学会指導医・専門医 日本内視鏡外科学会 技術認定医 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 マンモグラフィー読影認定医 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会 ストーマ認定士	消化器外科（大腸） 内視鏡外科 一般外科 大腸癌化学療法
科 長	西成 悠	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 マンモグラフィー読影認定医	消化器外科（胃） 内視鏡外科 一般外科 胃癌化学療法
科 員	高橋 真人	マンモグラフィー読影認定医	消化器外科 内視鏡外科 一般外科 消化器癌化学療法

【診療科紹介】

2020年度の当科のスタッフは、加藤久仁之、西成悠、高橋真人の3人体制で診療を行いました。今年度も手術・化学療法をはじめ前年度と同等の質の高い集学的治療を提供しております。未曾有の感染症蔓延により診療・患者受診や環境など病院に携わる機能自体が急激な変化により支障をきたした1年であり、当科も含め関連施設病院の手術件数はほぼ全病院で減少傾向に至りました。

今年度の総手術件数は417例で、腹部全身麻酔326例のうち、腹腔鏡下手術が297例で91.1%を占め、鏡視下手術率は昨年よりも増加しております。全胃癌手術の66%、大腸癌手術の97%は鏡視下で行い、緊急手術においても急性虫垂炎、急性胆嚢炎、ヘルニア嵌頓およびイレウス、消化管穿孔は、初回は全症例鏡視下で開始し、腹腔鏡下手術の完遂率は83.6%と非常に高い水準を維持しました。大腸、胆嚢症例、GISTに対して引き続き単孔式腹腔鏡下手術も施行し、肝胆膵脾領域においては岩手医科大学外科学講座の協力のもと、腹腔鏡下肝切除、腹腔鏡下膵体尾部切除、腹腔鏡下脾摘を施行することにより、低侵襲で整容面に関しましても満足いく結果が得られております。病院受診の遅延に伴い局所進行癌や切除不能進行癌が胃癌・大腸癌共に増加傾向にあり、術前化学療法による腫瘍縮小を試み、より根治度の高い手術を提供することが可能となりました。切除不能大腸癌に対しても、分子標的薬を併用した全身化学療法を積極的に行っております。内痔核に関して、日本大腸肛門病学会認定医である加藤と共に内痔核硬化療法剤ジオン（ALTA）注の資格取得した西成により、昨年度から積極的に手術を施行しております。元来の痔核結紮切除術が必要な症例もあるものの、切除よりも疼痛の軽減がある硬化療法で治療が可能になり、早期退院が可能になりました。

【診療実績】

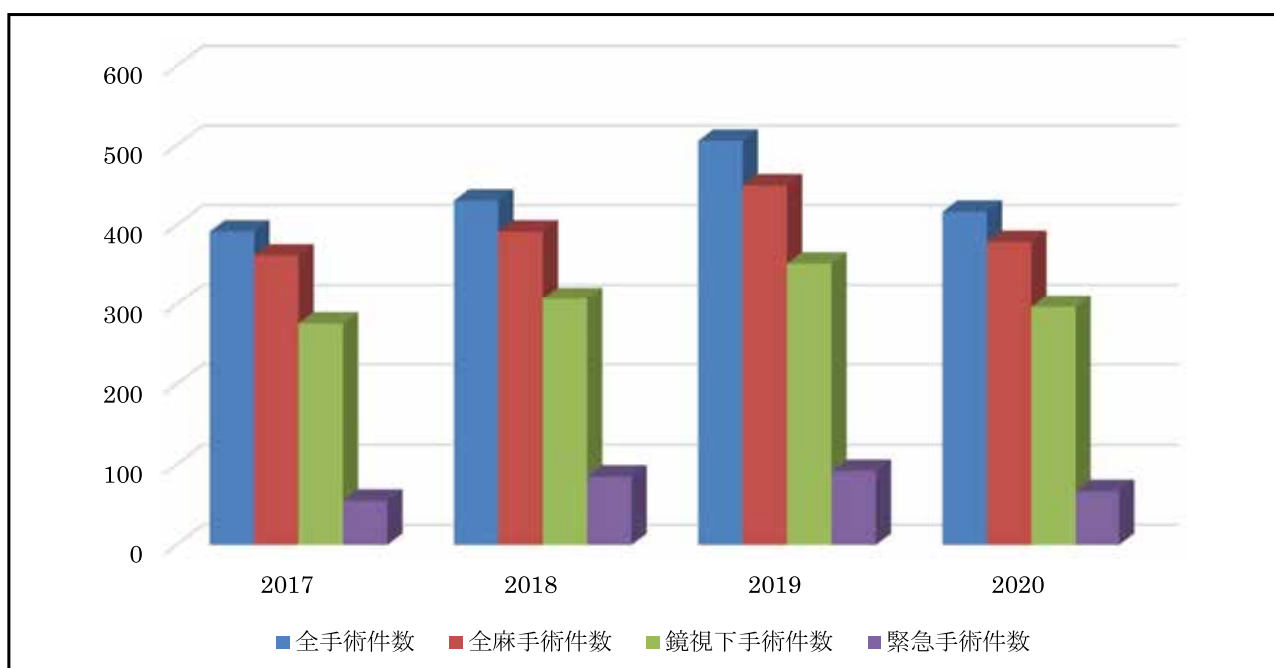
患 者 数 実 績	平成30年度	令和 1 年度	令和 2 年度
延入院患者数	8,317	10,062	9,529
《 1 日平均》	22.8	27.6	26.1
外来患者数	7,788	7,927	7,940
《 1 日平均》	32	33.2	32.7
手術件数（内訳）			
手術件数	431	506	417
全麻手術件数	392	450	379
鏡視下手術件数	307	352	297
緊急手術件数	85	92	67
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	95	197	153
直腸肛門（直腸 S 状部から肛門）の悪性腫瘍	78	134	83
胃の悪性腫瘍	71	66	70
鼠径ヘルニア	59	57	48
胆嚢水腫、胆嚢炎等	43	54	54
虫垂炎	39	34	36
乳房の悪性腫瘍	33	32	－
ヘルニアの記載のない腸閉塞	31	30	14
膵臓、脾臓の腫瘍	10	23	13
痔核	5	17	23
主な手術（入院）			
腹腔鏡下胆嚢摘出術	53	76	82
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	56	49	45
腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	26	29	23
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	23	28	38
腹腔鏡下人工肛門造設術	12	23	20
腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術以外の切除術）	19	21	13
腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術）	10	16	8
抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	－	16	2
腹腔鏡下結腸切除術（小範囲切除、結腸半側切除）	16	14	7
腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	7	12	13

	2017	2018	2019	2020
全手術件数	392	431	506	417
全麻手術件数	362	392	450	379
鏡視下手術件数	276	307	352	297
緊急手術件数	55	85	92	67

癌種別件数

	2017	2018	2019	2020
甲状腺癌	4	1	3	1
乳癌	35	25	15	13
胃癌	33	36	34	35
大腸・直腸癌	74	59	85	57
肝癌	11	10	11	12
胆道・膵癌	10	7	9	6

手術件数の推移



【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

《学会・研究会》

2020年12月15日～17日 第75回日本消化器外科学会総会 和歌山 [ハイブリッド開催]

高橋真人「Perictors of weight regain in morbidly obese patients following laparoscopic sleeve gastrectomy」

《論文》

日本臨床外科学会雑誌 第82巻4号

高橋真人「ゲフェチニブ投与中に腸管囊腫様気腫症を発症した肺腺癌の1例」

脳神経外科

文責 太田原康成

【スタッフ紹介】

院長 太田原康成
科長 南波 孝昌

【診療実績】

患者数実績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	9,938	9,671	8,689
《1日平均》	27.2	26.5	23.8
外来患者数	6,382	9,137	4,642
《1日平均》	26.3	38.2	19.1
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
脳梗塞	250	251	217
頭蓋・頭蓋内損傷	79	68	63
非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	64	62	50
てんかん	35	41	41
くも膜下出血、破裂脳動脈瘤	20	17	17
一過性脳虚血発作	15	12	13
脳腫瘍	15	10	7
肺炎等	3	7	4
誤嚥性肺炎	2	6	3
脳卒中の続発症	—	5	1
主な手術（入院）			
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	30	20	16
脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	9	7	7
水頭症手術（シャント手術）	1	3	—
頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜下）	6	2	9
穿頭脳室ドレナージ術	2	2	2
頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	1	1	1
頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	3	1	1
頭蓋内血腫除去術（開頭）（硬膜外）	—	1	1
試験開頭術	—	1	1
減圧開頭術（その他）	2	—	—
脳動静脈奇形摘出術	1	—	—
脳動脈瘤頸部クリッピング（2箇所以上）	—	—	1

【診療科コメント】

令和2年度の脳神経外科は、これまで通り医師2名体制でした。常勤医師当たりの患者数が多い当科で一定の治療水準を保つため、日常業務の効率化を図って参りました。第一にクリニカルパスを大幅に修正しました。この作業は南波医師が中心となって行いました。第二は外来患者の積極的逆紹介です。これにより平日外来のうち週1回を休診にして入院診療業務に専念できる体制を強化しました。また外来の応援医師をこれまで秋田県循環器脳脊髄センターからご支援頂いていた事に加え、秋田大学脳神経外科からの診療応援も頂く事が出来て現在に至ります。

コロナ感染症で患者さんの行動が変化して年度前半で入院患者数が減少しましたが、後半では回復傾向でした。今後も少ないマンパワーではありますが、業務改善を続けながら、地域医療体制を維持します。

整形外科

文責 佐藤 毅

【スタッフ紹介】

役 職	医師氏名	資 格
整形外科 診療部長	佐藤 毅	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本自己血輸血学会自己血責任医師
リハビリテーション科 診療部長	久保田 均	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医
整形外科 科長	伊藤 博紀	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会専門医
整形外科 科長	佐々木 寛	日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病専門医
整形外科 医長	飯田 純平	日本整形外科学会専門医

【診療科紹介】

整形外科は頭部以外の疾患、つまり部位では四肢（上肢は肩～手指・下肢は股関節～足趾）・体幹（脊椎や骨盤）、疾患の内訳は外傷・炎症性疾患・先天性疾患から変性疾患まで、年齢層では乳児から高齢者までを幅広く扱う科です。

新しい手術方法として手関節鏡の使用、小切開による脊椎固定術、内視鏡や顕微鏡を用いた腰椎椎間板ヘルニア手術などを行っています。より低侵襲にて手術を行うことで、患者さんの早期退院や早期社会復帰が可能となるように努力しています。さらに、施設要件を満たしたので、椎間板ヘルニアに対する椎間板酵素注入療法（注射によるヘルニア溶解治療、商品名：ヘルニコア）を導入し、治療の選択肢を広げています。そして、骨粗鬆症性椎体骨折による痛みを早期に改善できる治療として、経皮的椎体形成術（Balloon kyphoplasty）も開始しています。また、関節周囲の粉碎骨折や開放骨折の治療にはイリザロフ創外固定を導入しながら、常に患者さんの生活の質（QOL）の改善を考えて治療にあたっています。大腿骨頸部骨折地域連携パスや骨粗鬆症地域連携を推進し、回復期病院や地域診療所との連携強化を図っています。

毎朝、医師全員で、前日の整形外科外来受診患者、整形外科入院患者、整形外科関連の救急外来患者の単純X線写真・MRI・CTなどを見直し、診断や治療の統一化を図っています。また、月曜日の朝には、手術前カンファレンスを行い、同週に予定されている手術症例について、検討しています。

【診療実績】

(令和2年4月～令和3年3月)

患 者 数 実 績	平成29年度	平成30年度	令和1年度
延入院患者数	25,155	22,025	23,418
《1日平均》	68.9	60.3	64.2
外来患者数	27,179	27,062	24,354
《1日平均》	110.9	111.4	101.9
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
股関節・大腿近位の骨折	89	72	104
胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰部損傷を含む）	49	87	70
脊柱管狭窄（脊椎症を含む） 腰部骨盤、不安定椎	57	62	68
椎間板変性、ヘルニア	53	64	44
前腕の骨折	40	34	40
脊椎骨粗鬆症	36	13	34
足関節・足部の骨折・脱臼	18	30	24
股関節骨頭壊死、股関節症（変形性を含む）	16	25	22
肩関節周辺の骨折・脱臼	14	13	19
膝関節周辺の骨折・脱臼	21	21	18

【手術実績】

外来・入院合わせて639件

主な手術の内訳

(令和2年4月～令和3年3月)

		手術総数 639件
脊椎手術（108件）	代表的な手術	
	椎間板ヘルニア摘出術・開窓術	56件
	脊椎固定術	33件
	頸椎後方拡大術	14件
	（内視鏡下・顕微鏡下手術）	17件
上肢手術（279件）	代表的な手術	
	骨折手術	90件
	腱縫合・神経縫合・動脈吻合など	20件
	手根管開放術（鏡視下含む）	22件
	関節形成術	8件
下肢手術（248件）	代表的な手術	
	骨折手術	152件
	人工関節手術	20件

【論文】

執筆者	論文名	投稿雑誌
Jumpei Iida et al	Herniation of the cauda equina into the facet joint through a pseudomeningocele: A case report and literature review	Surgical Neurology International: 12(30), 2021
伊藤博紀	重複骨折を呈した成人Monteggia骨折の1例.	日本肘関節学会雑誌27(2), 148-150, 2020

【学会発表】

発表日	学会名	演題名	発表者
2020年4月	第63回日本手外科学会学術集会	重複骨折を呈した成人Monteggia骨折の1例	伊藤博紀ほか
2020年5月	第93回日本整形外科学会学術集会	橈骨遠位端骨折における3DCTを用いた背側皮質骨折形態の検討	伊藤博紀ほか
2020年5月	第117回東北整形災害外科学会	橈骨遠位端骨折手術症例の検討 －合併症の回避に向けて－	伊藤博紀ほか
2020年8月	第57回日本リハビリテーション医学会学術集会	ハンドリハビリテーション医療の効果 －秋田整形外科リウマチグループにおける検討－	伊藤博紀ほか
2020年9月	第49回日本リウマチの外科学会	髄内釘による手関節固定術において指用ロックングプレートを併用した1例	伊藤博紀ほか
2020年10月	第72回秋田県整形外科学会	大腿骨転子部骨折骨接合術後のインプラント周囲骨折の治療経験	佐藤 毅ほか
2021年2月	第32回日本肘関節学会学術集会	重複骨折を呈した成人Monteggia骨折の1例	伊藤博紀ほか
2021年2月	第34回東日本手外科研究会	尺骨遠位骨端線早期閉鎖による尺骨の成長障害に対し一期的延長を行った1例	伊藤博紀ほか

皮膚科

文責 矢島 晴美

【スタッフ紹介】

役 職	医師氏名	資 格
診療部長	矢島 晴美	日本皮膚科学会専門医
	堀江 咲織	

【診療科紹介】

当院皮膚科は、大潟村以北の秋田県北部と深浦町までの青森県日本海沿岸を診療圏とし、皮膚疾患の全般にわたって、正確な診断と個々の患者さんのQOLを重視した適切な治療を目指して診療を行っております。また、日本皮膚科学会などが推奨する診断・治療ガイドラインに準じた標準的治療を心掛けております。乳児から高齢者までの幅広い年齢の患者さんがいらっしゃいますが、近年は在宅介護を受けていたり施設に入所されている高齢の患者さんが増加しています。患者さんへの負担をより少なくし、より満足の得られる治療効果を挙げられるよう努めています。皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCナース）の佐々木伸子さんとともに、薬剤師・栄養士・作業療法士を含めた多職種チームを編成し、外来・病棟での褥瘡や皮膚トラブルのある患者さんの治療を協力して行っています。



令和2年度は、秋田大学皮膚科医局より赴任した堀江咲織医師との2診体制で診療しました。

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	718	1,019	574
《1日平均》	2.0	2.8	1.6
外来患者数	10,097	9,672	8,511
《1日平均》	41.6	40.5	35.0
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
带状疱疹	26	34	18
熱傷・化学熱傷・凍傷・電撃傷	7	15	1
膿皮症	19	14	18
詳細不明の損傷等	1	10	2
薬物中毒（その他の中毒）	3	6	2
湿疹、皮膚炎群	3	4	1
痒疹、蕁麻疹	1	4	2
食物アレルギー	—	3	2
2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く）（末梢循環不全あり）	—	2	2
薬疹、中毒疹	4	2	3

外来診療（R 2 年 4 月～R 3 年 3 月）

外来患者数 8,511名

1 日当患者数 35名

入院診療（R 2 年 4 月～R 3 年 3 月）

過換気症候群 1

脱水症 1

蜂窩織炎 18

皮下膿瘍 2

帯状疱疹 18

蕁麻疹 2

アナフィラキシーショック 6

（そのうち蜂刺症 4）

薬疹 3

アトピー性皮膚炎 1

水疱性類天疱瘡 1

尋常性乾癬 1

結節性紅斑 1

下腿潰瘍 1

褥瘡 3

糖尿病潰瘍 1

糖尿病性壊疽 1

褥瘡 1

灯油熱傷 1

有棘細胞癌 2

計68名

検査・手術（R 2 年 4 月～R 3 年 3 月）

生検 30件

皮膚炎 6

遠心性環状紅斑 1

結節性紅斑 2

斑状強皮症 1

乾癬 1

皮膚潰瘍 1

ブルーリ潰瘍 1

抗リン脂質抗体症候群 2

老人性色素斑 1

脂漏性角化症 1

尋常性疣贅 1

神経鞘腫 1

色素性母斑 1

脂腺母斑 1

ボーエン病 1

乳房外パジェット病 2

基底細胞癌 3

有棘細胞癌 1

成人T細胞白血病 1

悪性リンパ腫 1

良性腫瘍切除術 2件

毛細血管拡張性肉芽腫 2

泌尿器科

文責 小峰 直樹

【スタッフ紹介】

役 職	氏 名	出 身 医 局	資 格
科 長	小峰 直樹	秋田大学	泌尿器科専門医 同指導医
医 長	伊藤 隆一	秋田大学	泌尿器科専門医 同指導医
医 員	小野 裕太	岩手医科大学	血液内科

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和 1 年度	令和 2 年度
延入院患者数	3,862	5,155	5,452
《 1 日平均》	10.6	14.1	14.9
外来患者数	24,129	22,356	23,309
《 1 日平均》	99.3	93.5	95.9
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
腎臓または尿路の感染症	56	83	71
前立腺の悪性腫瘍	90	83	67
上部尿路疾患	72	67	85
膀胱腫瘍	54	57	54
慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	36	50	49
下部尿路疾患	4	15	13
腎盂・尿管の悪性腫瘍	17	9	8
前立腺肥大症等	10	8	3
腎腫瘍	4	7	6
誤嚥性肺炎	2	7	9
主な手術（入院）			
経尿道的尿管ステント留置術	29	29	49
経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	24	27	41
膀胱腫瘍摘出術	3	21	6
膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	24	30	18
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）	104	27	14
内シャント設置術	25	13	9
膀胱結石、異物摘出術 経尿道的手術	5	2	6
前立腺悪性腫瘍手術	8	5	4
連続携帯行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	－	1	3
膀胱内凝血除去術	1	－	3
腎臓または尿路の感染症	83	56	83
前立腺の悪性腫瘍	96	90	83
上部尿路疾患	149	72	67
膀胱腫瘍	48	54	57

【診療科紹介】

前年に引き続き、秋田大学泌尿器科より2名・岩手医科大学泌尿器科より1名の計3名の医師で診療を行った。

昨年より本格稼働したレーザーデバイス使用した尿路結石破碎術の件数を順調に増やしている。また大学病院とも連携を密にし診療にあたっている。

引き続き大学病院・周辺医療機関とも連携し地域の患者様により良い医療を提供できるよう診療を行っていく。

産婦人科

文責 松井 俊彦

【スタッフ紹介】

副 院 長 松井 俊彦
 診療部長 柴田 悟史
 医 長 小野寺洋平
 医 員 坂口 太一

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和 1 年度	令和 2 年度
延入院患者数	9,799	7,390	6,485
《 1 日平均》	26.8	20.2	17.8
外来患者数	13,290	13,088	12,356
《 1 日平均》	54.7	54.8	50.8
分娩件数	406	420	368
帝王切開術	76	53	48
化学療法	257	222	187
新規入院患者数 主な内訳 MDC 6 別			
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	259	170	151
子宮頸・体部の悪性腫瘍	75	120	105
胎児及び胎児付属物の異常	84	80	60
分娩の異常	86	68	75
早産、切迫早産	96	47	38
卵巣の良性腫瘍	29	37	37
子宮の良性腫瘍	25	33	25
妊娠中の糖尿病	28	31	22
妊娠高血圧症候群関連疾患	23	27	18
流産	33	16	19
手術件数《婦人科》			
子宮内膜搔爬術	20	25	20
子宮頸部（腔部）切除術	20	24	22
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	22	21	21
子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（開腹）	17	18	18
子宮全摘術	20	18	15
子宮筋腫摘出（核出）術（腹式）	—	9	4
子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）	8	6	8
子宮脱手術（腔壁形成手術及び子宮全摘術）（腔式、腹式）	5	5	—
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	—	4	3
子宮筋腫摘出（核出）術 腔式	3	4	5
子宮双手圧迫術	—	4	4

手術件数《産科》			
吸引娩出術	39	43	47
帝王切開術（選択帝王切開）	57	39	38
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時）（筋層に及ぶ）	38	29	40
流産手術（妊娠 11 週まで）（手動真空吸引法）	8	15	14
帝王切開術（緊急帝王切開）	19	14	10
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時）（腔円蓋に及ぶ）	5	5	2
会陰（腔壁）裂創縫合術（分娩時）（肛門に及ぶ）	—	5	1
胎児外回転術	—	5	—

【診療科コメント】

当院産婦人科は、能代山本地区で唯一の分娩可能施設である。北秋田市、男鹿地域、青森県深浦町からの分娩希望の患者もおり、里帰り分娩希望の患者も多い。当院での対応が不可能な妊婦（妊娠34週未満あるいは胎児の予想体重が1,800 g 未満の場合）に関しては、秋田赤十字病院あるいは秋田大学付属病院への母体搬送の方針としている。また婦人科患者（子宮および卵巣腫瘍患者など）に対する治療は、手術、化学療法、緩和ケアなど多岐にわたっている。広汎子宮全摘術、リンパ節郭清術など手間のかかる悪性腫瘍手術は秋田大学病院に依頼しているが、手術後に当院での化学療法、緩和治療を希望する患者については積極的に受け入れている。近隣の産婦人科開業医との連携は良好に保たれている。常勤医 4 名体制で診療に当たっている。

ここ数年の診療実績は別紙のとおりである。分娩数の減少に関してはコロナ禍の影響を否定できなかったが、里帰り分娩は特に規制を設けなかった。ただし、2 週間前に帰省した後での受診を徹底させた。幸運にもコロナの妊婦感染を認めなかった。手術に関しては、ほぼ例年と大きな変動を認めなかった。

【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

今年度は特になし。

耳鼻咽喉科

文責 江戸 雅孝

【スタッフ紹介】

診療部長 江戸 雅孝（耳鼻咽喉科学会専門医、補聴器相談医）
科 長 辻 正博（耳鼻咽喉科学会専門医、がん治療認定医）

【診療実績】

患 者 数 実 績	平成30年度	令和1年度	令和2年度
延入院患者数	2,550	2,591	2,029
《1日平均》	7.0	7.1	5.6
外来患者数	12,058	12,142	10,846
《1日平均》	49.6	50.8	44.6
新規入院患者数 主な内訳 MDC6別			
前庭機能障害	75	97	99
頭頸部悪性腫瘍	18	28	27
慢性副鼻腔炎	36	16	14
扁桃、アデノイドの慢性疾患	13	14	13
肺炎等	—	—	10
鼻中隔湾曲症	6	3	9
扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	2	25	9
上気道炎	7	8	9
誤嚥性肺炎	—	2	6
耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	10	9	5

【診療科コメント】

外来の診療体制で医師は耳鼻科専門医2名で変わりありません。外来のスリム化のため、クラーク、事務、看護師はそれぞれ2名から1名となりました。

耳鼻科は4B病棟から6B病棟に移り、病床数も12床から6床に削減。病棟再編にあたり、入院患者により力を入れる病院の基本的な考え、方針です。

例年、診療実績は医事課での統計が示されますが、診療報酬上の分類を基準にしていることもあり実際の病名、診療内容（術式）や件数とは違っているかもしれません。

【学会発表、論文、その他発表、講演実績、研修会など】

《学会発表、研修会、地域の講演会など》

年 月 日	研 修 会	内 容	参 加 者
R2年11月7日	大館地域緩和ケア研修会 (大館市立総合病院)	講師・ファシリテーター	江戸 雅孝

【スタッフ紹介】

薬 剤 長	木村 正行	薬 剤 師	永井 里実
副薬剤長	佐々木真則	薬 剤 師	島田 健汰
薬剤主任	小嶋 雅人	薬 剤 師	細田 優萌
薬剤主任	大原 正之	薬 剤 師	工藤 裕太
薬剤主任	斉藤 匡昭	薬 剤 師	佐藤 匠
薬剤主任	加賀谷明日美	薬剤助手	吉田 裕美
薬 剤 師	石川 孝仁	薬剤助手	星 智子
薬 剤 師	田村 直斗	薬剤助手	松田 早紀



令和2年度は、新入社員を3人迎えることができ、薬剤師14人でスタートした。SPD業務開始に向け薬剤助手を1名増員となったが、7月に薬剤師1名が退職になった。薬剤師減に対し、業務改善として定期注射薬のセットを薬剤助手も行う体制づくりをした。また2月より一病棟閉鎖に伴い、ワークバランス解消の一環として2病棟3人体制を開始した。薬剤師数の変動と業務量増加により、BSCにおける退院時薬剤情報管理指導薬剤管理指導および退院時薬剤情報管理指導等の目標達成が出来なかった。

1. 人 員 体 制

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
薬 剤 師	14名			→	13人							→
助 手 職	2人		→	3人								→

2. 取得施設基準等

薬剤管理指導料 無菌製剤処理加算 病棟薬剤業務実施加算 がん患者指導管理料3
薬学生実務実習受け入れ施設 日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設

3. 専門・認定薬剤師

日本病院薬剤師生涯研修履修認定薬剤師 日本病院薬剤師研修センター認定薬剤師
認定実務実習指導薬剤師 日本糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士認定機構）
NST専門療法士（日本静脈経腸栄養学会・JSPEN） がん薬物療法認定薬剤師
抗菌化学療法認定薬剤師

4. 業務集計

(1) 調剤業務に関する事項

外来処方箋枚数	4525枚／年（平均 377枚／月）
注射処方箋枚数	57860枚／年（平均4822枚／月）
入院処方箋枚数	59653枚／年（平均4971枚／月）
院外処方箋発行率	95.7%

(2) 医療安全に関する事項

C L I P - R 報告件数	30件（ 2.5件／月）
プレアボイド報告件数	36件／年

(3) 感染対策に関する事項

抗菌剤使用数（A U D）	150.6
無菌製剤（T P N）処理件数	462件（ 38.5件／月）
T D M（抗M R S A剤）実施件数	33件（ 2.5件／月）

(4) 診療支援等に関する事項

入院薬剤管理指導患者数	5934／年（ 495人／月）
入院薬剤管理指導率	37%
病棟薬剤業務実施時間（h）	8428 h（ 702 h／月）
外来抗癌剤無菌調製実施数	1259件（ 105件／月）
入院抗癌剤無菌調製実施数	1636件（ 136件／月）
外来吸入指導件数	233件（ 19件／月）
インスリン・S M B G 導入外来指導数	275件（ 23件／月）
オピオイド外来指導件数	16件
入院患者持参薬鑑別件数	5120件（ 427件／月）
入院支援センター鑑別件数	1708件（ 142件／月）
再調剤件数	2897件（ 241件／月）
がん患者指導料	77件（ 6.4件／月）
薬剤師外来	251件（ 21件／月）
薬剤情報提供料（外来）	3477件（ 290件／月）
手帳加算	2704件（ 225件／月）

(5) 薬物適正使用に関する事項

医薬品情報誌発行件数	36件（ 3件／月）
院内副作用報告件数	34件（ 2.8件／月）

(6) 収益性に関する事項

①薬剤管理指導 2（ハイリスク）件数	2996件（ 250件／月）
②薬剤管理指導 3	2937件（ 245件／月）
薬剤管理指導請求件数（合計①＋②）	5934件（ 495件／月）
退院時指導数	1786件（ 149件／月）
麻薬指導加算	283件（ 24件／月）
病棟薬剤業務実施加算件数	14617件（ 1218件／月）

(7) 教育・研修に関する事項

薬学生長期実務実習受け入れ	2名
見学者受け入れ	0名
高校生インターシップ受け入れ	0名

●学会、講演会での発表

学 会 ・ 講 演 会	発 表 タ イ ト ル	発 表 者
秋田県臨床薬学研究会	腎機能低下患者におけるミロガバリンの安定性に関する後方視点調査	島田 健汰
日本病院薬剤師会東北ブロック第10回学術大会	ポリファーマシー解決に向けた医師へのアンケート調査	細田 優萌

●所属学会

日本医療薬学会 日本化学療法学会 日本緩和医療薬学会 日本静脈経腸栄養学会
日本腎臓病薬物療法学会

中央放射線部

文責 伊藤 浩

【スタッフ紹介】

放射線科医師 2 名、診療放射線技師 16 名、
看護師 3 名、助手 2 名 合計 22 名



【業 務 内 容】

○放射線診断部門（1 階フロア）

一般撮影装置 3 台、X 線 TV 装置 2 台、バイプレーン血管撮影装置（I I - D R）、シングルプレーン血管撮影装置（F P D）、128 列マルチスライス C T、1.5 T M R I 装置、ポータブル撮影装置 3 台、手術室イメージ 2 台。

○放射線診断部門（健診センターフロア）

一般撮影装置、X 線 TV 装置、マンモグラフィー装置が整備されており、胸部・胃・マンモグラフィーの放射線検査が完結できるようになっております。
マンモグラフィーは女性技師のみで対応しております

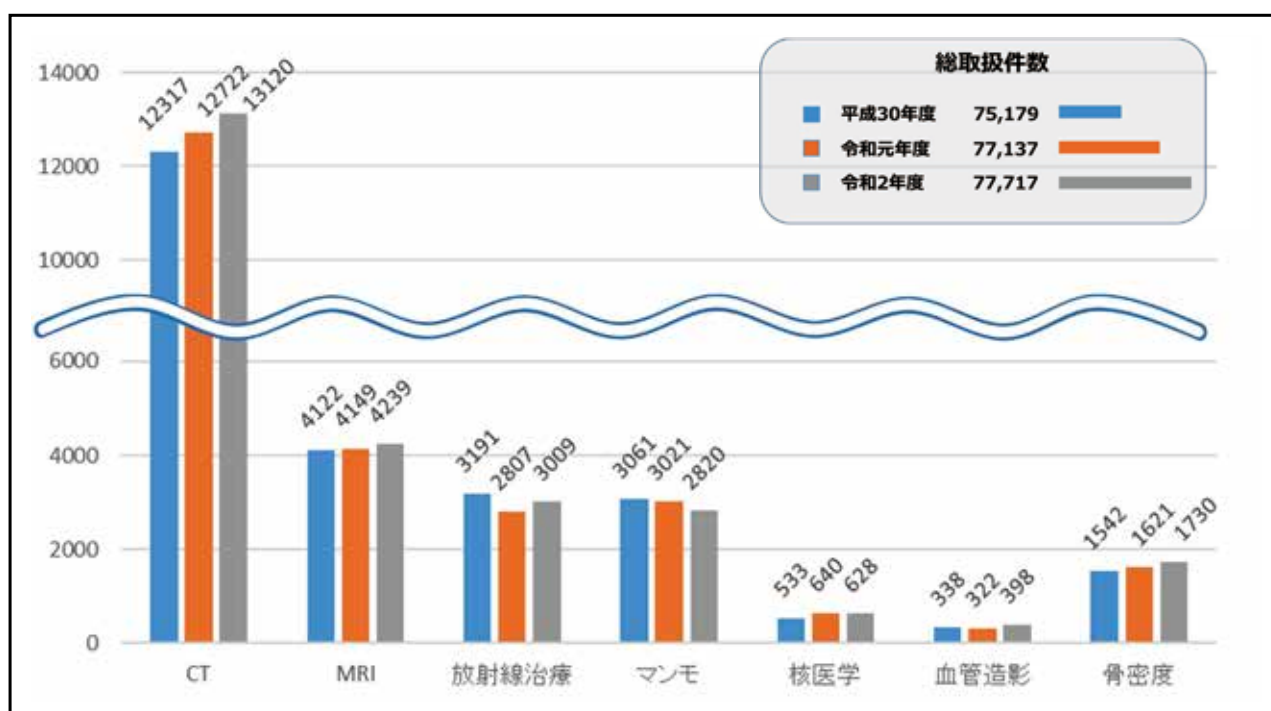
○核医学検査部門

体内に投与した放射性医薬品が臓器や組織などに集まる様子を画像化し、疾病の診断、病期や予後の確認、治療効果の判定などに利用されております。

○放射線治療部門

治療装置はシーメンス社製 ONCOR Impression（X 線エネルギー：6 M V、電子線エネルギー：4 ～ 14 M e v）、治療計画用マルチスライス C T 装置、治療計画装置（ピナクル）の組合せにより、放射線治療が行われております。

【業 務 実 績】



【令和元年度の学会・研修会等の発表】

1. 令和2年11月21日

秋田CTテクノロジーフォーラム

「当院DECTの紹介 ～ツインビームCTについて～」

櫻井 直人

2. 令和3年2月14日

マネジメント研修会

「診療放射線の安全利用のための指針運用から見えて現状と課題」

伊藤 浩

【認定放射線技師】

放射線管理士	1名	放射線機器管理士	1名
放射線治療専門放射線技師	2名	放射線治療品質管理士	2名
画像等手術支援認定診療放射線技師	2名	医療画像情報制度管理士	1名
検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	2名	磁気共鳴専門技術者	1名
X線CT認定技師	3名	肺がんCT検診認定技師	1名
胃がん検診専門技師	3名	A i 認定診療放射線技師	2名
超音波検査士	1名		

臨床検査科

文責 清水 盛也

【スタッフ紹介】

臨床検査科 総員38名
内訳 科長 1名（医師）
臨床検査技師27名（臨時技師 4名含）
（超音波検査士 6名・細胞検査士 5名・
認定輸血検査技師 1名・二級臨床検査士
1名・秋田県糖尿病療法指導士 2名）
看護師（採血担当） 5名
検査補助員 5名



【部門紹介】

新型コロナウイルス感染拡大の煽りを受けて、当検査科の担う役割も今まで以上に増えた一年でした。中でも院内感染対策では中軸を担い、ウイルス検出のためのPCRやLAMP法による核酸増幅検査や抗原定性検査、感染症病棟での心電図検査など、多岐にわたって検査に関わりました。そんな中でも、基本理念である「わたしたちは、チーム医療の一員として常に向上心を持ち、質の高い検査結果を提供します。」を忘れず、38名のスタッフが一丸となって活躍した一年であったと思われます。

そんな非常事態ではありましたが、通常業務においても滞ることなく次に示す業務体制をとっています。朝の病棟検体収集や、外来患者様の採血を検査科内の採血室で行い、混み具合により午前中の採血担当を最大6名で行っています。採血された検体は速やかに各部門に搬送され、検査結果の迅速な報告に努めています。

これら検体検査の解析の中核を担っているのが血液、一般、生化学、免疫・血清の検体部門で、24時間急性期医療に対応した検査業務体制をとっております。また、検査科内で院内の輸血業務も24時間体制で一元管理して、輸血療法委員会の事務局も検査科内に置かれ、その一翼を担っています。生理検査部門には、5名の超音波検査士が配属され、腹部、心臓、表在臓器、頸動脈、四肢動静脈等、各領域の分野をカバーしています。また、心電図、脳波、肺機能等、様々な生理検査に対応しています。細菌検査室では、院内感染対策に力を入れて感染症の情報発信基地として頑張っています。病理検査部門には4名の細胞検査士が配属されており、病理組織標本の作製や、細胞診、術中迅速組織診断、術中迅速細胞診、剖検介助等を行っています。

さらには、チーム医療の一員として各種委員会やプロジェクトチーム、ドック・健診業務、乳児・小児健診にも参画して、心電図、眼底写真撮影、尿検査を行っています。

臨床検査の精度管理にも努めており、外部精度管理調査に積極的に参加しています。それぞれの評価は、日本医師会（総合評価：98.1%）、日本臨床衛生検査技師会（総合評価：97.9%）、秋田県臨床検査技師会（総合評価：100%）となっており、さらなる精度向上に向けて努力しております。

【業務内容】

- ・採血業務（外来患者様の採血）
- ・検体検査部門（一般、血液、免疫・血清、生化学、輸血、微生物検査）
- ・生理検査部門（循環機能、超音波、呼吸機能、脳・神経機能、聴力検査、他）
- ・病理検査部門（組織診断、細胞診、術中迅速組織診断・細胞診、解剖、他）

- ・ チーム医療関係（耳鼻科聴力、輸血一元管理、新生児聴力、シンチ検査、他）
- ・ 健康管理関係（健診、心電図、超音波、眼底写真撮影、骨密度検査、他）

【検査科内の勉強会状況】

- ・ 2020年7月30日（木） 参加者：19名
「臨床検査科内コロナウイルス発生時の行動計画について」
- ・ 2020年12月15日（火） 参加者：19名
 - ①日本医学検査学会 一般演題発表（Web）
「抗J K^bによる遅発性溶血性輸血副作用を呈した一症例」
 - ②医療安全業務改善発表会
「臨床検査科における転倒・転落防止について」
 - ③接遇自慢大会
「臨床検査科の取り組み」

【学 会 発 表】

- ・ 第69回日本医学検査学会2020年10月1日～31日 Web開催
鈴木花純「抗J K^bによる遅発性溶血性輸血副作用を呈した一症例」

【そ の 他】

- ・ 秋田しらかみ看護学院講義
当検査科 臨床検査技師5名で担当
(2020年9月11日・18日、10月9日・14日・21日)

【更 新 機 器】

- ・ 生 理 検 査 9月12日 超音波診断装置 EPIQ Phillips社
- ・ 微生物検査 6月5日 Loopamp EXIA（LAMP法）栄研化学



超音波診断装置 EPIQ



核酸増幅検査装置 Loopamp EXIA（LAMP法）

リハビリテーション料

文責 嶋田 誠司

【スタッフ（計26名）】

常勤医師 1名
理学療法士 12名
作業療法士 11名
言語聴覚士 2名
診療助手 1名 計26名

（秋田県糖尿病療養指導士……………2名）
（3学会認定合同呼吸療法認定士…1名）
福祉住環境コーディネーター…………4名
Neuro Development Therapist…1名
離床プレアドバイザー……………1名



【部門紹介】

整形外科疾患や脳血管疾患を中心に、全科を対象としたリハビリテーションを早期から開始し、同地域の療養型病院と連携したリハビリテーションを提供しています。能代市と連携して転倒予防や健康維持のための運動プログラムを紹介したり、能代支援学校での自立支援活動、訪問リハビリテーションなど地域と密接に結びついたリハビリテーションサービスの提供に努めています。また精神科作業療法と精神科デイケアに作業療法士が専従配置されています。

【業務内容】

施設基準
脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅰ）
運動器リハビリテーション（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション（Ⅰ）

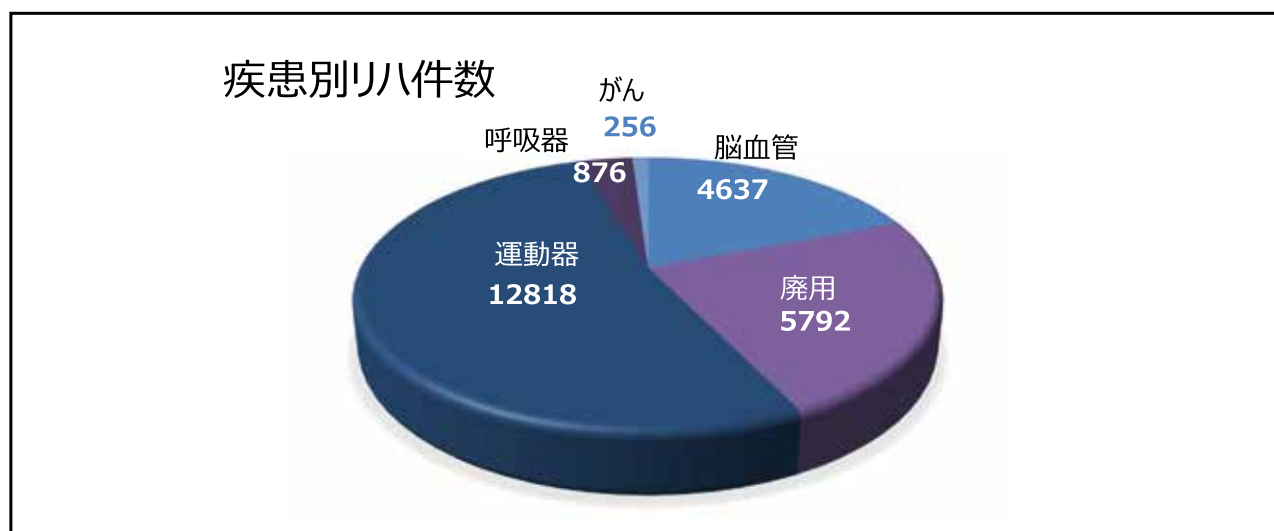
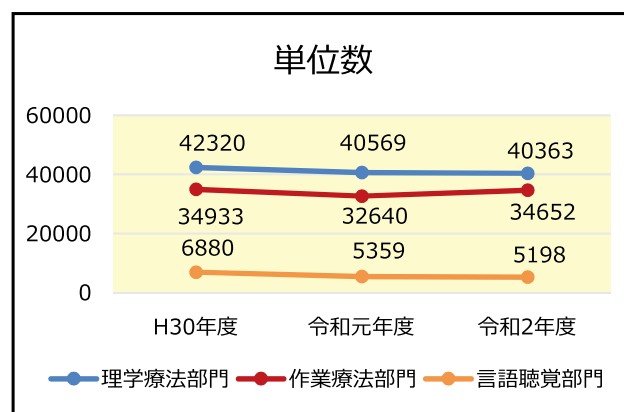
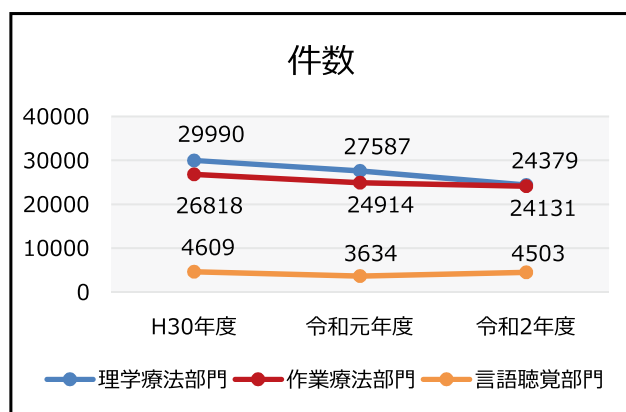
地域保健福祉活動内容	回数
能代市地域活動支援センター機能訓練支援（とらいあんぐる）	11回
能代市介護予防ゆうあい健康教室（特養しのめ）	6回
能代支援学校教育支援	3回
向能代地区寿大学	1回

講師活動	担当者
4～10月	しらかみ看護学院講師
11月	伊藤あずさ（3回）、菅祐典（2回）
通年	小柳 大地
	院内勉強会講師
	11回

臨床実習受け入れ			
R 2. 6～8月	秋田大学医学部保健学科	O T (4年)	
7～8月	〃	P T (4年)	期間短縮で実施
R 3. 1～2月	〃	P T (3年)	
〃	秋田リハビリテーション学院	P T (4年)	

※他8校からの実習はコロナ禍で中止となった。

【業務実績】



栄 養 科

文責 高橋 美香

【スタッフ紹介】

管理栄養士 7 名、栄養士 1 名、調理師・調理員 34 名、事務職員 1 名 合計 43 名

【部門照会】

患者様に安心・安全な食事の提供を目的とし、J A や地元業者から食材を購入し、地産地消の推進を実施しています。

【業務内容】

- (1) 入院患者への食事提供
院内約束食事箋に基づき、患者様の病態や要望を含め多種多様なオーダーに対応
- (2) 栄養指導
個別栄養指導（入院・外来）
特定保健指導
- (3) 入院患者の栄養管理
入院患者の栄養スクリーニングを実施し栄養評価を行い、栄養管理計画書を作成
低栄養や食事摂取不良等の患者に対して栄養管理を実施

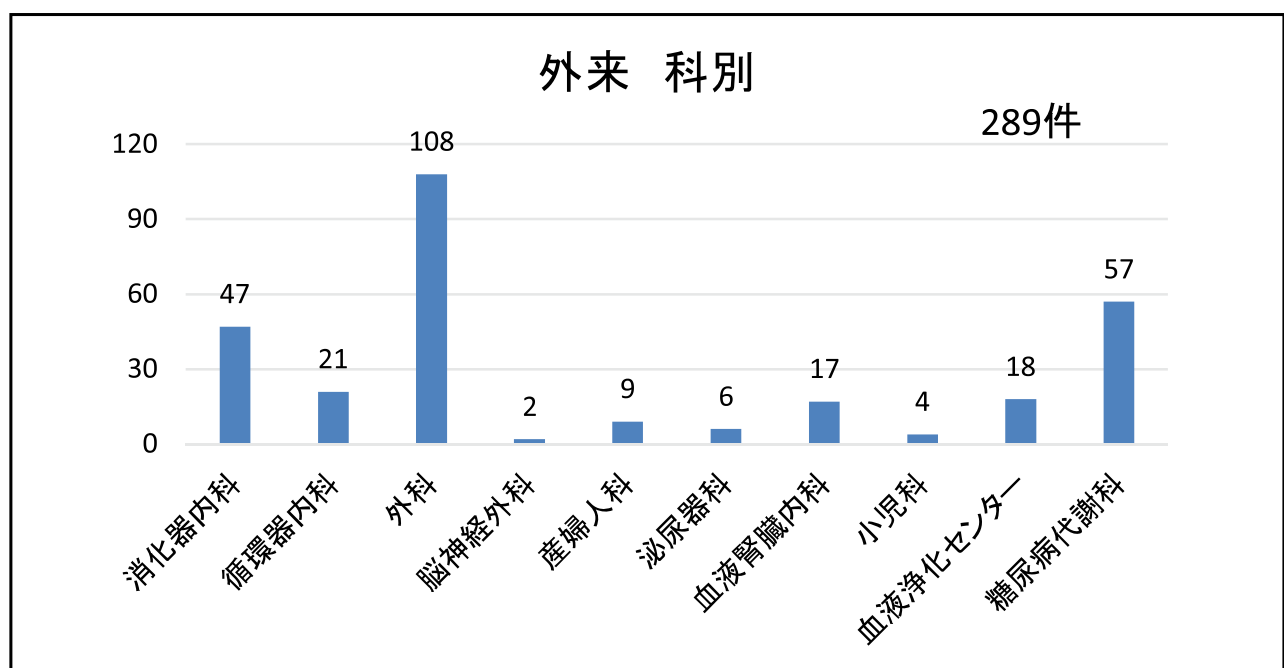
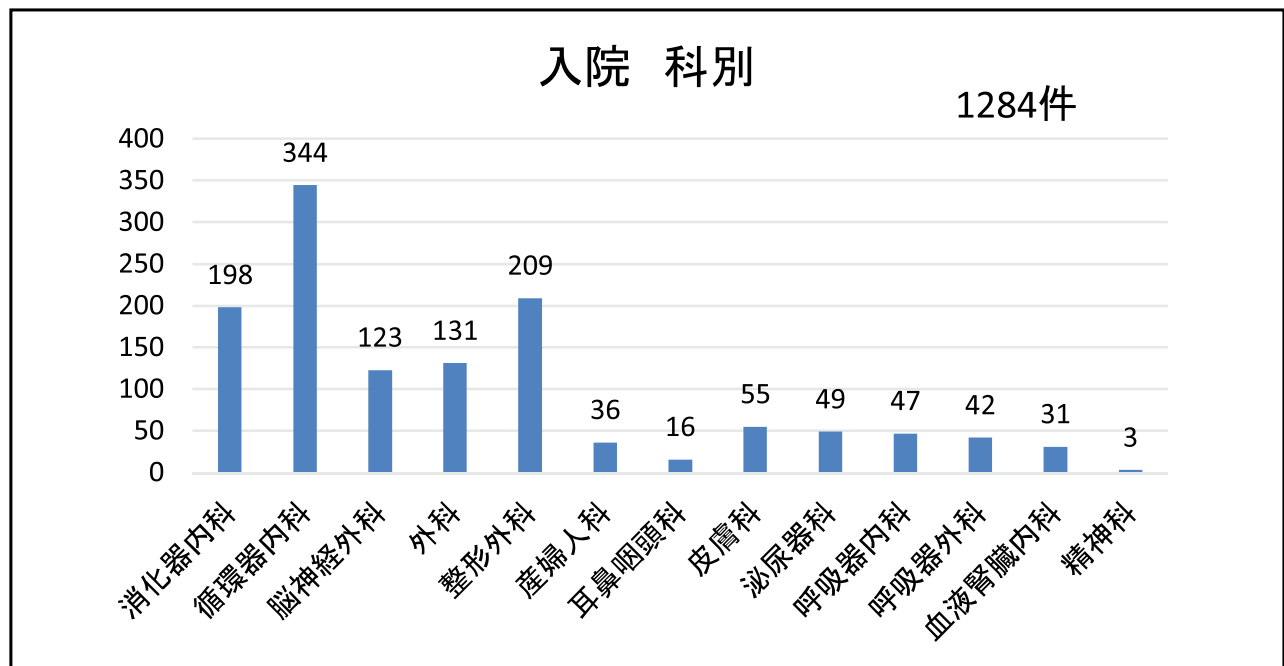


【業務活動】

（令和 2 年度食事提供数）

食 種	食 数	食 種	食 数
常 食	81,446	腎 臓 病 食	11,606
軟 菜 食	29,405	糖 尿 病 食	37,172
と ろ み 食	16,002	妊娠高血圧症候群	248
流 動 食	875	減 塩 食	53,229
幼 児 ・ 小 児 食	486	脂 質 異 常 食	11,080
分 娩 食	5,254	脾 臓 病 食	979
出 産 祝 膳	355	肝 臓 病 食	3,546
精 神 デ イ ケ ア	1,640	術 後 食	3,446
ア レ ル ギ ー 食	8,000	胃 切 食	1,304
嚥 下 調 整 食	716	濃 厚 流 動 食	10,899
ミ キ サ ー 食	698	検 査 食 そ の 他	12,730
潰 瘍 食	3,022	合 計	294,138

(栄養指導件数)



【研 修 会】

名 称	開催月	
第72回秋田県病院給食協議会総会・研修会	6月	延期
令和2年度公益社団法人秋田県栄養士会県北地区会研修会	9月	中止
令和2年度特定給食施設関係者研修会（県北地区）	9月	中止
のしろ健康21 健康展	9月	中止

リンパ浮腫ケア室

文責 日諸 千春

【スタッフ紹介】

大塚 聖子
(中級セラピスト)
火曜日13:00~17:00

日諸 千春
(上級セラピスト)
木曜日13:00~17:00



一日2名
完全予約制
保険外診療である

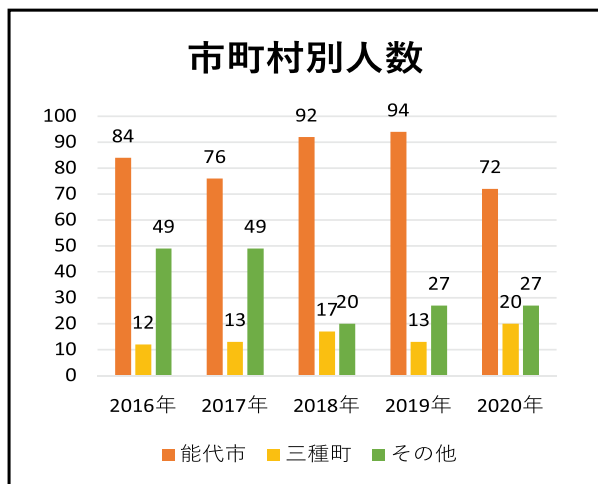
【活動内容】

リンパ浮腫ケア室は2012年能代市の依頼を受け、セラピスト育成し開設した。

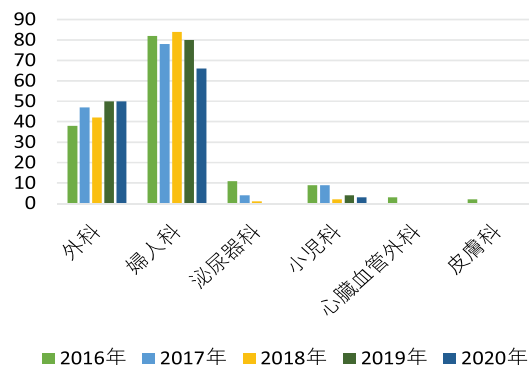
リンパ浮腫ケア室では、医師よりリンパ浮腫と診断されケアが受けられると判断された患者の、浮腫の軽減・症状の緩和を目的とした、複合的理学療法と呼ばれる保存的療法を行っている。セラピストは複合的理学療法である、医療徒手リンパドレナージ・スキンケア指導・弾性着衣の指導・運動療法指導の他に生活指導も合わせて行う。

他の病院で治療中の患者様の受け入れや、希望があれば他施設からの見学を受け入れている。

【活動実績】



科別人数



リンパ浮腫は完治が難しいとされ、当院リンパ浮腫ケアにおいても必ずしも完治や著しい効果を保障するものではないが、患者さんから楽になった。

細くなった等のお喜びの声は頂く事もあります。

楽になります。
気持ちいいですね。



【スタッフ紹介】

臨床工学科科長：泌尿器科科長 1 名

臨床工学技士：9 名

【部門紹介】

医療機器の中央管理を始めに循環器、血液浄化、手術室、内視鏡業務と広範囲の業務を行っている。院内での医療機器に関する研修会の開催と共に、医療機器安全のための情報発信として「MEつうしん」を発行し、医療機器の安全使用と信頼性の確保に努めている。隣臨床業務と管理医療機器は病院からの依頼を可能な限り受け、年々増加している状況である。

循環器業務で、4 月末より A C S に対する緊急 P C I を開始し、拘束業務にて対応している。又、消化器内視鏡業務でも病院の要請を受け、臨床業務の他に11月より拘束業務を段階的に対応し始めた。多様化する業務にスタッフ一人一人のスキルアップが求められている。

人員では1名退職し、正職員8名・臨時職員1名の1名減少の計9名体制となった。

【業務内容】

医療機器管理部門

医療機器管理センターで人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター等、を管理している。始業点検の他にMEチェッカーを用いて定期点検を行い、部門設置機器はラウンドを行い使用中点検や定期点検を行っている。

医療機器研修は、昨年に引き続き各部署へアンケート調査を行い要望に沿った内容で病棟に出向いての研修開催を開催した。又、毎年開催していた医療ガス安全研修はセーフティプラスを利用しての開催とした。

血液浄化部門

血液透析全般と透析効率の評価や透析液水質管理を行い、透析の質向上に努めている。又、多様化する各種特殊血液浄化法にも対応している。今年度は腹水濾過濃縮再静注法の回数が多かった。

循環器部門

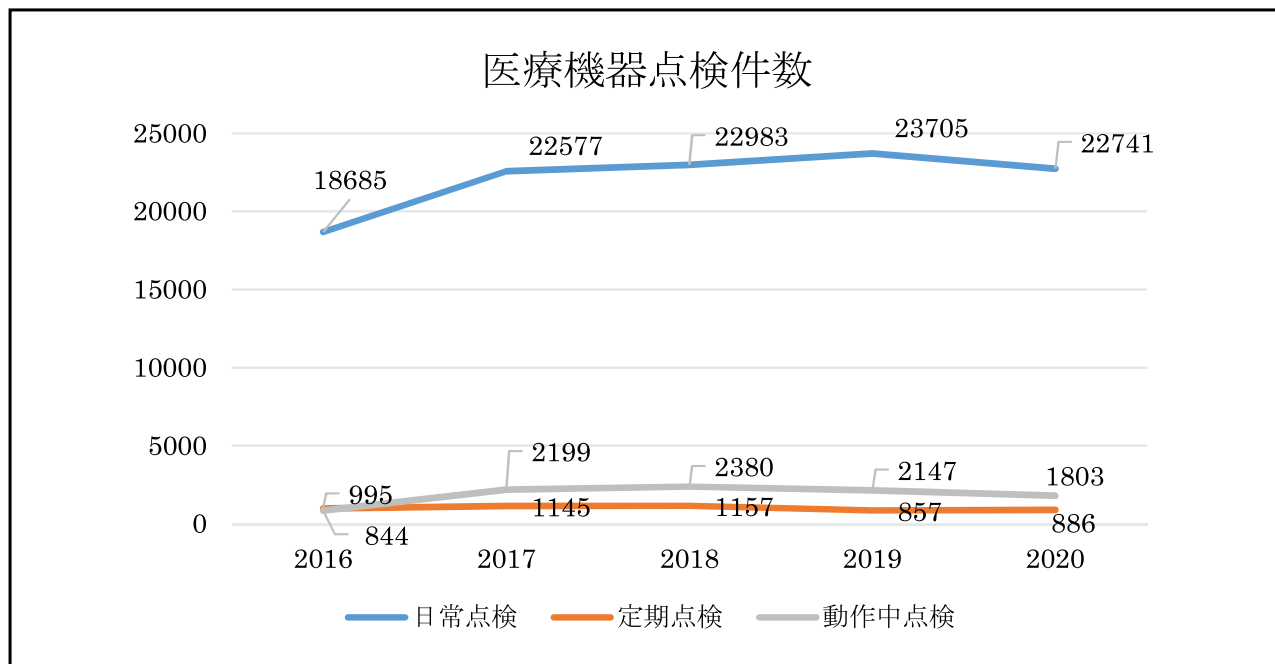
心臓カテーテル検査・P C I 時のポリグラフ操作、I V U S ・F F R 操作、ペースメーカー植込・交換時のプログラマー操作、ペースメーカークリニック等を行っている。ペースメーカーのM R I ・C T ・手術時のモード変更にも対応している。

手術室部門

手術室には1名常駐しており、麻酔器等の手術前日常点検と定期点検の他、機器セッティング等も行っている。軟性内視鏡の終業点検を行い、故障の予防と修繕費の圧縮に努めている。今年度は泌尿器科で購入したレーザー装置の操作・保守点検を開始した。

その他にラジオ波焼灼術時の機器操作、尿管ステント時の機器操作も行っている。

【業務実績】



【特殊血液浄化法件数】（令和2年1月～年12月）

- ・ 腹水濾過濃縮再静注法 10件
- ・ CHDF 5件
- ・ エンドトキシン吸着 4件
- ・ 出張透析 2件

【研修会実施状況】（令和2年4月～令和3年3月）

- ・ 安全使用の為の研修 75回 1079人
- ・ MEつうしん発行 5回

【専門・認定資格】

- ・ 血液浄化専門臨床工学技士 1名：丸山 広
- ・ 透析技術認定士 4名：丸山 広、赤坂紀之、佐々木和義、内藤恭子
- ・ 呼吸療法認定士 1名：内藤恭子
- ・ 植込み型心臓デバイス認定士 1名：山本真櫻
- ・ 医療機器情報コミュニケーター（MDIC） 1名：佐々木和義
- ・ 医療安全管理責任者 1名：丸山 広

血液浄化センター

文責 小峰 直樹

【スタッフ紹介】

泌尿器科医師 3 名 看護師長 1 名
看護主任 1 名 看護師 7 名
臨床工学技士 2 名 看護補助員 2 名

【部門紹介】

当センターでは、医師、看護師、臨床工学技士、看護補助員が密接な協力の元にチームとして機能し、安全性・専門性・迅速性を重視し、患者さんにとって最善の医療の提供を心がけています。慢性腎不全の透析導入・維持透析が中心ですが、その他、急性腎不全や重症疾患で血液浄化療法を必要とする患者さんに常時対応できる設備・体制を整えております。

また透析導入の原因の第一位は糖尿病性腎症であり、下肢末梢疾患（PAD）を合併する患者様が多く、最終的には下肢の切断に至る方もいます。そこで患者様全員に下肢末梢動脈管理を行うとともに糖尿病の患者様には糖尿病合併症疾患管理を行うことで足病変を早期発見、予防し患者様のADL維持向上につながる様、取り組んでおります。

現在、ベッド数は29床（うち2床個室）を有しており、能代山本地域の透析拠点病院として他施設と連携をとりながら、地域の患者さんへのより良い医療の提供を目指しています。

【部署目標】

接遇力・人間力を向上させ、安心で安全な透析治療環境を提供する。

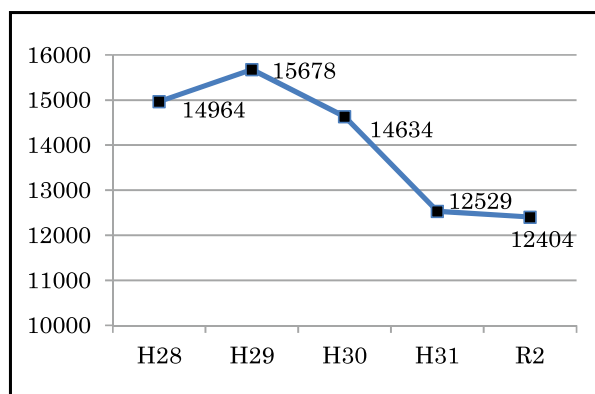
【業務内容】

- 慢性腎不全患者の透析導入・維持透析
- 各種急性血液浄化：持続緩徐式血液透析濾過（CHDF）・血液吸着療法（PMX）・血漿吸着療法（PA）・血漿交換療法（PE）・血球成分除去療法（GCAP）
- 腹水濾過濃縮再静注法
- シャントPTA（経皮的血管形成術）



【診療実績】

令和2年度 血液浄化療法総件数 12404件



透析・その他血液浄化療法・シャントPTA件数

透析件数	12381件	腹水濾過濃縮再静注	12件
CHDF	5件	血液吸着	4件
シャントPTA	18件		

フットケア関連加算件数

糖尿病合併症加算	126件	下肢末梢動脈疾患管理	922件
----------	------	------------	------

健診センター

【スタッフ紹介】

健診センター長 医師 三木一伸
保健師 3 名、看護師 1 名、視能訓練士 2 名、
事務職員 6 名

【部門紹介】

当センターは、健康診断・人間ドックをはじめとした健康管理活動、健康教育、啓蒙活動により、地域住民の健康増進を図り、疾病を予防することを、目的としています。



【業務内容】

・人間ドック、事業所健診、特定健診

現在の健康状態を明らかにし、疾病の早期発見及び健康保持を目的としています。精検受診率を上げるための取り組みとして、保健師から電話や手紙などで受診勧奨や健康相談を実施しています。

健診の種類	実施数
人間ドック（日帰り）	3,120
人間ドック（宿泊）	39
協会けんぽ健診	1,913
事業所健診	2,083
特定健診	217
総計	7,372

* 令和2度人間ドック・検診における精密検査受診率とがん発見率

	A	B	B/A	C	C/B	D	D/A
	受診者数	要精検数	要精検率	精 検 数	精 検 受 診 率	癌発見数	癌発見率
胃・食道がん	4,518	566	12.5%	432	76.3%	10	0.22%
大腸がん	6,063	328	5.4%	190	57.9%	8	0.13%
乳がん	2,714	138	5.1%	114	82.6%	3	0.11%
子宮がん	1,989	168	8.4%	93	55.4%	2	0.10%
前立腺がん	1,882	149	7.9%	75	50.3%	8	0.43%
肺がん	7,213	286	4.0%	231	80.8%	6	0.08%
総計	24,379	1,635	6.7%	1,135	69.4%	37	0.15%

・その他の検診

事業所健診、人間ドックのオプション健診として各種検査を実施しています。受診者の希望に応じた個別性を重視した幅広い検診を目指しています。受診者へ丁寧な検査説明を行い、随時、保健師からの健康相談も実施しております。

検診の種類	実施数
脳ドック	128
肺ドック	75
電離放射線検診	16
有機溶剤検診	28
特定化学物質検診	3
風疹抗体検査	191
腫瘍マーカー	577
CAV I（動脈硬化検査）	161
乳腺エコー	327
B N P（心不全検査）	252
骨密度検診	144
A B C 検診（ピロリ菌）	50
合計	1,952

・予防接種

当職員の他、一般患者、事業所、消防、警察からの依頼を受けて、予防接種を実施しています。令和2年度からは、带状疱疹の予防として実施している水痘ワクチンが、自治体の助成対象となり、実施者が増加しています。また、風疹の抗体価が低い成人男性に対して、無料クーポン券が配布され、抗体検査の実施と、抗体価が低い方を対象にワクチンを実施しています。

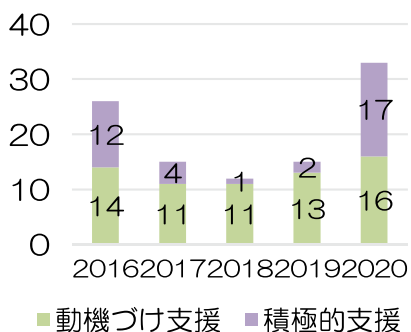
予防接種の種類	実施数
インフルエンザ	848
B型肝炎	404
水痘	26
おたふく	48
麻疹・風疹	78
日本脳炎	4
破傷風	1
合計	1,409

・特定保健指導

生活習慣病のリスクが高く、生活習慣の改善により予防効果が期待できる方に対し、保険者からの依頼を受けて、保健師及び管理栄養士が食事や運動などのサポートを行っています。保健師は、3名が人間ドック健診情報管理指導士を取得しております。令和2年度は、33名の特定保健指導を実施いたしました。

保険者	動機付支援	積極的支援	合計
	8,286円	29,891円	
協会けんぽ	6	6	12
スズキ健保	0	3	3
農林健保	2	3	5
市町村共済	1	3	4
地方職員共済	0	1	1
能代市	4	0	4
三種町	1	0	1
八峰町	1	0	1
藤里町	1	1	2
	16	17	33

特定保健指導実施人数



区 分	内 容		
動機付け	Ⅰ 初回面接		
	個別面接1回（20分以上）		
	Ⅱ 実績評価		
	・3ヶ月以上経過後、実績評価を面接又は通信（電話、手紙等）で実施		
積極的支援	初回時面接の形態	① 個別面接1回（20分以上）	
	3ヶ月以上の継続的な支援	実施ポイント数	厚生労働省「標準的な健診・保健指導プログラム」（第3編）を参照し、支援Aのみで180ポイント以上、又は支援A（最低160ポイント以上）と支援Bの合計で180ポイント以上の支援を実施すること
		主な形態実施	支援中に直接面接（個別・グループ）支援を必ず1回以上行い、電話、メール支援を効果的に活用して3か月以上実施すること
	終了時評価の形態		3～6ヶ月後の実績評価を面接又は通信（電話、手紙等）で実施

【主な会議等】

- 健診センター運営委員会
 - ・主な案件
 - 1) 令和2年度健診事業報告
 - 2) 受診者満足度調査結果

【学会発表】

- 秋田県看護学会（Web）
 - 11月10日～23日
 - 石井美保子
 - 「糖尿病治療中の方への眼科受診へのアプローチ」

入退院支援センター

【スタッフ紹介】

- ・センター長：整形外科 伊藤博紀 医師
- ・看護師：（入院支援）5名
（退院支援）6名
- ・社会福祉士：5名
- ・薬剤師：1名



患者支援センタースタッフ

【部門紹介】

入院される患者さんが安心して治療を受け生活が送れるよう、入院前から退院まで多職種が連携して関わり支援いたします。また、退院後も患者さんが住み慣れた地域で安心して療養や生活が出来るよう、地域とも連携しながら退院の支援や調整を行っています。患者支援センター内の、医療福祉相談室、地域医療連携室と情報共有し、患者さんやご家族を支援しております。

【業務内容】

- ・予約入院患者さんの入院案内、入院前オリエンテーション、クリニカルパスなどの説明。
- ・患者プロフィール等のデータベース作成
- ・各種スクリーニングによる、リスクアセスメント
- ・薬剤科や栄養科など多職種と連携した情報収集・患者指導
- ・退院支援・調整（転院調整）
- ・在宅療養や介護申請、訪問看護利用についての相談対応や説明
- ・退院前カンファレンスの実施
- ・退院前訪問・退院後訪問の実施

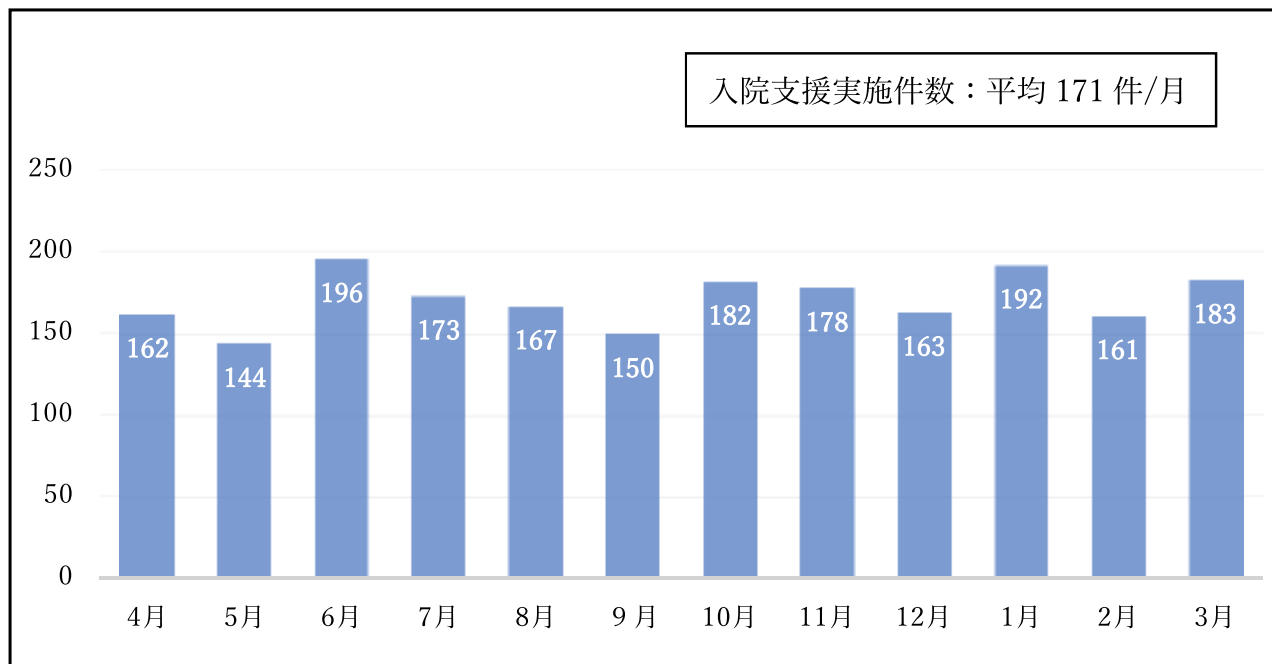


入院支援の説明

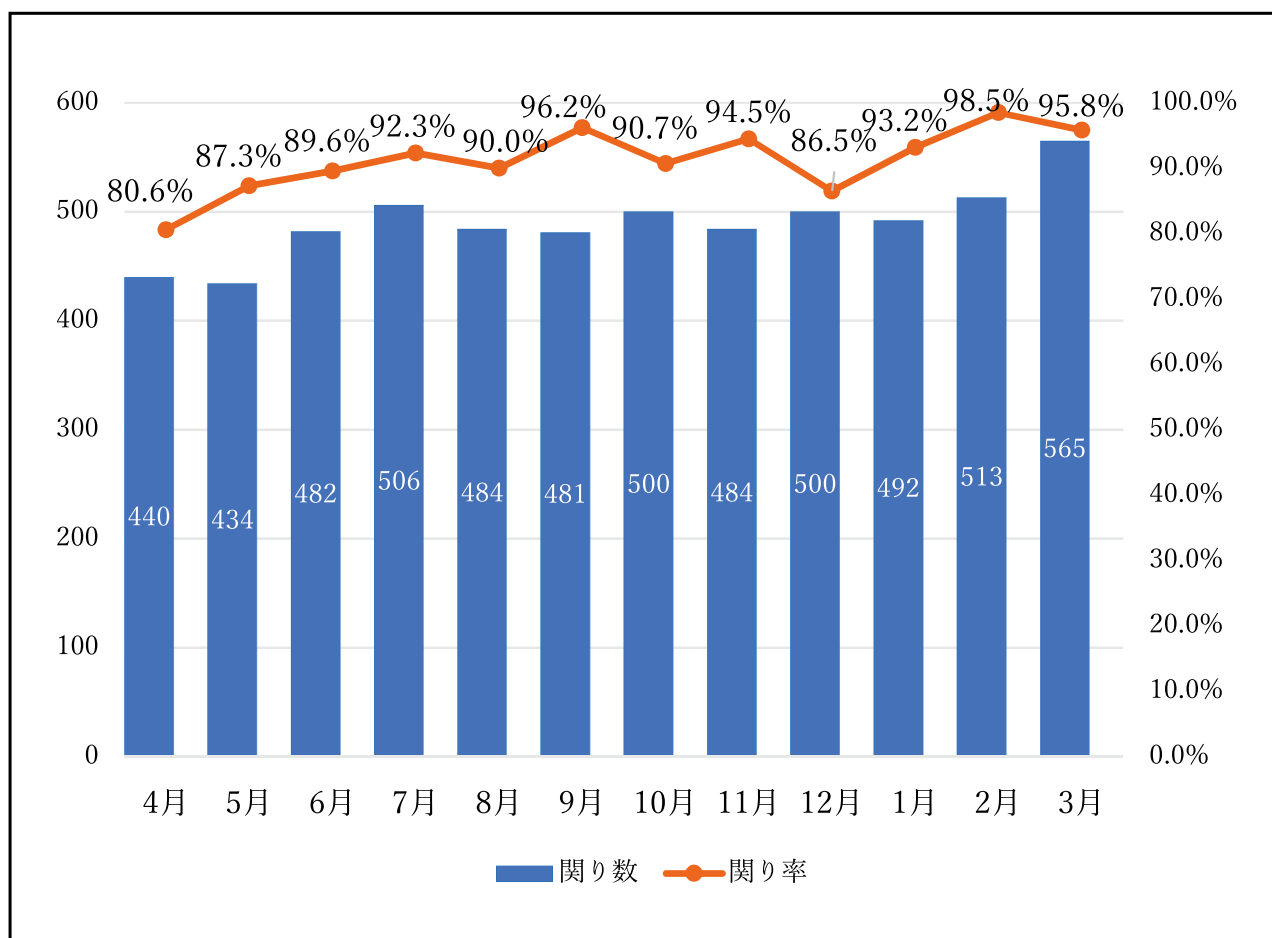


退院支援 病棟多職種カンファレンス

入退院支援センター【入院支援】実績（令和2年4月～令和3年3月）



入退院支援センター【退院支援】実績（令和2年4月～令和3年3月）



地域医療連携室

文責 野呂江津子

【スタッフ紹介】

地域医療連携室長 佐藤 毅（医師） 課長補佐 菊地 真人
看護師長 野呂江津子 M S W 阿部 綾華（兼務）
看護師 伊藤美穂子 事務 西坂美加子、大高ゆうき

【部門紹介】

地域医療連携室は平成18年8月に開設され、平成30年5月に入退院支援や医療相談室と統合して患者支援センターになった。切れ目のない医療の提供と地域医療連携の充実を目的として活動しており、病院の前方連携を担う部門である。

令和2年度はかかりつけ医制の推進に力を入れた。開業医リーフレットを作成してエントランスに設置したほか、個々の患者に対して説明を行った。新型コロナウイルスの影響で親睦会や研修会は開催できず、開業医への訪問はできるだけ控えたり、感染予防策をとりながら当院のPRリーフレットを持参して訪問したり、制約が多い1年であった。

【業務内容】

- 1) 紹介患者診察予約・案内
- 2) 病病連携・病診連携・歯科連携に関する連絡調整と相談
 - ①救急患者搬送時の連絡対応
 - ②転院・転入院の連絡調整
 - ③PET-CT等の予約調整
 - ④逆紹介患者の予約
 - ⑤歯科医院の予約
 - ⑥診療相談の窓口
- 3) 紹介・逆紹介患者の情報管理（各種報告書管理・借用物管理・統計資料作成）
- 4) 連携室だより作成
- 5) 地域連携プロジェクトとの協働（①地域連携機関との親睦会・情報交換会 ②講師派遣窓口）
- 6) 地域連携パス運用協力（①秋田県統一5大がんパス②脳卒中パス③骨粗鬆症連携）
- 7) 医院・施設等への訪問
- 8) 受託検査・分娩予約・レスパイト入院の窓口
- 9) かかりつけ医制の患者説明

【実績】（令和2年4月～令和3年3月）

紹介数（紹介率）	2201件（25%）
逆紹介数（逆紹介率）	4483件（52%）
歯科連携	236件
返書率	99%
受託検査（CT・MRI等）	374件
放射線治療の受け入れ	23件
レスパイト入院受け入れ	6件
5大がん地域連携パス	新規22件（300件運用中）
親睦会開催	0
研修会開催	0

医療福祉相談室

文責 阿部 綾華

【スタッフ紹介】

社会福祉士 2 名 社会福祉士・精神保健福祉士 4 名 合計 6 名

【部門紹介】

社会福祉、精神保健福祉の立場から、患者さんやそのご家族の抱える社会的問題解決、院内外調整支援を行っております。患者支援センター内に設置され、退院支援・地域医療連携・認知症疾患医療センター・がん相談・就労支援と多職種連携の元業務にあたっております。

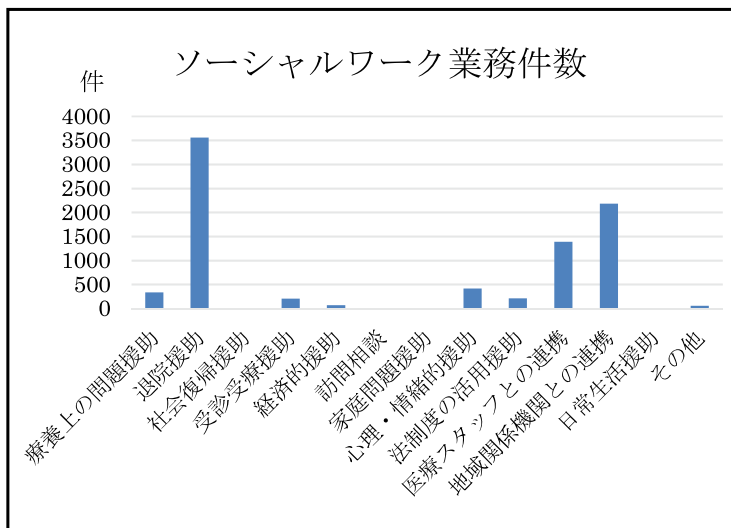
【業務内容】

- 1) 医療福祉相談…①医療費等経済的問題 ②身体障害者福祉、介護保険等 ③その他各種相談
- 2) 地域医療連携…①紹介予約受付 ②逆紹介業務 等
- 3) 退院支援…退院支援部門と協働
- 4) 認知症疾患医療センター…①予約受付 ②認知症に関する相談
- 5) がん相談…がんに関する相談
- 6) 就労支援…病気を抱えながら就労するための相談

【診療実績】

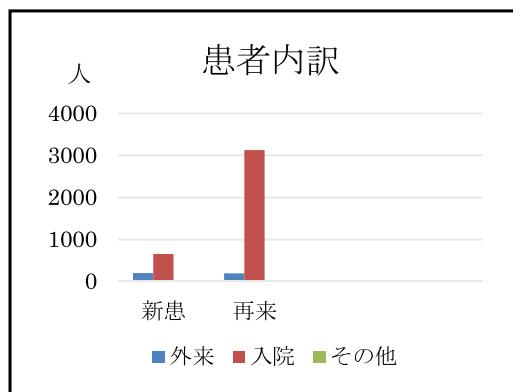
<ソーシャルワーク業務件数>

ソーシャルワーク業務	件数
①療養上の問題援助	336件
②退院援助	3558件
③社会復帰援助	7件
④受診受療援助	203件
⑤経済的援助	69件
⑥訪問相談	1件
⑦家庭問題援助	9件
⑧心理・情緒的援助	417件
⑨法制度の活用援助	214件
⑩医療スタッフとの連携	1389件
⑪地域関係機関との連携	2182件
⑫日常生活援助	9件
⑬その他	58件
合 計	8452件



<患者内訳>

	外 来	入 院	その他
新 患	195人	651人	11人
再 来	191人	3124人	11人



訪問看護ステーション

文責 工藤ゆき子

【スタッフ紹介】

看護 師：5名
理学療法士：1名（専従）
事務 職：1名（居宅と兼務）

【部門紹介】

主治医から発行された訪問看護指示書を基に、看護師・理学療法士等の専門職が訪問計画を作成し、定期的にお住まいへ伺います。療養生活を送っている本人やご家族、介護される方の意思決定の支援、自立した生活を送るための体制及び在宅療養チームを整備するために活動しています。

「赤ちゃんから100才までを」モットーに、多様な年齢・多様な病態の方へ向けた支援をしています。

【訪問エリア】

能代市・山本郡内（1市・3町）
※24時間対応が可能な体制です。

【訪問体制】

- ①24時間対応体制加算
- ②特別管理加算
- ③看護体制強化加算
- ④生活保護法指定医療機関
- ⑤指定自立支援医療機関
- ⑥難病医費助成指定医療機関
- ⑦小児慢性特定疾病医療機関



【業務内容】

- 療養上のお世話
- 医師の指示による医療処置
- 病状の観察
- 医療機器の管理・指導
- ターミナルケア
- 褥瘡予防・処置
- 在宅リハビリテーション
- 認知症ケア
- ご家族等への介護支援・相談
- 介護予防

【実績報告】

訪問 総 数 4,018件（リハビリ1,075件）
新規利用者数 57人（4.75人／月）
終了者数 48人
平均訪問件数 16.5人／日
平均単価 9,079円

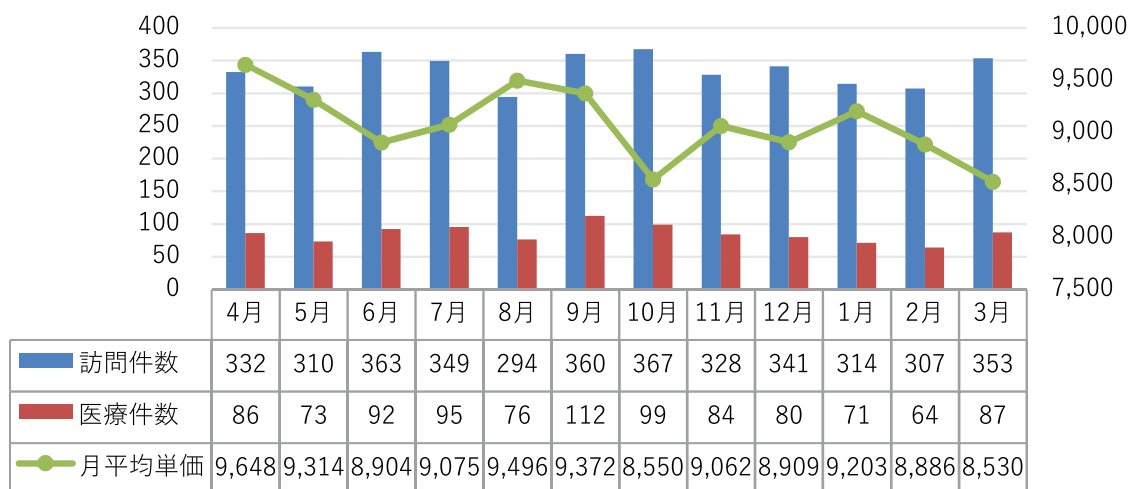
【地域貢献】

- ◎精神科訪問看護の実践
- ◎要支援認定者の生活支援
- ◎在宅看護論臨地実習受け入れ
 - ・あきた白神看護学院
 - ・東北福祉看護専門学校
 - ・日赤秋田看護大学
- ※医学生、リハビリテーション科学生他の実習受け入れ
- ◎グループホームとの医療連携：4事業所

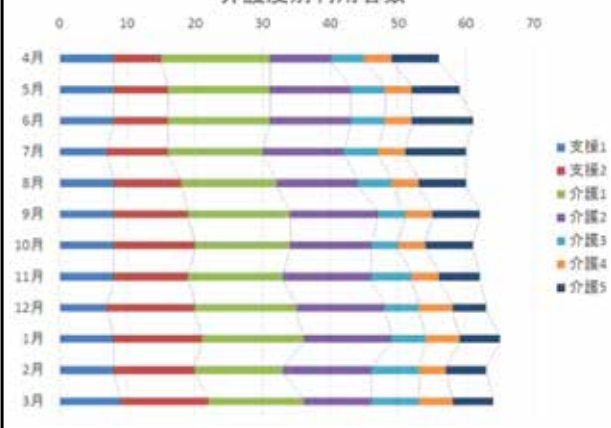
【講演等実績】

- ◎一般社団法人 秋田県医師会主催
県民公開講演会＜ナラティブブック秋田＞
パネルディスカッション
パネリスト：大嶋亜希子
令和2年10月18日（日）
於：にぎわい交流館AU

令和2年度 訪問件数・単価比較



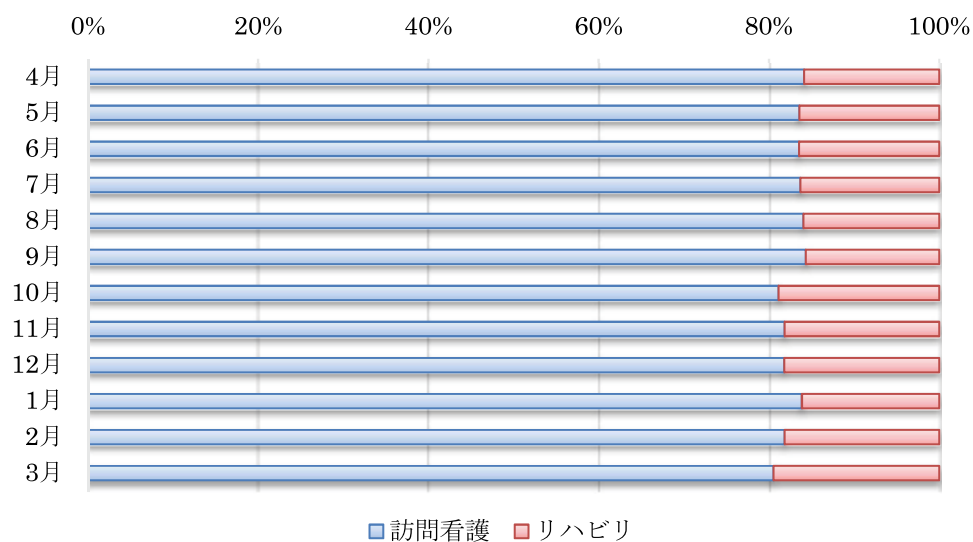
介護度別利用者数



リハビリ訪問実績



訪問看護とリハビリの収入割合



居宅介護支援事業所

文責 成田 友子

【スタッフ紹介】

成田 友子（管理者、主任介護支援専門員）
堀内 光子（主任介護支援専門員）
加賀谷光子（主任介護支援専門員）
田畑 郁美（介護支援専門員）

【部門紹介】

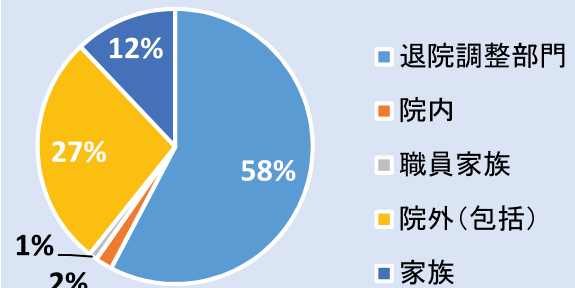
能代市・山本郡の地域で介護を要する方、並びにご家族へ介護保険サービスの提供（ケアプランの作成）を通じて、ご自宅での安定した生活が送れるよう支援しております。重度でも在宅でQQLが維持できる地域福祉を目指します。

特定事業所加算Ⅱを取得し、24時間連絡体制を取っています。

【業務内容】

1. 利用者や家族からの介護相談業務
2. 要介護認定の書類作成および申請・更新代行
3. 課題分析(アセスメント)、ケアプラン作成
4. サービス担当者会議の開催
5. モニタリング、介護サービスの再調整
6. 利用者と各サービス事業所との連絡調整
7. 給付管理
8. 包括支援センターや市町村役場への相談や連携調整
9. 老人福祉サービス等の申請代行
10. 新規利用者や困難事例への対応
11. 各事業所へのサービス提供票等の配布

令和2年度 新規相談者 89件内訳



【業務活動状況】

- ・ケアプラン作成件数は要介護1079件、要支援158件。内新規利用者51人、終了者38人。
- ・新規相談者数89人。内ケアプランに繋がった人数43名（49%）。

【教育活動】

- ・介護支援専門員実務研修における実習受け入れ
- ・計画的な教育計画で研修会
主任介護支援専門員更新研修
日本ケアマネジメント学会
認定ケアマネジャー全体研修会
虐待防止セミナー
認知症シリーズ講演会

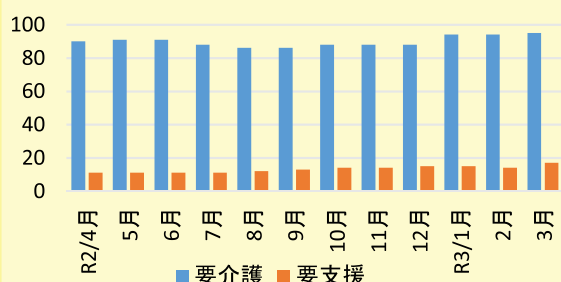


ご自宅へ伺ってのモニタリング



ご自宅でのサービス担当者会議

令和2年度 ケアプラン作成件数



看護部

文責 日沼ゆかり

【管理職紹介】

副院長看護部長 1 名 看護副部長 4 名
 看護師長 17 名 看護副師長 15 名
 看護主任 29 名 管理職計 66 名
 スタッフ 240 名

【看護部紹介】

2020 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の救護活動や病院紹介など実施できませんでした。また、学会や看護研究、研修会や会議は、e ラーニングや Zoom で開催し参加しました。感染症病棟稼働は、8 月～新型コロナウイルス感染症患者を受け入れ 12 名の患者さんが退院されました。毎日の発熱外来での検査介助、地域へ出向いての新型コロナワクチン集団接種など頑張りました。医療職である責任を持った行動が非常に大切な年でした。師長会では、「みんなが元気に生き生きと笑顔で働けるよう各部署のラウンドを行う」を目標に季節に合わせてプチ仮装し師長会の小集団「スマイルラウンド」を年 4 回実施しました。対象は、新人看護師や看護師や看護補助者の勤務交代者、師長、副師長、主任など管理者など感謝を書いた手書きメッセージを伝えプチお菓子のプレゼントを持参し声掛けを行いました。対象者からは、「ラウンドに来てくれて嬉しい」など嬉しい感想が聞けました。これからもお互いを大切に、看護部一致団結し頑張りたいと思います。

【認定取得】令和 2 年度

認 定 名	取得人数	累 計
看護管理者 ファーストレベル	0 人	49 人
セカンドレベル	4 人	15 人
サードレベル	0 人	2 人
医療安全管理者	0 人	14 人
※認定看護師 (特定 1 名含む)		11 人

【看護部目標】

地域に根差し、安全と安心信頼と納得の得られる質の良い看護を提供します

1. まあるい心・笑顔・言葉で働きやすい職場風土を保ちます
2. 質の高い看護を提供し続けられる看護部を目指します



《雑誌投稿》

日創研「ナースマネジャー」2021. 2 月号

『BSC の活用における部署の方針策定と戦略目標設定までのプロセス』 佐藤ひとみ

《地域における活動》

- * 看護のお仕事（保健師・助産師・看護師）の紹介ポスター作成・配布……中学 3 校・高校 4 校
- * インターシップ……看護学生

看護学生実習

しらかみ看護学院
 秋田看護福祉大学（助産科）
 日本赤十字秋田看護大学
 東北福祉看護学校

新型コロナワクチン集団接種活動

能代市・二ツ井・三種町・八峰町・藤里町

中央手術部

文責 渡部 幹子

【スタッフ紹介】

麻酔科医師（非常勤）：5名
 松本 純一、中澤 健二、東海林 圭、
 今井友佳子、西川 俊昭
 看護副師長：2名 看護主任：2名
 看護師：15名（臨時1名）
 看護補助者：2名 クラーク：1名
 計27名

【手術部紹介】



令和2年度は1624件の手術が行われました。
 うち、全身麻酔件数は1202件でした。

師長不在の体制下で令和2年度がスタート。
 さらに新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、感染対策の整備、医療資源の確保、スタッフの行動歴管理など前例のない経験をしました。そのような状況下でも医師を始めスタッフの協力のもと手術件数制限をせず、地域中核病院としての役割を果たすことができました。
 また、コロナウイルス陽性患者の手術症例が無かったことは幸いでした。

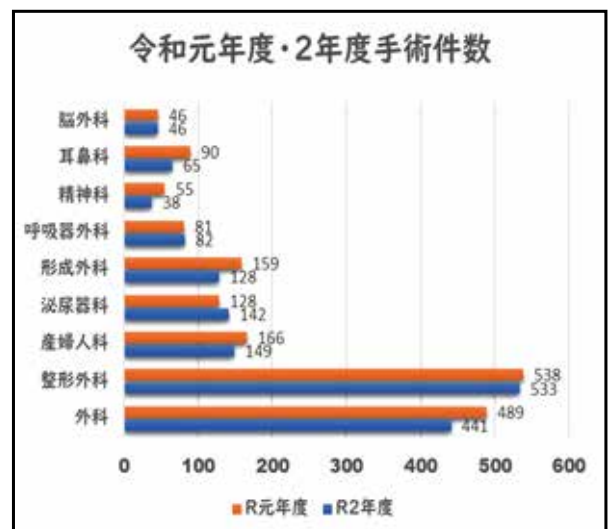
院内看護研究発表では、側臥位手術にドレッシング剤を使用した褥瘡予防への取り組みを発表しました。一方、第123回秋田県農村医学会学術大会での発表演題：胸腰椎腹臥位手術における頬部表皮剥離減少に向けた取り組みが学術奨励賞を受賞。多職種との連携・看護の標準化と実践の結果、継続した質の高い看護の提供に繋がったことが評価されました。

【各診療科手術件数・全身麻酔件数】

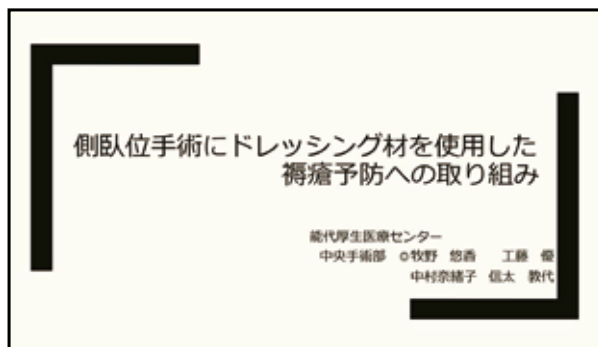
令和2年4月1日～令和3年3月31日

診療科	手術件数	全身麻酔件数
外科	441	401
整形外科	533	366
産婦人科	149	138
泌尿器科	142	108
形成外科	128	1
呼吸器外科	82	79
精神科	38	35
耳鼻科	65	48
脳外科	46	26

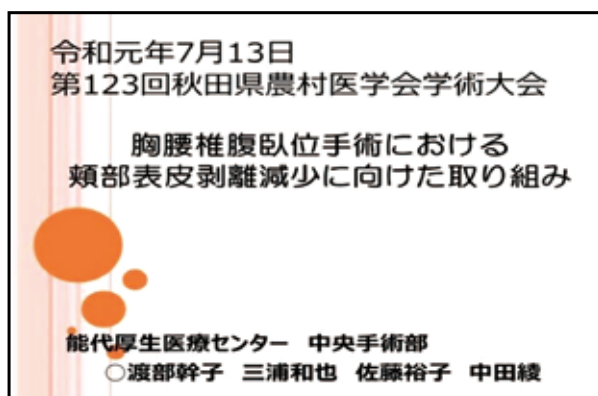
【手術件数推移】



【令和2年度院内研究発表】



【学術奨励賞】



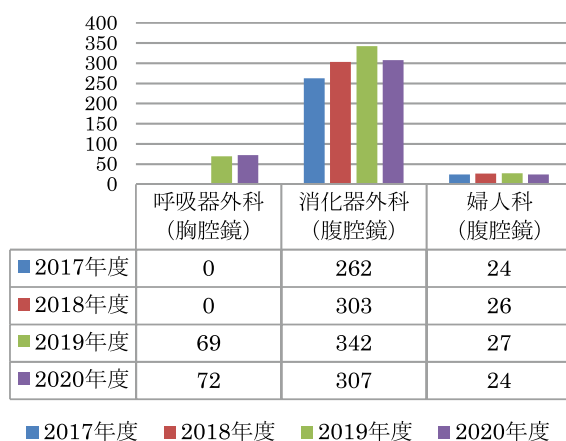
【授賞式】



【部署目標】

1. 地域中核病院として、安全で安心な医療を提供する
2. チーム力を強化し、楽しくやりがいのある手術室環境作り
 - 1) 顧客の視点
 - ①患者満足度の向上
 - ②手術・麻酔によるリスク予防
 - 2) 財務の視点
 - ①病院収益の確保・手術件数の確保
 - ②医療機器の管理・破損紛失の防止
 - ③薬品の管理・定数化
 - ④術後コスト入力管理・入力もれ削減
 - 3) 内部プロセスの視点
 - ①医療安全に努める・確認の徹底と習慣化
 - ②感染対策・暴露予防・ゴーグル着用率
 - ③医療の標準化・安全安心な看護の推進
 - 4) 学習と成長の視点
 - ①専門分野の知識・技術の習得
 - ②楽しく仕事の出来る職場環境作り
 - ③残業時間の平均化と削減・労務環境整備

内視鏡（体腔鏡）手術推移



3 B 病棟

文責 北嶋 清子

【スタッフ紹介】

精神科医師 4 名
看護師長 1 名 看護副師長 1 名
看護主任 3 名 看護師 18 名
准看護師 2 名 看護補助者 3 名
作業療法士 1 名 精神保健福祉士 2 名
計 35 名

【病棟紹介】

3 B 病棟は病床数 60 床の精神科病棟で、保護観察室 2 床と施設可能な個室 3 床を有する閉鎖病棟です。平成 29 年 11 月より 13 対 1 看護体制を取得しています。精神科救急医療システムの地域拠点病院として能代山本・北秋圏の精神科救急医療を担っており、夜間休日緊急入院にも対応しています。うつ病、躁うつ病、統合失調症、認知症、神経症、アルコール依存症などの患者さんへ入院治療を行なっています。薬物難治例や精神症状の強いうつ病患者に対して修正型電気けいれん療法（m-ECT）を麻酔科医管理のもとで行なっています。また、認知症による多様な精神症状に対応するため、認知症疾患医療センター・地域包括支援センターと連携し、認知症検査入院や、レスパイト入院の受け入れを行っています。

【多職種連携・カンファレンス】

・患者様の社会復帰を目指し、急性期から退院後を見据えた継続的な支援を行っています。

退院支援カンファレンス	毎週月曜日
入院時ケースカンファレンス	毎週月曜日
医療保護入院患者の継続検討会	毎週月曜日
行動制限最小化委員会	第 4 月曜日

【病棟実績】

令和元年 4 月から令和 2 年 3 月

病床稼働率	73.1%
平均在院日数	59.9 日
精神科デイケア体験者数	9 名
修正型電気けいれん療法（m-ECT）	37 件

【病棟目標】

1. 医療・看護の質を向上させ、安心安全な療養環境を提供する。
2. 13：1 体制を維持し、多職種と連携し、個性のある医療・看護を提供する。
3. まあるい心 まあるい笑顔 まあるい言葉で働き続けられる職場環境の発展を目指す。



（多職種連携を大切にしています！☆）

【学会発表】

令和 2 年度

日本精神科看護協会 秋田県支部

精神科看護研究論文発表会 Web開催

- ①「統合失調症患者の服薬アドヒアランス向上にむけた試み館岡」 長岡雄人
- ②「措置入院患者における退院後支援マニュアルを活用した初症例」 内藤建介

【院内看護研究】

令和 2 年 10 月 6 日

「措置入院患者における退院後支援マニュアルを活用した初症例」 内藤建介

精神科作業療法室

文責 石川 周

【スタッフ紹介】

作業療法士 1 名

【業務内容】

対象は 3 B 病棟へ入院中の急性期～慢性期の患者で医師からの処方により実施されます。

病棟内と精神科作業療法室を中心に集団で作業活動を行い、基本的な生活リズムの改善や気分転換、対人関係能力・社会性の向上、集中力・耐久性の向上、作業遂行能力の向上、自己能力の確認、自身の獲得などを目標に日々のプログラムを実施していきます。

- ・ 創作活動：ぬりえ、スクラッチアート、編物、ハーバリウム、プラ板アクセサリ作りなど
- ・ 調理活動：話し合いでメニューを決め月 2 回実施
- ・ 体操、ウォーキング
- ・ 脳トレ
- ・ 個々の状態に合わせた個別リハビリテーション

精神科デイケアとの連携も図っており、入院中にデイケアのプログラム見学や体験、デイケアスタッフとの顔合わせを実施し、退院後スムーズにデイケアが利用できるように支援を行っています。

【令和 2 年度活動実績】

	件 数	単位数	収 支
年間合計	2483	1766	¥3,885,200
平 均	206	147	¥323,767



4 A病棟（地域包括ケア病棟）

文責 小川菜穂子

【スタッフ紹介】

看護師長1名 副師長2名 主任1名
看護師16名 看護補助員7名

【病棟紹介】

急性期の治療が終了し、病状が安定した患者さんに対し在宅復帰に向けて、リハビリや退院支援を行うことを目的とした病棟です。医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー、ケアマネジャー等が協力して、患者さんご家族の退院支援、調整をサポートしています。その人らしい暮らしを最後まで続けられるように取り組んでおります。直接入院では、手術の短期入院等や、レスパイト入院の受け入れも行っています。

【看護活動】

複数の診療科の患者さんに対応するため、スタッフは専門的な知識習得のため、年間20回以上の学習会を開催しスキルアップを図っています。看護補助員と協力して、清潔ケアの充実にも力を入れています。

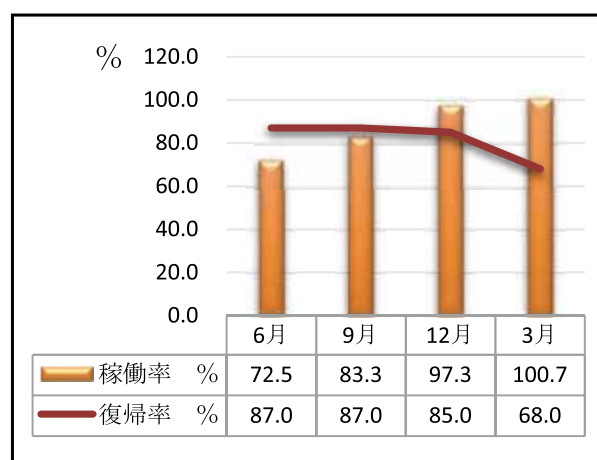
当病棟においては高齢の患者さんが多く、様々な疾患と退院困難な背景を抱えているため、個々に合わせた退院支援が必要とされています。病棟スタッフと多職種部門が連携して情報交換、情報共有をするため定期的な多職種カンファレンスを実施しています。また必要に応じて適宜話し合いの場を設けています。患者さん・ご家族が満足して納得して退院や転院ができるような関わりを心掛けています。

【病棟目標】

1. 確認の徹底による安心・安全な医療と看護の提供
2. 患者の求める療養環境の提供と接遇向上
3. 包括ケア病棟として病院経営参画
4. 専門性の向上と人材育成

【令和2年度実績】

◇病棟稼働率と在宅復帰率



◇ラダー取得：3名

◇病棟学習会・伝達講習会：20回

◇院内研究

地域包括ケア病棟における多職種間の効果的な情報共有の検討
清水美香子、三熊寿々子、朝倉優海、永井春華



～多職種カンファレンスの様子～

5 A 病棟

文責 千葉 愛

【スタッフ紹介】 R3年1月まで

消化器科医師3名 小児科医師3名
看護師長1名 看護副師長1名
看護主任2名 看護師25名
准看護師1名
看護補助者3名(うち1名看護クラーク業務)

【病棟紹介】

消化器科38床、小児科16床（うち未熟児室4床）の計54床の混合病棟です。

消化器科は、青年期から老年期までの幅広い年齢層の急性期疾患、悪性腫瘍の手術・検査・治療、及び終末期で緩和ケアを必要としている患者を対象に看護を行っています。検査予定入院から緊急入院の患者に対して、パスを使用し、入院支援センターとリハビリ、緩和ケアチーム、退院調整など多職種との連携を強化しチーム医療の提供と患者サービスに努めています。

小児科は、0歳から中学生までを対象とし、能代山本で唯一の未熟児室を有しています。発達段階を踏まえた看護ケアと不安を抱えている家族へ寄り添う家族ケアに力を入れています。

未熟児室



プレイルーム

【スタッフ紹介】 R3年2月から

整形外科医師5名 小児科医師2名
皮膚科医師2名
看護師長1名 看護副師長1名
看護主任2名 看護師22名
准看護師1名
看護補助者3名(うち1名看護クラーク業務)

【病棟紹介】

整形外科、小児科（うち未熟児室4床）、皮膚科の計50床の混合病棟です。

0歳から100歳以上まで入院されています。急性期、周術期を担っています。

整形外科は、運動器（関節・骨・筋肉・腱・靱帯や神経）疾患や外傷の患者が多く入院されています。入院生活を送る上で、日常生活動作の援助を必要とする患者がほとんどであるため、患者のニーズに合わせた看護ケアを行っています。多職種と連携し、スムーズに地域へ帰れるよう努めています。

皮膚科は、アナフィラキシーショックや带状疱疹、蜂窩織炎、皮膚創傷処置や輸液管理を行っています。

【実績・活動報告等】

令和2年度

平均在院日数	16.8日
病床稼働率	71.1%
接遇満足度	97.2%

N C P R（新生児蘇生法）取得者：5名

【病棟目標】

あいさつ・笑顔・安全管理・感染予防を大切に、お互いを認め合う職場風土を目指します。

5 B 病棟

文責 田畑 信子

【スタッフ紹介】

産婦人科医師 4 名 看護師長 1 名
看護副師長 2 名 看護主任 1 名
助産師 18 名 看護師 7 名
准看護師 1 名 看護補助者 2 名
(アドバンス助産師 14 名) 計 28 名

【病棟紹介】

コロナ禍にも関わらず、当院の分娩数は 2019 年とほぼ同数でした。助産師による妊娠中から産後までの専門的継続ケアの役割が重要視されています。地域連携による要支援妊産婦の情報共有とともに、今年度は宿泊型産後ケア事業の受け入れを開始しました。また婦人科腫瘍の化学療法と手術にも力を入れています。さらにレディース科として、産婦人科以外の女性の医療と心のこもった看護やケアの提供を行っています。

【診療実績・活動報告】

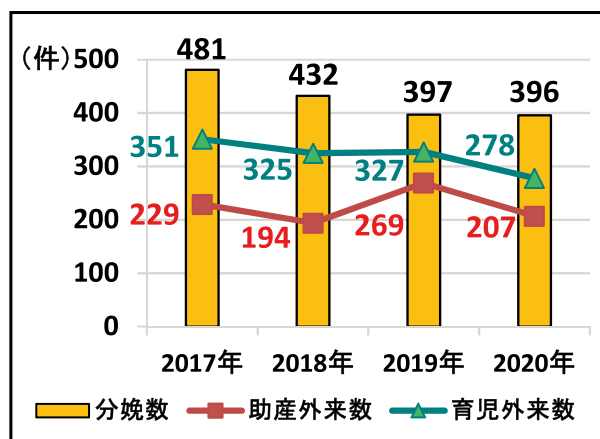
表 1. 2020 年 化学療法・手術内訳

化学療法	184 人
産婦人科手術	202 件

【産後ケア事業 宿泊型利用実績】

能代市 1 件 7 日間

図 1. 分娩数・助産外来・育児外来数



【病棟目標】

1. 「確認の徹底とルール遵守」により 0 レベルレポート提出推進し安全文化の定着を目指します。
2. 接遇力を磨き患者満足度の向上を図ります。
3. 質の高い医療の提供に取り組み専門職として学び続けます。



朝のカンファレンス

《学会発表》

第 23 回

医療マネジメント学会学術総会学術総会
「エントランス接遇活動に対する管理職の意識改革への取り組み」

《講習会実施》

令和 2 年 11 月

新生児蘇生法 (N C P R) 講習会

《地域活動》

「命の出前講座」

能代市、山本郡の小中学校へ 3 回／年

「ベビータッチングケア」

能代市、山本郡の母子へ 8 回／年

《接遇ハートフルスタッフ賞》

佐藤孝子・舩屋明海

6 A 病棟

文責 山田 佳子

【スタッフ紹介】

循環器科医師 4 名	泌尿器科医師 3 名
看護師長 1 名	看護副師長 1 名
看護主任 2 名	看護師 22 名
准看護師 3 名	看護補助者 3 名

【病棟紹介】

6 A 病棟は令和 3 年 2 月の病棟再編により循環器内科、泌尿器科 49 床の混合病棟となりました。

循環器内科では心筋梗塞、狭心症、心不全、不整脈、洞不全症候群、閉塞性動脈硬化症、心筋炎、肺塞栓症などの疾患を治療しています。P C I、心臓カテーテル検査、ペースメーカー埋め込み・ペースメーカー電池交換術、体外ペースメーカー、下肢動脈フィルター留置、下肢動脈治療などを行っています。泌尿器科は、排尿障害、尿路感染、尿管結石、腎不全、悪性腫瘍などの疾患を治療しています。前立腺生検、前立腺、膀胱などの手術、尿管ステント挿入・交換、体外衝撃波結石破碎術、シャント造設術、悪性腫瘍に対する放射線療法などを行っています。

生命維持装置装着、I A B P 療法、手術後管理など高度な急性期看護を必要とする患者様へ対応しながら、高齢者・認知症の患者様が早期退院へ向けた看護援助を行っています。病棟再編後は入退院が激しく高稼働率が続く中、多職種と共働り、P N S マインドを育て安全・安心な医療・看護を提供するためスタッフ一同頑張っています。

【病棟目標】

1. 患者の視点に立った安全・安心な医療・看護を提供します。
2. 患者満足度、職員満足度の向上をめざします。

【小集団活動】

勉強会チーム・業務改善チーム・接遇チームの 3 チームで、信頼される医療と質の高い看護を提供するため活動しています。

- ・勉強会チーム 医療機器の知識または専門的な看護が共通理解されるよう医師・ME の協力を得ながら病棟勉強会を積極的に行っています。また伝達講習を行うことでスタッフ全体のレベルアップを図っています。
- ・業務改善チーム K Y T の実施を踏まえた業務改善、パスの見直し作成を行っています。
- ・接遇チーム ナースステーション内の環境整備、廊下やラウンジよねしろの季節ごとの癒しの空間作りを行っています。



【看護研究】

秋田県農村医学会（令和元年 7 月 13 日）

「申し送り廃止後も安心・安全な看護を提供するための情報収集の検討」

発表者：秋元祐太 研究メンバー：菊池聖子、大高玲子、大久保苑夏

院内看護研究発表会（令和元年 11 月 13 日）

「経皮的冠動脈形成術に対する看護師の不安要因」

発表者：安保智絵 研究メンバー：伊藤達彦、児玉節子、加賀谷寛子

6 B 病棟

文責 赤塚 悦子

【スタッフ紹介】

呼吸器内科医師 2 名 呼吸器外科医師 2 名
耳鼻科医師 2 名
看護副部長 1 名 看護副師長 1 名
看護主任 2 名 看護師 22 名
准看護師 1 名 看護補助者 4 名

【病棟紹介】

6 B 病棟は、呼吸器内科、呼吸器外科、皮膚科の混合病棟として稼働していましたが、令和 3 年 2 月に病棟再編が実施されました。

再編後は、呼吸器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科として新たな出発となりました。

病棟の特徴としては、呼吸器外科、耳鼻咽喉科の周術期をはじめ、呼吸器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科において、がん治療を主体とした化学療法、放射線治療を行っております。

また、終末期・緩和治療としては、院内における緩和医療チームとの連携を図り、患者さんへのサポートも実施しております。

看護の特徴としては、専門的な治療に対する看護の特殊性のみならず、入院時から退院後の生活を見据えた患者家族支援が必要となります。このため、多職種カンファレンスをはじめ、多職種ラウンドを行い多職種連携に努めています。今後も医療チームと連携を図り「住み慣れた地域で暮らす」を支援できるよう、信頼されるチーム医療を推進していきます。

【病棟目標】

1. 安全に対する意識を高め、信頼されるチーム医療の推進
2. 共に支え合い成長できる 6 B 病棟

【診療実績】

令和 2 年内訳

病棟稼働率	77.2%
平均在院日数	16.4 日
化学療法延べ患者数	136 名
放射線療法患者数	39 名
手術件数	96 件



7 A 病棟

文責 竹嶋 純子

【スタッフ紹介】

脳神経外科医師 2 名 消化器内科医師 4 名
看護師長 1 名 看護副師長 1 名
看護主任 2 名 看護師 26 名
准看護師 1 名 看護補助者 3 名
看護クラーク 1 名

【病棟紹介】

今年度病棟再編成し、脳神経外科20床、消化器内科28床の混合病棟となり、学童期から老年期までの幅広い年齢層の患者が入院しています。

脳神経外科は脳卒中や脳血管疾患、外傷、悪性腫瘍の検査・手術・治療を必要としている患者を対象としています。救急搬送が多く、95%が緊急入院で緊急・予定手術を行っています。

消化器内科は、急性期疾患、悪性腫瘍の手術・検査・治療、及び終末期で緩和ケアを必要としている患者を対象としています。内視鏡検査や予定手術入院だけでなく緊急入院も多く、緊急検査・治療を実施しています。

入院時より退院後を見据えて患者や家族の思いに寄り添いながら、早期退院が出来るように多職種カンファレンスを実施しています。必要なニーズを把握して医師や入退院支援センターや薬剤師、栄養士、理学・作業・言語療法士、認定看護師、医事課などが連携し、希望に添えるようチーム医療や患者サービスの提供に努めています。



【診療実績・活動報告】

令和2年度

平均在院日数	16.7日
病床稼働率	95.3%
脳外科 手術件数	44件
消化器 内視鏡検査(外来分含む)	3277件

【病棟目標】

1. 笑顔であいさつができ、やりがいのある楽しい職場風土の醸成
2. 安心・安全で質の高い看護の提供
3. 急性期病棟看護師として自律性を発揮できる人材育成

【学会発表・論文・講演実績・研修会など】

院内看護研究発表

「A病棟における院内感染症発症の実態調査と看護師の意識改革」

◎千葉拓人、小嶋麻椰、関谷莉佳子、
田中愛美



7 B 病棟

文責 鈴木 輝子

【スタッフ紹介】

外科医師 3 名 血液腎臓内科医師 3 名
 看護師長 1 名 看護副師長 1 名
 看護主任 3 名 看護師 22 名
 看護補助者 3 名 看護クラーク 1 名

【病棟紹介】

7 B 病棟は令和 3 年 1 月までは脳神経外科と血液・腎臓内科で構成されていましたが、2 月の病棟再編で外科と血液・腎臓内科の混合病棟となりました。

脳神経外科は能代山本で唯一、手術出来る科であり、地域連携パスを活用しリハビリ病院と連携し、患者の回復に力を入れています。

血液・腎臓内科は血液疾患、腎臓疾患の治療を提供しています。他職種と協働し、主な治療である化学療法を患者・家族が安心して受けられるようにチーム医療を行っています。

外科は手術の 80% 以上を腹腔鏡下で行っており、手術創も小さく早期離床に繋がっています。

【診療実績・活動報告】

脳神経外科

令和 2 年 4 月～令和 3 年 1 月：手術件数

手術件数	38 件
(全麻手術件数)	21 件

外科

令和 3 年 2 月～3 月：手術症例内訳

	症例数	(腹腔鏡)
大腸	24 件	23 件
胃癌	7 件	3 件

血液・腎臓内科

令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月

	症例数
無菌室利用率	49%
骨髓穿刺件数	55 件
腎生検件数	7 件

【病棟目標】

1. 専門性を高め、安心安全な看護と療養環境を提供します。
2. 優しさと思いやりのある接遇を提供します。
3. ワークライフバランスの充実に図り、自己成長を目指します。



【病棟勉強会】

「抗がん剤準備について」

講師：がん化学療法認定看護師 田中主任



各種委員会・プロジェクト

医療安全管理委員会

委員長 松井 俊彦

【設置目的】

能代厚生医療センターにおける医療事故の発生の防止を目的とし、医療安全管理体制を確保し、推進するために医療安全管理委員会を設置している。

【委員構成】

委員長 松井 俊彦

委員 病院長、事務長、看護部長、
各部署の責任者、医療安全管理者



【活動内容】

1. インシデント及びアクシデント事例の原因分析並びに事故防止対策の検討及び提言に関すること
2. 院内の医療事故防止活動(教育・啓発・広報等)及び医療安全に関する職員研修の企画立案・実施
3. 医療事故防止のための情報・資料の収集
4. 安全管理のための指針・マニュアルの策定、見直し
5. その他、医療安全の確保に関する事項

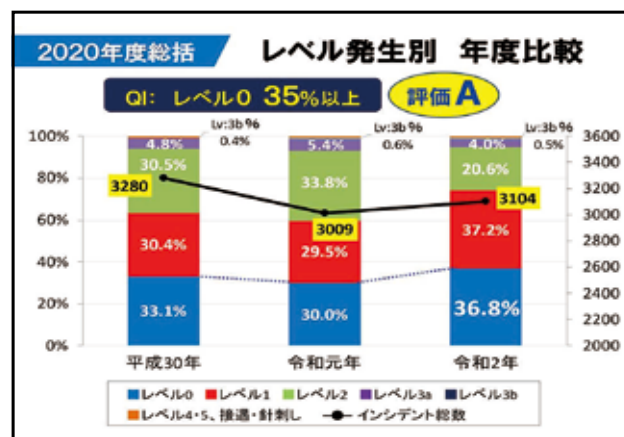
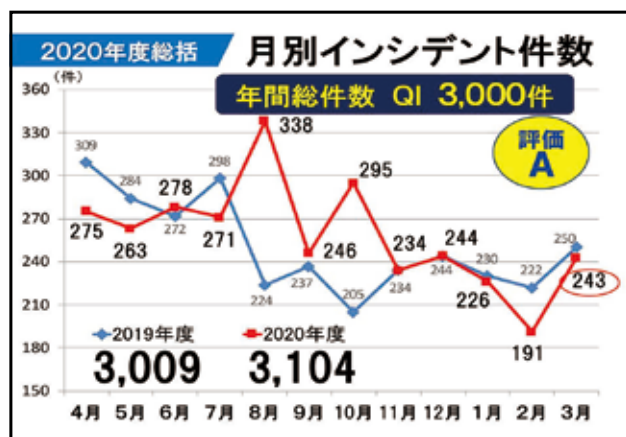
【活動報告・実績】

2020年度 医療安全目標 確認の徹底とルール遵守

○インシデント年間報告件数とレベル別割合

インシデント年間報告件数は3104件でした。報告する文化が定着してきています。

レベル0のインシデントが36.8%と目標値達成。業務における確認の徹底とルール遵守により、患者影響の低いレベルで食い止められるよう今後も働きかけていく。



2020年度 医療安全管理研修会実績

全職員受講必須研修 受講率 **100%**

※No.1、2は職員必須研修

No.	開催月日	テ マ	担当部署	参加人数
1	5月15日 ～6月15日	e-ラーニング「セーフティ・プラス」受講 患者急変時の対応 ～99番コールが発生したら～	医療安全管理委員会	763名
2	7月1日 ～7月31日	e-ラーニング「セーフティ・プラス」受講 暴言・暴力緊急コール ～Bコールが発生したら～	医療安全管理委員会	759名
3	9月1日 ～9月30日	e-ラーニング「セーフティ・プラス」受講 患者誤認防止について	医療安全管理委員会	597名
4	11月18日	頑張ってます業務改善 ～院内発表会～	医療安全管理委員会	43名
5	7月1日 ～2月28日	e-ラーニング「セーフティ・プラス」受講 視聴推進活動研修 ※全97項目受講を推進	医療安全対策室 院内感染対策室 職員満足度向上プロジェクト	69名

2020年度はコロナ禍を受けて、感染防止対策の観点からe-ラーニングを活用した研修を多く企画いたしました。また、院内感染対策室や職員満足度向上プロジェクトとコラボしe-ラーニング「セーフティ・プラス」視聴推進活動研修を実施しました。今後も職員が高い意欲・興味を持って取り組める研修を企画していきたいと考えています。

研修報告

医療安全対策室 × 院内感染対策室 × 職員満足度向上プロジェクト

「セーフティ・プラス」e-ラーニング視聴推進活動報告

目標 セーフティ・プラス内の研修コンテンツ 97 項目すべてを受講すること

【対 象】全職員（正職員・臨時職員）

【実施期間】2020年7月1日
～2021年2月28日

受講ありがとうございました！

研修コンテンツ
全 97 項目
視聴職員数

69名



第5回 院内発表会

頑張ってます 業務改善

結果発表



すばらしく頑張ったで賞

【テーマ】
栄養科 安全安心な食事の提供
～個々の仕事⇒グループ化へ～

放射線科	放射線診療に関する患者への説明と同意 ～ポスター作成、説明同意書の改善～
薬剤科	医療の安全性向上のための取り組み ～「静注用キシロカイン2%」に関するインシデント事例より～
検査科	臨床検査科における転倒転落についての検討
リハビリ	プライバシー保護の観点から
入退院支援	転院申し込みについて
事務	日当直業務のマニュアルの整備

どの部署も
素晴らしい発表でした。
ありがとうございました！

業務改善発表会は、毎年「医療安全週間」である11月に開催しています。

継続的に実施することで、安全文化の醸成と改善活動への意識の維持向上に努めています。

☆今後も医療安全目標『確認の徹底とルール遵守』を、院内全体へ定着させ、患者・仲間・自分を守るための医療安全活動に取り組んでまいります。

研修管理委員会

委員長 波多野善明

【委員会スタッフ紹介】

院内・院外、多くの皆さんにご協力頂いており、委員会名簿は当院ホームページの「臨床研修案内」を参照されたい。

【委員会紹介・概要】

当委員会は、初期臨床研修に関する諸問題を解決することにより、研修体制と研修医指導を充実させることを目的としている。委員会開催は年3回程度であるが、委員会で提案・討議・承認された臨床研修に関する決定事項・研修医指導は、カンファレンス、講義等により年間を通して行われる。

研修医評価の内容など、個人情報の詳細は割愛する。

【委員会活動実績】

《研修管理委員会 討議内容》

今年度は研修管理委員会を3回（2020年4月21日、11月10日、2020年3月4日）開催した。繰り返し確認や討議を行った事項もあり、3回分の討議内容の要旨をまとめて記す。

毎回初期研修医1名が参加して行われた。

1、2020年度初期研修医の紹介

1) 一年次 当院採用

- ①白谷 桃 秋田大学、②内田 旬 岩手医科大学、③工藤健太郎 秋田大学、
④鈴木陽子 秋田大学、⑤松本陽平 岩手医科大学

50音順

2) 二年次

- ・当院採用 ①関みちる 秋田大学
・たすき掛け ①坂本和郎 岩手医科大学、研修期間：7月～10月
②豊原茂樹 岩手医科大学、研修期間：10月～11月
③沼崎大諄 岩手医科大学、研修期間：2021年1月～4月
④吉田十穂 岩手医科大学、研修期間：11月～2021年1月
⑤入中啓輔 由利組合総合病院、研修期間：2021年2月

2、「2020年度 初期臨床研修制度の見直し」に伴うプログラム変更について

当委員会で承認された新プログラムを申請した。

以下の資料を提示して協力を依頼した。

- ①現行制度、当院現行プログラム、②新制度の主な変更点、③当院新プログラム

3、2020年度初期研修について

1) 2020年度研修スケジュール

資料提示

たすき掛け研修について

関みちる

5月 JCH O秋田病院 地域医療、9月：秋田大学循環器内科、10月：秋田大学血液内科、11月：秋田大学糖代謝科

以上、承認された。

2) 新採用研修医 オリエンテーションスケジュールを報告

資料提示

3) 教育プログラム

- (1) 当院指導医による講義：講義予定を提示
- (2) 救急外来カンファレンス、画像カンファレンス
以上、これまで通り実施。
- (3) 外部講師による講義、講演会、講習会
 - ・ 秋田大学医学部附属病院救急部准教授 奥山 学先生
6月19日、8月21日、2月26日
救急外来実地指導、救急診療に関する講義
 - ・ 秋田大学医学部小児科 高橋 勉教授 新規
2021年3月19日、「小児虐待について」
 - ・ 秋田医師総合支援センター
救急エコーセミナー、2021年1月23日
 - ・ 秋田大学医学部附属病院救急部准教授 奥山 学先生
I C L S 講習会、2021年3月2日

4) 確認事項など

- (1) レポート提出について
2020年度採用者は新プログラムで研修するため、現行のレポートチェック体制は2019年度採用者 関みちるで終了する。
- (2) 時間外救急研修について、以下を確認。
 - (I) 当直後の休暇について
「当直日の翌日は一日休暇可能。指導医からも休暇を促す」
 - (II) コンサルト体制について
 - ・ 1年次が救急研修中に診療科にコンサルトする場合、バックアップDr（指導医）からコンサルトする。
 - ・ 2年次が救急研修中に診療科にコンサルトする場合は、（時間外救急研修も、日中の救急研修も）研修医から直接コンサルトできる。
 - (III) 各科当番（拘束）について
研修医を各科のfast callにしない。
研修が必要な場合は、各科当番医から研修医を呼び出す（週一日は非番の日を設ける）。
- (3) 学会出張について
参加できる学会：資料提示
日数：移動日を含めて学会会期内、年に総会2回、地方会1回。
- (4) 当院における研修医の診療行為について 資料提示

4、新型コロナ（対策）の影響について

新型コロナの状況により以下の予定に変更が生じる場合があり、対応について院長、プログラム責任者、副プログラム責任者に一任する旨が承認された。

- 1) 採用試験の日程：例年7月下旬～8月下旬
- 2) たすき掛け研修の依頼、受け入れ
- 3) マッチングスケジュール
- 4) 合同病院説明会、各種研修会
レジデントスキルアップキャンプ等、例年行われている行事が「新型コロナ感染症対策」により中止となった。

5、2019年度研修状況（研修評価）の報告

1）研修医評価

・当院採用

一年次：①臼谷 桃、②内田 旬、③工藤健太郎、④鈴木陽子、⑤松本陽平

二年次：関みちる

・たすき掛け

①坂本和郎 岩手医科大学より、7月耳鼻科、8月脳外科、9月循内、10月救急

②豊原茂樹 岩手医科大学より、10月脳外、11月呼外

③沼崎大諄 岩手医科大学より、2021年1月血腎、2月消内、3月呼内、4月産婦

④吉田十穂 岩手医科大学より、11月精神、12月小児、2021年1月産婦

⑤入中啓輔 由利組合総合病院より、2021年2月精神科

1～3回各研修管理委員会開催時における履修状況、研修実績、各方面からの研修評価を、毎回資料を提示して報告した。個人情報なので詳細は割愛する。

たすき掛け研修医に対する評価は、それぞれの基幹病院へ送付した。

2年次研修医 関みちるは、初期臨床研修修了と認定された。

2）研修医から指導状況・研修環境への評価

資料提示

指導評価、研修環境評価ともに「満足」がほとんどで、「どちらかと言えば満足」、「適切」あり。

研修環境評価において、一部「症例検討会・講習会など教育システム」が少なすぎる、「経験症例が少なすぎる」あり。

6、2018年採用研修医（2020年3月修了者）によるプログラム評価

Q1：新たに臨床研修を受ける人にあなたはこのプログラムでの研修を勧めますか

勧められる：3人、おおむね勧められる：1人

Q2：本プログラムの改善すべき点

定期的な勉強会が2年次でもあると嬉しい。

指導基準が科によってばらつきがある。

2年次研修医の人数や当直回数により、1年次研修医が週末の日・当直ばかりになってしまう。

Q3：本プログラムの良かった点

自由度と柔軟性が高く、希望によりローテートする科を変更できた。

指導医が熱心に教育機会を設け、科の垣根を越えて指導してくれる。

労働環境

QOLも保たれる研修内容になっている。

一人一人の技量や事情に合わせて対応して貰えた。

7、2021年度初期研修医 採用状況について報告

1）2021年度採用試験受験状況 7名受験

2）2021年度採用者

①小原元文 秋田大学、②垣見和亨（かずみち）岩手医科大学、③斎藤 志（のぞむ）手医科大学、④中川健治 帝京大学

8、学生見学状況（2020年4月～2021年3月）について報告

2019年度は11大学から実習に来院したが、2020年3月以降は「新型コロナウイルス感染症対策」として秋田大学、岩手医科大学のみ受け入れた。

【病院説明会 実施状況】

- 1) 秋田県臨床研修病院合同説明会 On line開催：7月2日
- 2) レジナビ オンライン：2021年3月13日

例年参加している「レジナビ合同病院説明会」は、2020年3月以降、「新型コロナウイルス感染症対策」により全て中止となった。

【学会発表、研究会など各種発表、論文発表】

《学会発表、研究会など発表》

①鈴木陽子

原発性硬化性胆管炎に合併したと考えた胆管癌の一例
秋田県消化器リモート研究会、2020.8.28

②松本陽平

つかえ感で来院し、EUS-FNAをした食道巨大粘膜下腫瘍の一例
秋田県消化器リモート研究会、2020.8.28

《論文》

進行性多巣性白質脳症（PML）の合併が疑われた骨髄異形成症候群（MDS）の剖検例
竹内 明、石塚 悠、村上正代、倉橋保奈美、加賀 一、波多野善明
日本内科学会雑誌 今月の症例、第110巻8号、1641-1648.

薬事委員会

委員長 太田原康成

【スタッフ・メンバー紹介】

委員長 太田原康成、松井 俊彦、佐藤 毅、波多野善明、眞山 一郎、金田 浩人、
松崎 郁夫、江戸 雅孝、齋藤 英知、矢島 晴美、藤島 裕耕、木村 州孝、
近野 勇樹、加藤久仁之、小峰 直樹、岩間 孝英、日沼ゆかり、大島 政人
事務局 木村 正行、佐々木真則、小嶋 雅人、佐藤 元彦、田村 和輝

令和2年度において、医薬品費は前年度対比で△37,803千円減少しており、比率について△0.27%減少となっております。新型コロナウイルスによる患者数の減少が要因と考えられます。

内服薬については、前年度と比較し利尿剤（サムスカ錠7.5mg）、代謝性医薬品（オフエブカプセル150mg、ピレスパ錠200mg）等の使用量が減少となったものの、抗悪性腫瘍用剤（レブラミドカプセル5mg、ポマリストカプセル3mg、ゾパスタ錠40mg）等の使用量が増加しております。

注射薬については、前年度と比較しホルモン剤（ゾラデックスL A10.8mg）、血液・体液用薬（ジースタ皮下注3.6mg）等の使用量が減少となったものの、抗悪性腫瘍用剤（キイトルーダ点滴静注100mg、オブジーボ点滴静注240mg、テセントリク点滴静注1200mg、イミフィンジ点滴静注120mg・500mg）、代謝拮抗剤（アリムタ注射用500mg）等の使用量が増加となっております。

●新規採用薬品数

剤形	区分	件数	
内服		13	45
	後発品	32	
外用		2	4
	後発品	2	
注射		15	23
	後発品	8	
合計		30	72
	後発品	42	

●新規採用院外採用薬品数

剤形	件数
内服	1
外用	7
注射	1
合計	9

●採用削除医薬品数

剤形	区分	件数	
内服		26	35
	後発品	9	
外用		1	3
	後発品	2	
注射		12	17
	後発品	5	
合計		39	55
	後発品	16	

■採用医薬品総数（年度末）

剤形	区分	件数	
内服		700	891
	後発品	191	
外用		192	232
	後発品	40	
注射		562	656
	後発品	94	
合計		1454	1779
	後発品	325	

■後発医薬品比率（使用数）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
88.9%	88.2%	86.5%	87.7%	88.3%	87.5%	87.5%	88.0%	88.0%	88.0%	89.3%	88.8%

職員衛生委員会

委員長 松崎 郁夫

【メンバー紹介】

	役 職	氏 名	所 属
1	委員長（産業医）	松 崎 郁 夫	診療部長
2	衛生管理者（組合員）	木 村 正 行	薬剤長
3	衛生管理者（組合員）	高 橋 紀美代	保健師 看護師長
4	衛生管理者（組合員）	石 井 美保子	保健師 主任
5	衛生管理者（組合員）	田 村 博 美	保健師
6	委員	太田原 康 成	院長
7	委員	日 沼 ゆかり	看護部長
8	委員	大 島 政 人	事務長
9	委員	伊 藤 浩	放射線科 技師長
10	委員	松 橋 忠 昭	放射線科 副技師長
11	委員（組合員）	中 山 明 美	栄養科 技師長
12	委員（組合員）	櫻 庭 優 子	医療安全管理者 看護副部長
13	委員（組合員）	菅 原 俊 子	感染対策認定看護師 主任
14	委員	遠 藤 誠	保健活動室 係長
15	委員（組合員）	田 中 富三男	労組書記長
16	委員（組合員）	藤 田 奈緒子	臨床検査科 主任
17	委員（組合員）	齊 藤 知 裕	精神科 臨床心理士
18	事務局	石 川 淳 一	総務管理課 事務次長
19	事務局	児 玉 零	総務管理課
20	事務局（組合員）	渡 部 菜美子	総務管理課

【部 門 紹 介】

職員衛生委員会は、職場環境の向上や従業員の健康維持・改善を目的として設置され、定期的な開催を通じて様々なテーマで実施しております。令和2年度は、毎月計12回開催いたしました。職員の禁煙指導をはじめ、超過勤務者や高ストレス者に対し産業医、公認心理士、保健師による面談を実施しました。今後も、職員の健康を守るため活動していきます。

【主な活動内容】

・職場環境ラウンド

職員が働きやすい環境を整えるために、毎月1回院内のラウンドを実施しています。温度、湿度が適正であるか、危険箇所については改善するよう指導しています。



通路が狭い

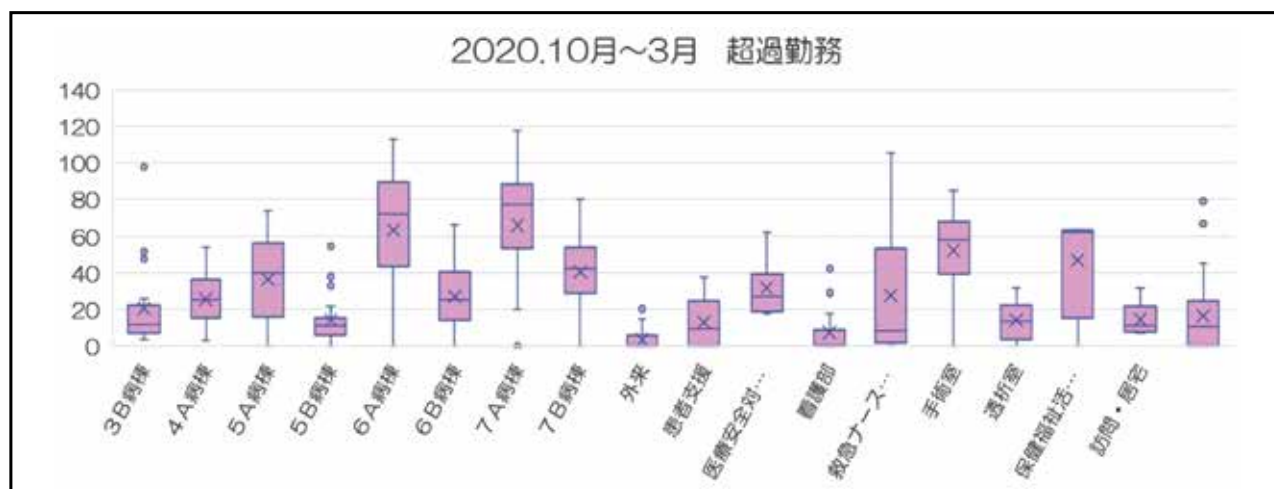
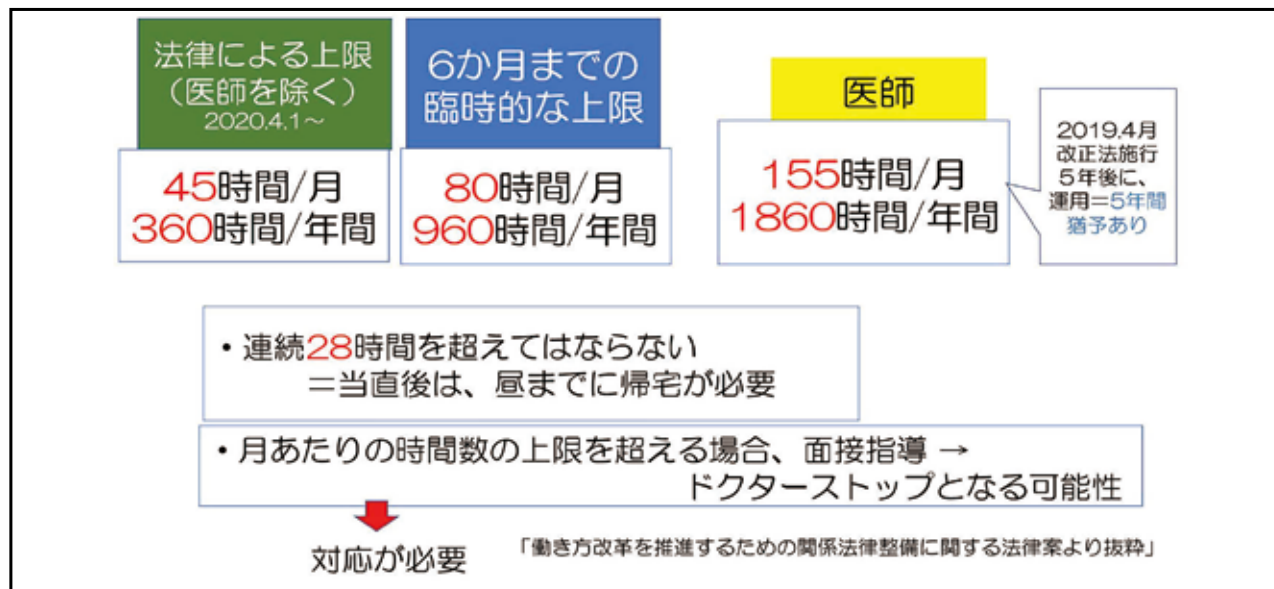


段ボール落下の危険性

・過重労働対策

職員の労働時間の把握や長時間労働者の健康確保対策実施のため、部署毎の時間外労働実態を部署毎にまとめ報告しています。また、長時間勤務者に対して、産業医、公認心理士、保健師による面談を実施しています。

①超過勤務調査



②面談実施

実施者：医師、公認心理士、保健師が対象となった30名を個別で面談。

面接内容：①K10（抑うつ不安尺度調査）を実施

②疲労感、体調聞き取り

③相談窓口紹介

6か月100時間以上、1か月で36時間以上	
医療職Ⅲ	15
事務職	12
計	30

・職員禁煙指導

当院は、敷地内禁煙を徹底しており、禁煙外来や健診などで患者さんを指導している立場である医療者側が率先して禁煙を行い、医療従事者としての自覚をもって健康管理を行うことが重要だと考えています。そこで、令和2年度より、職員の喫煙者に対し、保健師による禁煙指導を開始しました。今後も職員の健康を守るためにも継続していきたいと考えています。

○禁煙指導実施数 83人 (84.7%)

＜指導内容＞

- ①呼気一酸化炭素濃度測定
- ②指導内容
 - ・状況調査
 - ・ニコチン依存度・依存とは
 - ・禁煙補助薬の説明
 - ・禁煙外来のすすめ

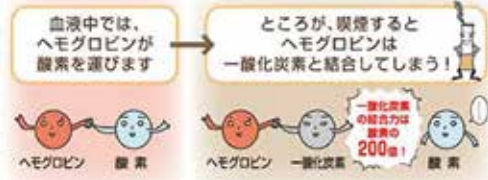
職員喫煙率年次推移



呼気一酸化炭素濃度を測定します!!

無料で

タバコの煙に含まれる200種類以上の有害物質の一つである一酸化炭素をどのくらい体内に取り込んでいるか測定します。



＜測定法＞



呼気CO濃度	喫煙レベル
0～7ppm	非喫煙者
8～14ppm	ライトスモーカー
15～24ppm	ミドルスモーカー
25～34ppm	ヘビースモーカー
35ppm以上	超ヘビースモーカー

大きく息を吸って、10秒間止めた後、測定器のマウスピースから、ゆっくり息を吹き込みます。

健診センター

・職員定期健康診断

年2回実施し、その結果は下記の通りです。

実施日	受診者数	対象者	健診内容	精検数	有所見率
9 / 14～18日	230	35歳未満	胸部、心電図、採血、尿検査	84	36.5%
2 / 15～19日	420	夜勤従事者	尿検査	29	6.9%
7月～12月	430	35歳以上	人間ドック（採血、眼底検査、心電図、各がん検診）	207	48.1%

・ストレスチェック

年1回実施し、その結果は下記の通りです。

実施日	対象者数	受診者数	高ストレス者
9月～12月	661	594 (89.8%)	86 (13.0%)

【主な検討事項】

- ・職員ドックオプションの助成について
- ・職員超過勤務時間調査・改善について
- ・超過勤務者・高ストレス者の面談について
- ・職員健診・ドック実施について
- ・喫煙者に対する禁煙指導について

医療ガス安全管理委員会

委員長 小峰 直樹

【設置目的】

病院及び患者を入院させるための施設を有する診療所（以下「病院等」とう。）の管理者は、医療ガス（酸素、亜酸化窒素、治療用空気、吸引、二酸化炭素、手術機器駆動用窒素等をいう。以下同じ。）に係る安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的として、医療ガス安全管理委員会を設置すること。

※厚生労働省 通知「医療ガスの安全管理について」

【委員構成】

委員長 小峰 直樹

委員 放射線科、臨床検査科、リハビリテーション科、臨床工学科、手術室、中央材料室、
薬剤科、事務部（資材設備課）

計13名

【職務】

医療ガス設備の保守点検業務、医療ガス設備の新設及び増設工事、部分的な改造、修理等の施工監理業務、医療ガスに係る安全管理のための職員研修等を行うこと。

【活動内容】

令和2年度は3月に機械室、1階外来、手術室、5～7階病棟の医療ガス配管の保守点検を実施。アウトレット点検のみではなく分解整備も施行している。

輸血療法委員会

委員長 波多野善明

【設置目的】

輸血療法を行なうには、複数の部門が関与することから、一貫した業務体制を構築する必要がある。従って能代厚生医療センター輸血療法委員会（以下『委員会』）を設置する。

【職務内容】

「輸血療法の実施に関する指針及び血液製剤の使用指針」の趣旨に沿い、院内の輸血療法に係る諸問題を検討し、随時開催する。

委員会は、次の事項について検討を行う。

- ① 輸血療法の適応および使用適正化の推進を図る
- ② 輸血関連の検査項目を協議する
- ③ 輸血実施体制に関すること
- ④ 輸血用血液及びアルブミンの使用、保管状況を把握
- ⑤ 輸血療法に伴う事故、副作用および合併症対策に関すること
- ⑥ 自己血輸血の管理及び実施方法に関すること
- ⑦ 輸血部門業務の確認に関すること
- ⑧ 院内輸血監査チームで、適正輸血を推進するため監査を実施する
- ⑨ 職員へ輸血療法に関する啓蒙と技術支援を行う
- ⑩ その他の輸血療法に関すること

【輸血療法委員会 委員】

2020年度 能代厚生医療センター輸血療法委員会名簿

No.		職 種	所 属	氏 名	備 考
1	委員長	医 師	血液・腎臓内科	波多野善明	輸血責任医師
2	副委員長		産婦人科	松井 俊彦	
3	委員		整形外科	佐藤 毅	自己血責任医師
4	副委員長	看 護 部	医療安全	櫻庭 優子	医療安全対策室
5	委員		7 B病棟	藤原 純子	
6	委員		7 A病棟	小嶋 麻椰	
7	委員		6 B病棟	長門 勇磨	
9	委員		6 A病棟	大久保苑夏	
10	委員		5 B病棟	工藤佐智子	学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師
11	委員			工藤 誠子	学会認定・自己血輸血看護師
12	委員		5 A病棟	丹 真理子	学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師
13	委員			佐々木 恵	学会認定・臨床輸血看護師
14	委員		4 B病棟	昆 美里	
15	委員		4 A病棟	井川壱都美	

16	委 員	看 護 部	3 B病棟	福丸 利憲	
17	委 員		外来	中川真紀子	
18	委 員		中央手術部	佐藤 智子	学会認定・自己血輸血看護師 学会認定・臨床輸血看護師
19	委 員		血液浄化センター	北嶋真紀子	
20	委 員	薬 剤 師	薬剤科	佐々木真則	
21	委 員	臨床工学技士	ME センター	赤坂 紀之	
22	委 員	事 務	資材設備課	田村 和輝	
23	委 員		医事課	柳田 貢佑	
24	事 務 局	臨床検査技師	臨床検査科	加藤亜有子	認定輸血検査技師
25			輸血検査室	鈴木 花純	

【活動内容】

令和2年4月～令和3年3月

●第1回輸血療法委員会：令和2年4月17日

- ・令和2年度輸血療法委員会 顔合わせ、今年度の予定
- ・令和元年度血液製剤使用状況報告
- ・看護師新人研修について

●第2回輸血療法委員会：令和2年5月15日

- ・厚生労働省「輸血療法の実施に関する指針」一部改正について
- ・令和2年度診療報酬改定・血液製剤薬価改定
- ・新採用看護師輸血研修について

●第3回輸血療法委員会：令和2年6月19日

- ・輸血同意書の取得状況について
- ・2020年3月実施 輸血実施部署監査報告
- ・新採用者輸血研修会報告、輸血療法委員輸血実施手技チェック

●第4回輸血療法委員会：令和2年8月21日

- ・献血バス来院報告
- ・2020年6月実施 輸血実施部署監査報告
- ・7 B病棟 輸血監査報告
- ・新採用者輸血研修会 アンケート結果報告
- ・輸血療法マニュアルへの追記について

●第5回輸血療法委員会：令和2年10月16日

- ・上半期輸血実施状況報告
- ・4 B病棟輸血監査報告
- ・血液製剤搬送から輸血まで30分ルールの確認、対策案について
- ・新採用者輸血研修経過報告
- ・輸血療法マニュアルへの追記について
- ・セーフティプラスによる研修について

●第6回輸血療法委員会：令和2年12月18日

- ・12月14日献血バス来院報告
- ・5 B病棟輸血ラウンド監査報告
- ・輸血伝票一部変更のお知らせ
- ・輸血療法マニュアル改訂

●第7回輸血療法委員会：令和3年2月19日

- ・輸血実施部署監査
- ・院内掲示板の更新

●第8回輸血療法委員会：令和3年3月19日

- ・血液製剤の読み合わせについて
- ・2021年度新採用者輸血療法の教育について

《新人看護師輸血研修会》（6月17日）

学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・自己血輸血看護師を中心に輸血実施や輸血副作用についての講義や実技指導を行った。研修会前に資料や動画を配布し、各部署の輸血療法委員の指導のもと事前学習後に研修に臨んでもらった。

《院内輸血ラウンド》

7 B病棟（7月17日）、4 B病棟（9月18日）、5 B病棟（11月20日）

学会認定・臨床輸血看護師、学会認定・自己血輸血看護師をリーダーとし、輸血療法の実施が適切に行われているか輸血実施部署をラウンドし、輸血療法の手技統一化を図っている。

《献血推進活動》（8月3日、12月14日）

令和2年度は秋田県赤十字血液センターより2回献血バスが配車された。輸血療法委員会では配車が決定されると病院スタッフへ向け献血推進活動を行っている。

【2020年度血液製剤使用状況】

赤血球製剤使用量：3146単位（1653本）

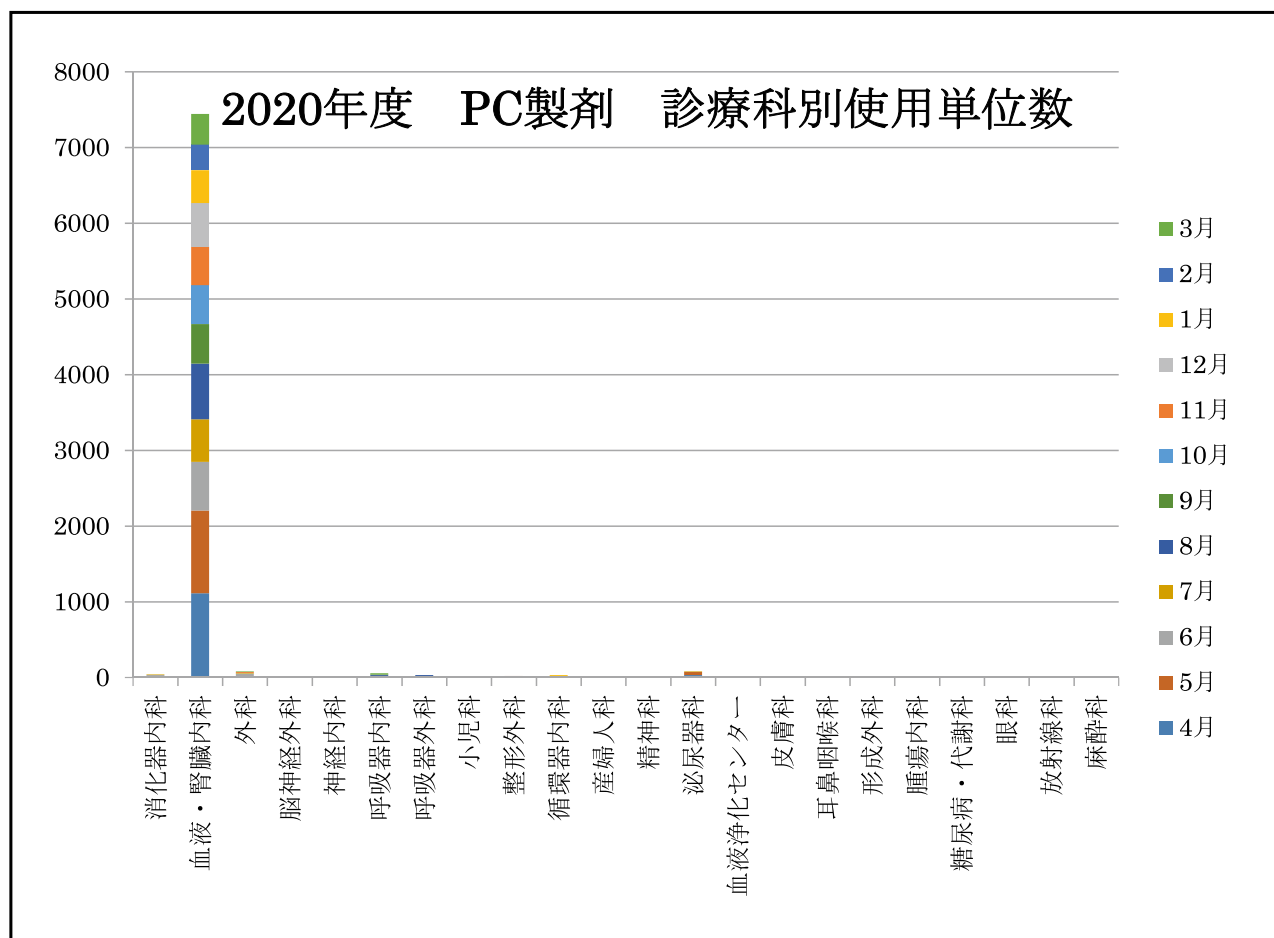
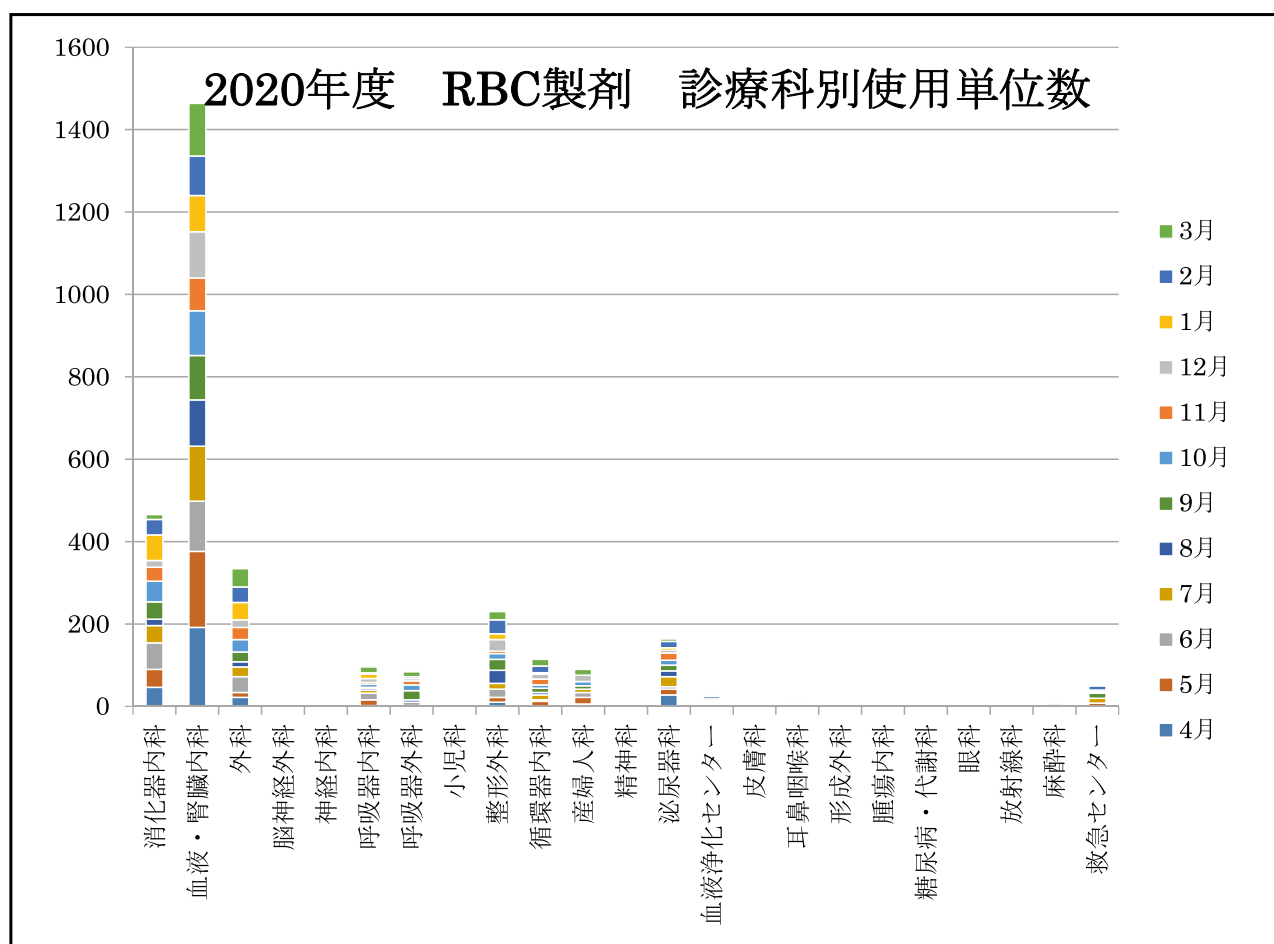
血小板製剤使用量：7785単位（773本）

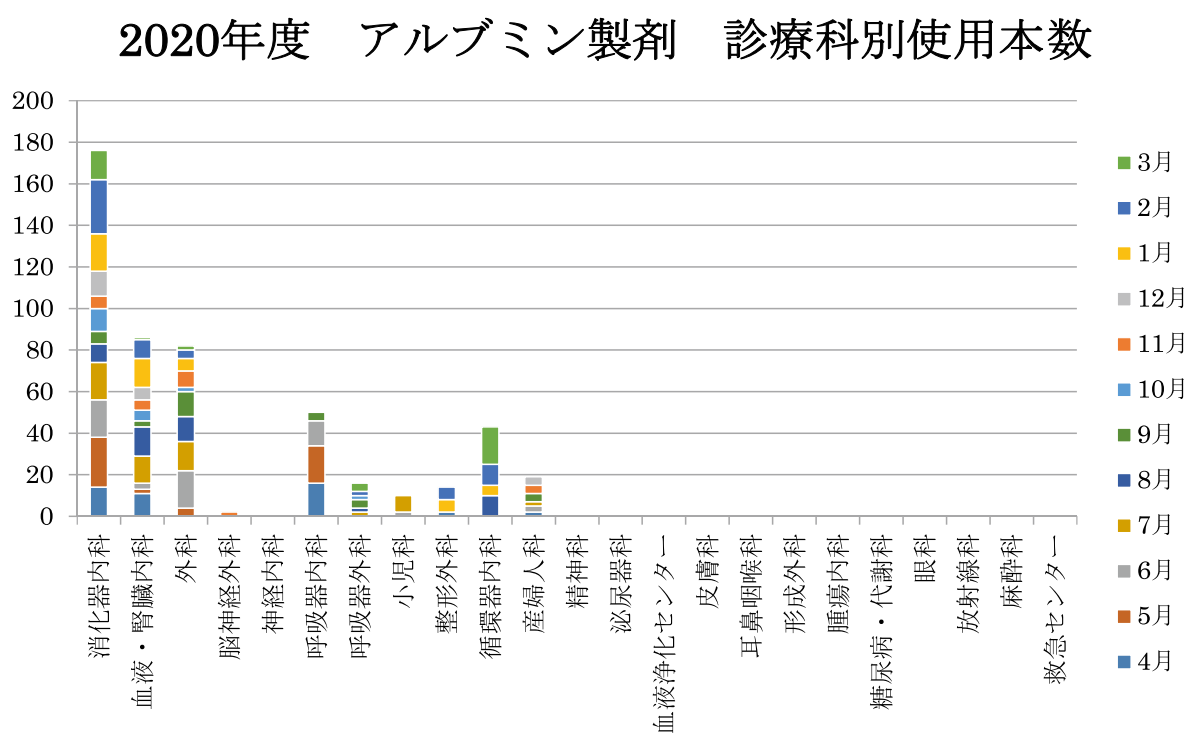
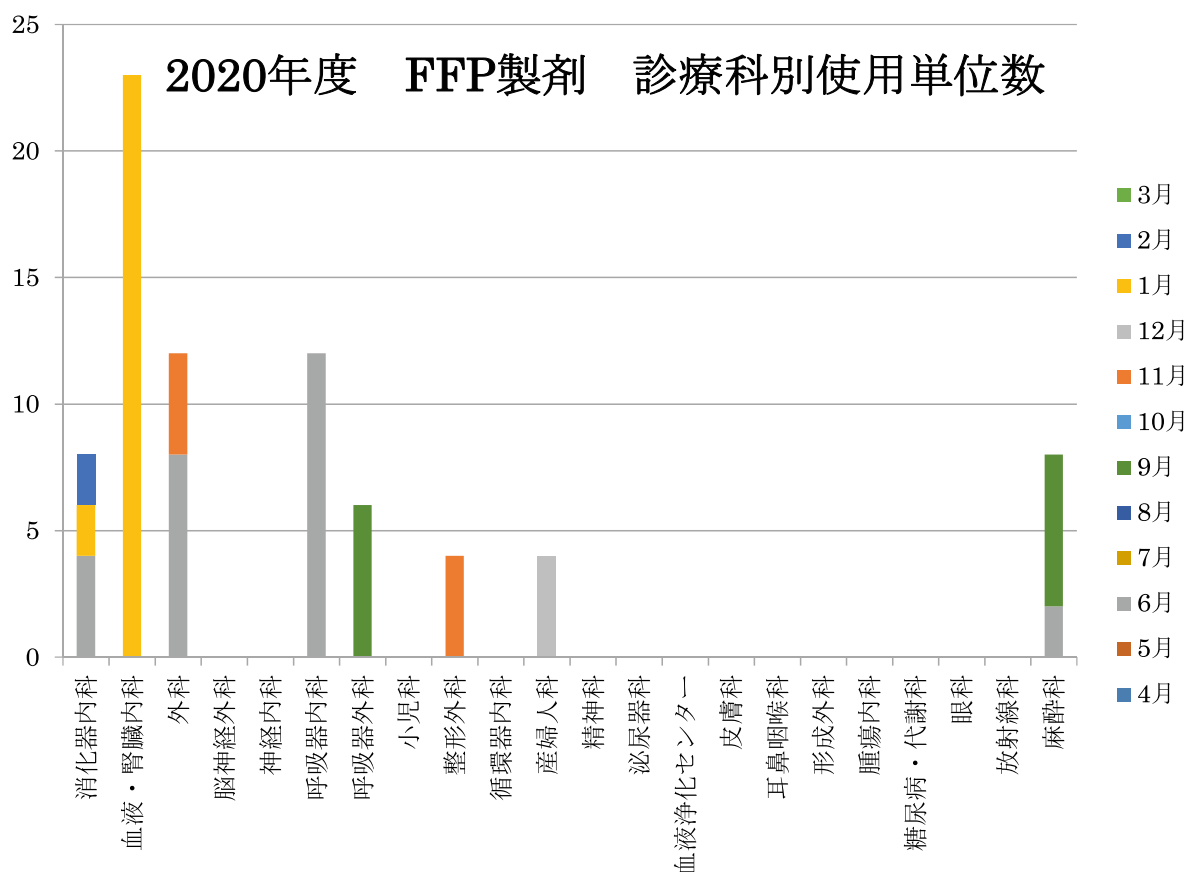
新鮮凍結血漿製剤使用量：77単位（33本）

アルブミン製剤使用量：498本

2020年度の輸血適正使用加算基準はFFP/RBC0.02（基準値0.54未満）、ALB/RBC0.66（基準値2未満）となり、基準を満たしていた。年間血液製剤廃棄率は0.67%で当院目標値の1%未満を達成していた。







化学療法委員会

委員長 加藤久仁之

【設置目的】

化学療法委員会は能代厚生医療センターにおける化学療法が適正に実施されるために必要な一切の事項について検討することを目的としている。

【委員構成】

医師 9 名 薬剤師 3 名 看護師 8 名 事務 1 名

【職務】

次の事項について協議検討を行う。

- ① 外来化学療法室の運用に関すること
- ② 院内の化学療法におけるレジメンの妥当性を評価・承認すること
- ③ 院内の化学療法におけるレジメン内容の見直しを協議すること
- ④ 化学療法準備室に関すること
- ⑤ その他院内における化学療法に関すること
- ⑥ 化学療法における教育・研修に関すること

【活動内容】

3 か月ごと第 3 金曜日 16 時 30 分より委員会を開催委員会では毎回外来・入院化学療法実績を報告するほか、職務で述べた協議事項について討議する。

【活動報告・実績 等】

外来化学療法（R 2 . 4 . 1 ～ R 3 . 3 . 31）

※延べ人数（R A、U Cに対する生物学的製剤の投与も含む）

	外科	呼吸器 内科	血液腎 臓内科	消化器 内科	耳鼻咽 喉科	泌尿器 科	産婦人 科	整形外 科	腫瘍内 科	呼吸器 外科	計
4月	28	24	38	7	8	0	2	12	0	17	136
5月	28	15	37	3	6	1	0	11	0	13	114
6月	13	23	53	6	7	1	2	10	0	12	127
7月	11	24	49	6	6	1	1	11	0	7	116
8月	9	21	53	5	4	1	4	9	0	17	123
9月	13	22	52	6	7	4	9	11	0	18	142
10月	10	21	53	3	10	4	7	9	0	32	149
11月	15	18	42	6	7	5	7	12	3	34	149
12月	10	27	40	3	6	8	4	10	2	23	133
1月	20	23	51	6	6	5	5	7	2	17	142
2月	23	26	58	2	7	4	7	9	2	23	161
3月	25	22	50	7	8	10	5	10	3	24	164
	205	266	576	60	82	44	53	121	12	237	1656

入院化学療法実績（R 2 . 4 . 1 ～ R 3 . 3 . 31）

※のべ本数

科名	耳鼻 咽喉科	脳外科	産婦人 科	呼吸器 内科	呼吸器 外科	腫瘍 内科	泌尿器 科	血液腎 臓内科	外科	計
4月	0	0	36	11	5	0	6	94	44	196
5月	2	0	37	12	10	0	13	62	20	156
6月	2	0	43	24	8	0	6	86	33	202
7月	1	0	38	16	17	0	7	36	18	133
8月	0	0	31	14	12	0	3	68	7	135
9月	0	0	26	12	31	0	2	45	40	156
10月	0	0	32	37	16	0	3	40	34	162
11月	6	0	25	38	3	0	4	42	26	144
12月	8	1	23	31	18	0	5	42	24	152
1月	3	1	24	21	21	0	2	48	45	165
2月	3	1	21	23	10	0	7	40	45	150
3月	5	0	27	51	14	0	4	53	62	216
	30	3	363	290	165	0	62	656	398	1967

栄養管理委員会

委員長 藤島 裕耕

【設置目的】

給食業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的とする

【委員構成】

委員長	藤島 裕耕	消化器内科診療部長			
委員	大島 政人	事務長			
	佐藤 元彦	資材設備課長			
	日沼ゆかり	看護部長（副院長）			
	安部留美子	3 B 看護師長	渡部 昌子	4 B 看護師長	
	田畑 信子	5 B 看護師長	赤塚 悦子	6 B 看護副部長	
	前田 美秋	7 B 看護師長			
	中山 明美	栄養技師長	松嶋 香織	栄養主任	
	市川 宏美	管理栄養士	丸山 大介	調理員	

【職務】

協議事項

- (1) 栄養業務の運営に関する事項
- (2) 栄養業務の改善・向上に関する事項
- (3) 各職域間の円滑な運営に関する事項
- (4) 施設整備の改善に関する事項
- (5) 栄養サービスに関する事項

【活動内容】

委員会の開催 年4回（6月、9月、12月、3月）

- (1) 嗜好調査結果報告
- (2) 令和元年度栄養指導件数報告
- (3) 栄養管理委員会規定改定
- (4) 食事オーダーの一部変更について
- (5) 厚生連統一献立について
- (6) ティーサーバー点検について
- (7) 調理部門の委託について
- (8) 厚生連統一献立進捗状況について
- (9) 年末年始のお茶の対応について
- (10) 病棟再編時の対応について
- (11) パンの提供について
- (12) 特別食加算率について

放射線安全管理委員会

委員長 眞山 一郎

【設置目的】

「放射線障害の防止に関する法律」に基づき、能代厚生医療センターにおける放射線発生装置の取り扱い及び管理に関する事項を定め、放射線障害の発生を防止し、あわせて公共の安全を確保することを目的とする。



【職務】

- ① 放射線管理区域の設定に関する事項
- ② 放射線障害予防規定の改定に関する事項
- ③ 放射線業務従事者に対する、教育訓練の企画実施
- ④ 放射線施設の改廃、保全に関する事項
- ⑤ その他、放射線障害の防止に関連する事項

【構成】

委員長 放射線取扱主任者（眞山診療部長）

委員 病院長、放射線科科長、放射線技師長・副技師長・看護部長、副部長・師長
（医療安全管理者、救急外来）・事務長・事務次長・その他委員長が必要と認めた者

【活動内容】

●第32回放射線安全委員会 令和2年10月13日（火）

- 1) 放射線障害予防規程改訂の承認
- 2) 放射線安全委員会規程改訂の承認
- 3) 放射線管理責任者・施設管理責任者・健康管理医の選出
- 4) 院内職員の被ばく管理
- 5) 放射線安全管理研修会

●放射線安全講習会

令和2年度も、新型コロナウイルスの影響により集合型研修を避け、Safety Plus によるe-ラーニングを活用し、1月～2月の2ヵ月の期間を設定して、医師・看護師・コメディカルを対象とし「診療用放射線の安全管理に関する研修」を実施した。

●健康診断

法律で定められた健康診断で、放射線業務従事者を対象に年2回の実施が義務化されている。

●放射線業務従事者の教育訓練

放射線管理区域に立ち入る前に行う講習会を随時開催しており、今年度は新規で放射線技師1名実施している。既存の従事者に対しては、10月に教育訓練を行った。

院内感染対策委員会

委員長 金田 浩人

令和2年度はC D V I D - 19の流行が始まりました。そのため前年度末から帰国者接触者外来を開始しています（その後プレハブ診療に変更）。同時に感染症病床への患者受け入れを開始しました。また、院内感染に備えて発生時の対応シミュレーション研修も行いました。

【委員構成】

委員長 金田 浩人

委員 病院長、事務長、看護部長、各部署の責任者、委託業者を含む40名

開催回数：12回

主な案件：1）感染症発生状況報告
2）抗菌薬使用状況報告
3）手指衛生実施状況報告
4）I C T ラウンド結果報告
5）マニュアル改訂案
6）研修会評価結果報告など



【活動内容】

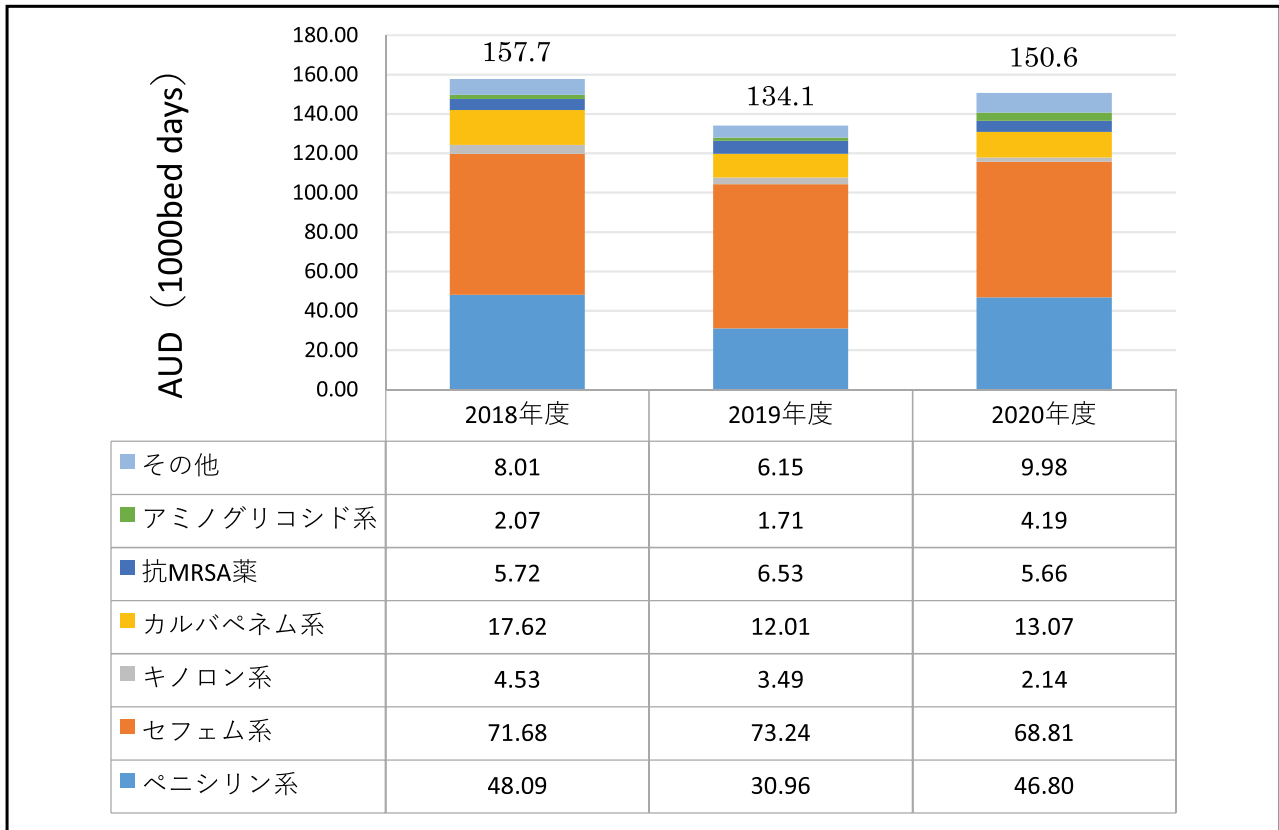
- 1）C D V I D - 19帰国者接触者外来（行政検査）検体採取などの対応 242名
- 2）C D V I D - 19による感染症病床稼働 入院患者数12名
- 3）職員研修会 14回開催
内訳：全職員対象2回・A S T研修会2回 ※e - ラーニング開催
看護部新人教育・看護補助者研修4回、
業務改善発表会1回、コロナ発生時のシミュレーション研修3回、
C D V I D - 19プレハブ診療に伴う研修2回
- 4）職員1人あたり年2回の研修参加状況 100%
- 5）感染対策チーム活動
ラウンド51回開催、I C T ニュース8回発行

【地域連携病院との活動内容】

- 1）カンファランス：5回
連携先：J C H O 秋田病院、能代山本医師会病院、かづの厚生病院、能代保健所
案件：薬剤耐性菌の検出状況、感染症患者の発生状況、院内感染対策の実施状況、抗菌薬の使用状況などの情報共有及び意見交換
- 2）相互ラウンド：3回実施
連携先：由利組合総合病院、北秋田市民病院

【感染対策の実績値】

1) 抗菌薬使用密度について（年度別AUD）



昨年度と比較すると総AUDは増加した。

カルバペネムの使用は昨年度と比べ1ポイント増加したが、目標である16未満を達成できた。

また、令和元年9月より参加した感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）では、令和2年度、全国554施設中、総AUDの中央値は152.8、カルバペネムの中央値は10.5であり、総AUDは横ばい、カルバペネムは1ポイント減少となっていた。当院のカルバペネムAUDは全国の中央値よりも高いため、引き続き、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動で適正使用の確認を継続していく。

2) AST活動について

	令和2年度 実績	令和2年度 1か月平均値
抗菌薬の使用を確認した患者数	430	35.8
抗菌薬投与前（変更前）の培養要請	37	3.1
ディエスカレーションの要請	73	6.1
早めの中止依頼	19	1.6
変更を提案	37	3.1
起因菌の可能な範囲での特定依頼	1	0.1
血液培養検出菌のお知らせ	93	7.8
TDM関連	1	0.1
問合せ及び相談件数	87	7.1

今後もAMR対策アクションプランに準じた活動を行っていく。

倫理委員会

委員長 波多野善明

第1回

開催日 令和2年4月10日

倫理審査 ①「レセプト等情報を用いた脳卒中、脳神経外科医療疫学調査」

申請者 脳神経外科 院長 太田原康成

結果 承認

開催日 令和2年4月10日

倫理審査 ②「本邦における精巣腫瘍患者レジストリの作成およびコホート研究の基盤創出」

申請者 泌尿器科 科長 小峰直樹

結果 承認

第2回

開催日 令和2年4月27日

倫理審査 ①「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における医薬品の適用外使用について」

申請者 呼吸器内科 診療部長 金田浩人

結果 承認

開催日 令和2年4月27日

倫理審査 ②「抗ホスホリパーゼA2受容体抗体(抗PLA2R抗体)測定ELISAキットの臨床的有用性の検討」

申請者 血液・腎臓内科 科員 山田雅浩

結果 承認

第3回

開催日 令和2年9月15日

倫理審査 「消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築」

申請者 消化器内科 診療部長 藤島裕耕

結果 承認

第4回

開催日 令和2年12月11日

倫理審査 「Pseudomeningocele with cauda equina incarceration in the facet joint: A case report」

申請者 整形外科 医長 飯田純平

結果 書面開催→承認

第5回

開催日 令和2年12月11日

倫理審査 「腎機能低下患者におけるミロガバリンの安全性に関する後方視的調査」

申請者 薬剤科 島田健汰

結果 書面開催→承認

第6回

開催日 令和3年1月29日

倫理審査 「措置入院患者における退院後支援マニュアルを活用した初症例」

申請者 看護師 内藤建介

結果 書面開催→承認

訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所運営委員会

委員長 太田原康成

本委員会は、訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所の、運営の円滑適正化を図る事を目的とするものである。

その目的を達成するため

1. 事業拡充、強化推進に関する事項
2. 運営改善に関する事項
3. 啓蒙宣伝に関する事項
4. その他運営上必要な事項

等を協議するものである。

	氏 名	所 属 役 職 名
委 員 長	太田原 康 成	院長
委 員	波多野 善 明	副院長
委 員	大 島 政 人	事務長
委 員	日 沼 ゆかり	看護部長
委 員	嶋 田 誠 司	リハビリテーション科技師長
委 員	佐 藤 ひとみ	看護師長（退院支援）
委 員	菊 地 真 人	事務課長補佐
委 員	工 藤 ゆき子	看護師長（訪問看護ステーション管理者）
委 員	成 田 友 子	看護副師長（居宅介護支援事業所管理者）

○定例会 年2回（上期・下期） 時間：16時15分～

○会議の内容は上期・下期の利用状況、収支状況を主とし事業計画や運営上の問題点など、各委員の立場から情報共有・意見交換を行っている。

健診センター運営委員会

委員長 太田原康成

本委員会は、ドック、各種健（検）診の推進、精検受診による早期予防、生活習慣病の指導改善、地域の健康教育・啓蒙を目的とする。

【委員会メンバー】

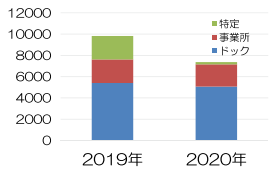
	氏 名	所 属
委員長	太田原 康 成	院長
委員	松 井 俊 彦	副院長
委員	眞 山 一 郎	放射線科診療部長
委員	藤 島 裕 耕	消化器科診療部長
委員	木 村 州 孝	循環器科診療部長
委員	松 崎 郁 夫	呼吸器外科診療部長
委員	加 藤 久仁之	外科科長
委員	小 峰 直 樹	泌尿器科科長
委員	日 沼 ゆかり	看護部長
委員	中 山 明 美	栄養科技師長
委員	伊 藤 浩	放射線科技師長
委員	清 水 盛 也	検査科技師長
委員	三 木 一 伸	健診センター長
委員	大 島 政 人	事務長
事務局	高 橋 紀美代	保健福祉活動室 看護師長（保健師）
事務局	石 井 美保子	保健福祉活動室 看護主任（保健師）
事務局	田 村 博 美	保健福祉活動室 看護師（保健師）
事務局	遠 藤 誠	保健福祉活動室 事務係長

【活 動 内 容】

開 催 日	内 容
令和3年3月29日	令和2年度健診センター活動報告 1) 各種がん検診、精検受診率および受診率向上への取り組み 2) 脳ドック、肺ドック、ワクチン接種 3) 特定保健指導への取り組み 4) 職員ドック（職員ドックオプション） 5) 満足度アンケート

2020年度健診受診状況

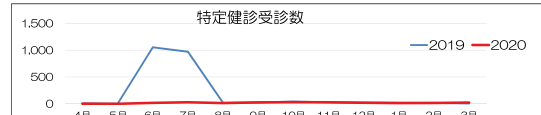
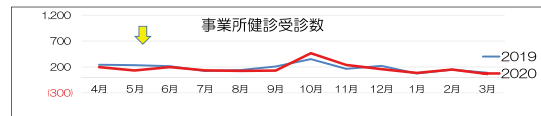
	ドック（人）	事業所	特定	計
2019年	5398	2217	2204	9819
2020年	5066	2083	217	7366
	-332	-134	-1,987	-2,453



昨年度との変更点

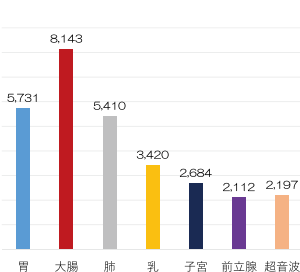
1. 厚生連の方針で、3町村の特定健診（早朝）実施の廃止
2. 感染予防のため、肺活量検査の中止
3. コロナ感染予防対策で、ドックなど自治体からの受診制限。（能代市6月～、八峰町7月～）
4. 八峰町で検診が中止され、当院のドックへ移行された受診者が100名

2020年度健診受診状況

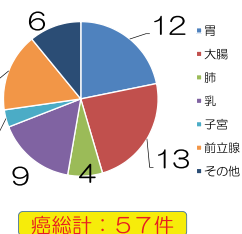


2020年度健診受診状況

各がん検診受診状況

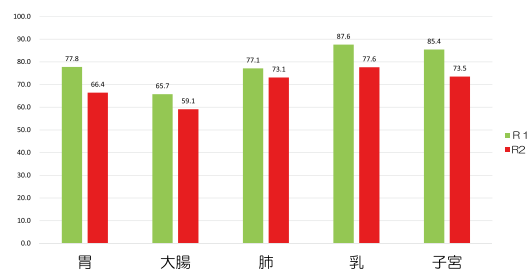


発見がん



精検受診率

	胃	大腸	肺	乳	子宮
R1	77.8	65.7	77.1	87.6	85.4
R2	66.4	59.1	73.1	77.6	73.5

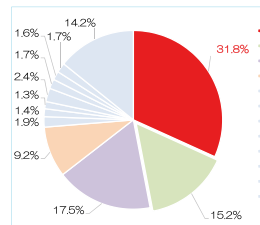


検診受診率・精検受診率向上のための取り組み

1. 問診時、子宮がん・乳がん検診未実施者の方へ受診しない理由を確認し、通院中以外の方へ受診勧奨を実施した。
2. 精検未受診者へ、電話での受診勧奨、パンフレットを同封した手紙での受診勧奨をした。（300名）

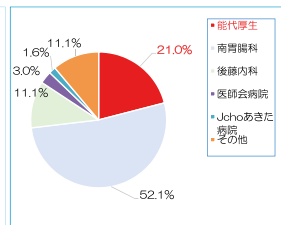
精検受診医療機関

胃がん検診

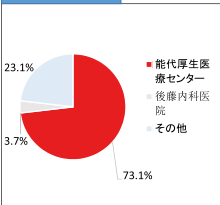


	受診者数	発見件数	発見率
バリウム	5,731	7	0.12
胃カメラ	487	6	1.23
計	6,218	13	0.21

大腸がん検診



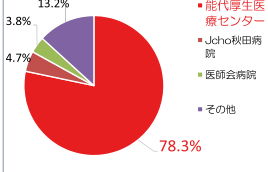
肺がん検診



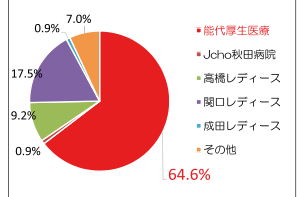
発見がん

健診の種類	年齢	病期	治療	精密病院	治療病院
ドック	70	I B	手術 化学療法	能代厚生医療センター	能代厚生医療センター
ドック	69	III B	化学療法	能代厚生医療センター	A病院
ドック	55	III A	放射線・化学療法・手術	能代厚生医療センター	能代厚生医療センター
前ドック	85	不明	不明	B病院	B病院

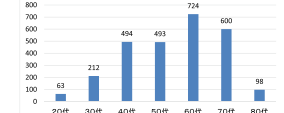
乳がん検診

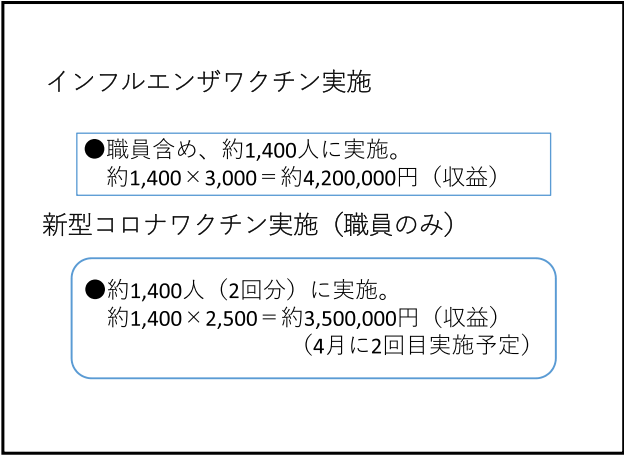
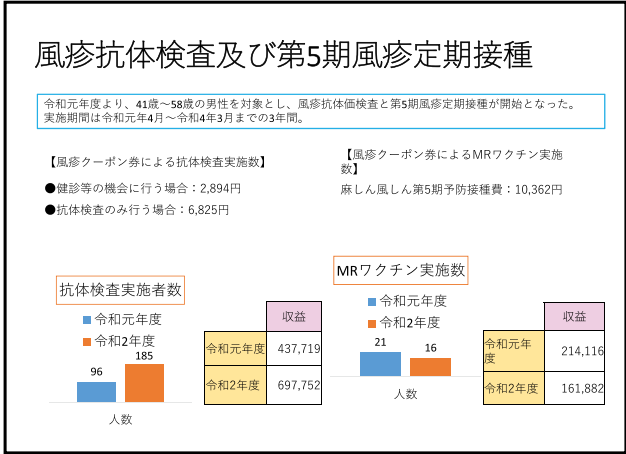
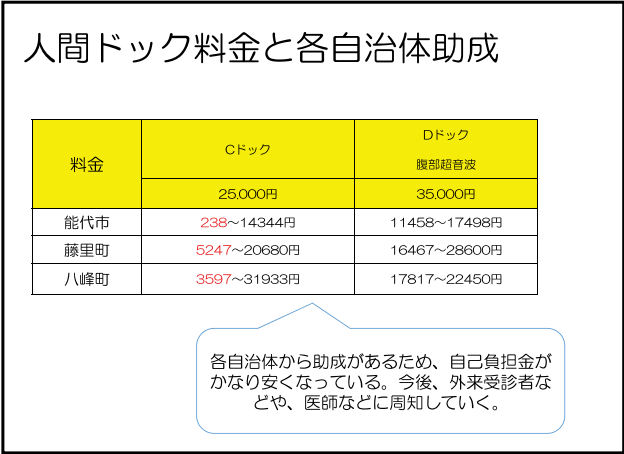
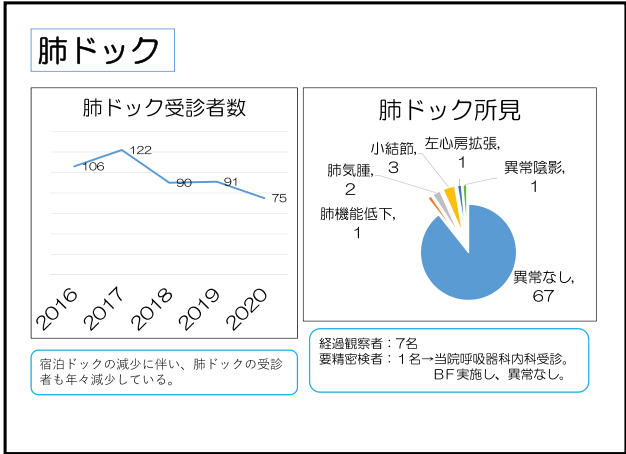
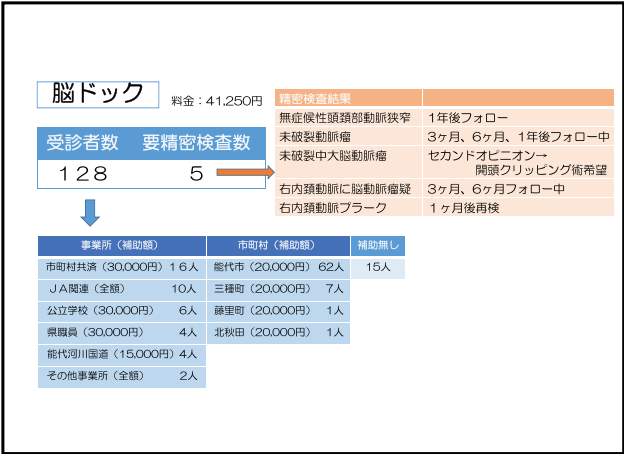
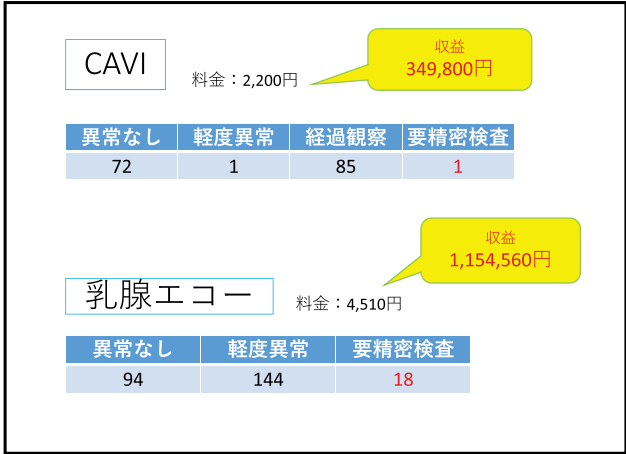
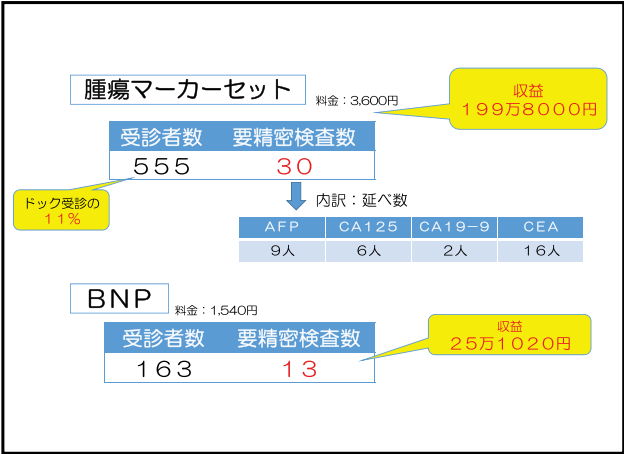


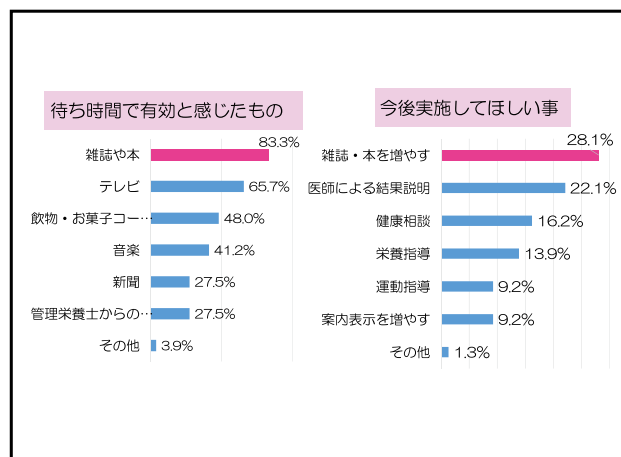
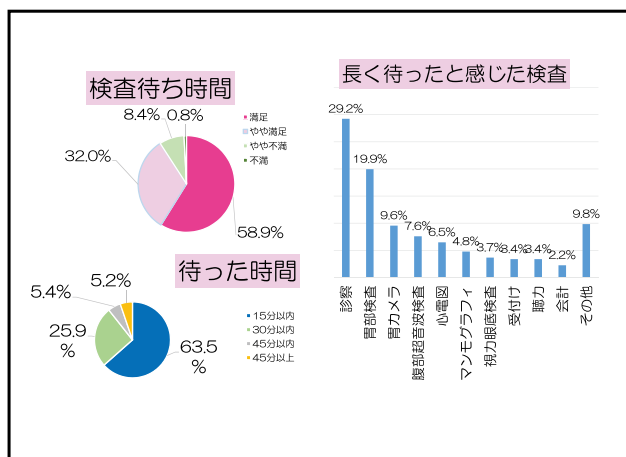
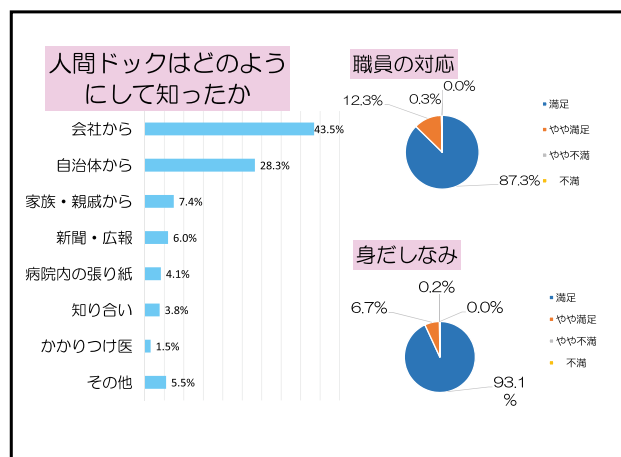
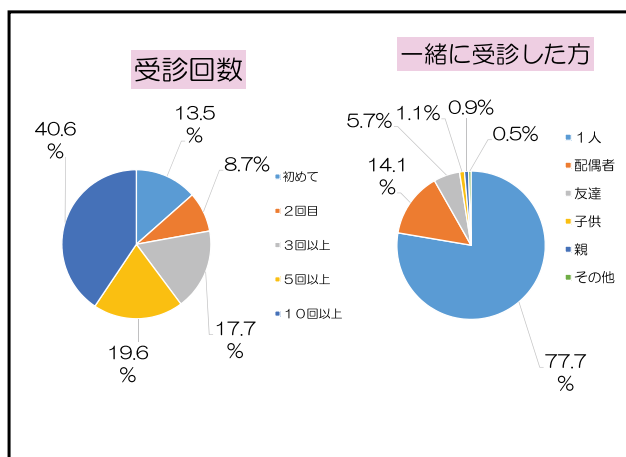
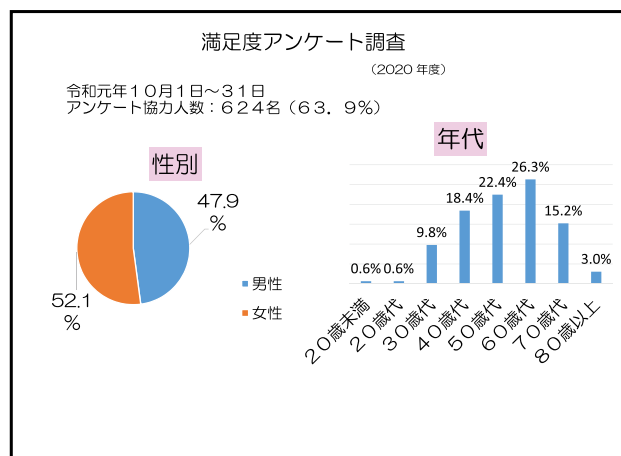
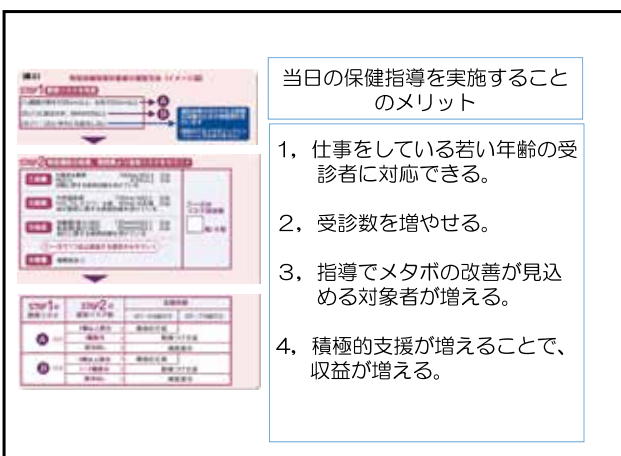
子宮がん検診



受診年齢







特殊健診

【特定化学物質健診】

- 令和3年4月から「溶接ヒューム」「塩基性酸化マンガン」の特殊健診が実施される。
- 料金は2,100円に設定。
- 現時点で新規の事業所より、4名の健診予約申し込みがきている。

臨床検査適正化検討委員会

委員長 村上 正代

本委員会は、当院における臨床検査が適正に実施されるために必要な事項について、検討する事を目的としている。委員は、臨床検査科科长を委員長に副院長、診療科長、看護部長、事務長、医事課課長を始め、当検査科の役付き検査技師を含め14名で構成され、事務局は臨床検査科に置いている。

令和3年3月17日に、令和2年度 臨床検査適正化検討委員会が開催されました。

① 臨床検査精度管理調査の報告

日本医師会の評価評点は98.1点、日本臨床衛生検査技師会の精度管理では97.9%、秋田県臨床検査技師会では100%の評価でした。今後も、精度管理を徹底して業務にあたる事とする。

② 検査科年度別件数報告

平成29年度－323,839件、平成30年度－338,174件、令和1年度－349,528件

③ 検査機器整備について

＊微生物部門：遺伝子解析装置 栄研 Loopamp EXIA

＊生理部門：心臓超音波検査装置 Fillips EPIQ Elite・I S C V

④ 学会演題発表・講師（令和2年度－1演題）

・第69回日本医学検査学会一般演題 Web発表1名（輸血）

⑤ 検査科内の勉強会（2回開催）

・臨床検査科内新型コロナウイルス発生時の行動計画について

・「抗Jkbによる遅発性溶血性輸血副作用を呈した1症例」

・臨床検査における転倒、転落防止について ・接遇自慢大会 臨床検査科の取り組み

⑥ 新規検査、院内検査変更

➤新規：新型コロナウイルス検査

栄研LAMP法運用6月、PCRミズホメディー社9月、抗原定性検査12月から開始

➤変更：結核菌群核酸同定検査、NT-pro BNP 外注⇒院内検査へ移行

⑦ 業務改善事項

➤細菌薬剤感受性検査、薬剤耐性菌検出50点請求開始（令和2年新設）

➤超音波エラストグラフィー（肝硬度測定）200点加算開始

➤ポータブル心電計解析付きに変更、救急センター心電計増設（健診用心電計2台リサイクル）

➤職員ドック腹部超音波検査、眼底写真7時30分～早番体制対応

➤耳鼻科終夜睡眠ポリグラフィー（PSG）初回検査

➤糖代謝科外来ブドウ糖負荷試験～検査科採血で対応

⑧ 臨地実習・中学生・高校生見学

・新潟医療福祉大学臨地実習1名（7月29日～8月28日）

⑨ 各部署からの要望

➤外来採血：専属看護師5名＋1名の6名体制→4名（12月） 令和3年4月から2名体制
看護師不足～今まで以上の臨床検査技師での対応を要請

➤外来患者予約時間に採血結果報告時間を考慮しているため今後も迅速な報告を要望
～このような体制では限界もあり、研修医の採血も考慮しなければならない

➤検査側より超音波検査育成面思うように進んでいない現状→人手不足時は予約枠調整
緊急患者対応するためにも予約枠の順守をお願いする

以上

手術部運営委員会

委員長 佐藤 毅

【設置目的】

本会議は、手術室の安全で円滑な運営を図ることを目的とする。



メス納め神事

【委員構成】

		氏 名	所 属
1	委員長	佐藤 毅	整形外科（副院長・手術部部長）
2	委員	太田原 康成	脳外科（院長）
3	委員	松井 俊彦	産婦人科（副院長）
4	委員	江戸 雅孝	耳鼻咽喉科（診療部長）
5	委員	加藤 久仁之	外科（科長）
6	委員	小峰 直樹	泌尿器科（科長）
7	委員	松崎 郁夫	呼吸器外科（診療部長）
8	委員	松本 純一	麻酔科（非常勤）
9	委員	佐藤 元彦	資材設備課課長
10	委員	丸山 広	臨床工学科 副技師長
11	委員	赤坂 紀之	臨床工学科 主任
	事務局	松坂 綾子	手術部 看護副師長
	事務局	本多 さおり	手術部 看護副師長
	事務局	渡部 幹子	手術部 看護主任
	事務局	佐々木 留美子	手術部 看護主任

【令和元年度委員会活動内容】

開催日	報告事項	協議事項
令和2年6月15日	1. 手術部運営委員の変更 2. 麻酔科バックアップ状況 3. 呼吸器外科手術日変更	1. 新型コロナウイルス関連対策及び手術対応について 2. 救急救命士の挿管実習について
令和2年12月22日	1. 麻酔科バックアップ状況 2. 年末年始のスケジュール 3. 滅菌手袋の統一、種類削減について	1. 麻酔医勤務日の連絡文書廃止について 2. 第5手術室の麻酔器使用時の注意点と協力をお願い
令和2年12月29日	メス納め神事	
令和3年3月25日	1. 麻酔科バックアップ状況 2. 滅菌手袋の統一、種類削減について続報 3. 手術室LED照明の変更	1. 手術室利用の効率化：各診療科へ入室時間調整について 2. 手術部運営委員会既定の改正

医療機器安全管理委員会

委員長 小峰 直樹

【設置目的】

医療機器の適正な管理及び運用を図ること。

【委員構成】

委員役職	科別・役職	氏名
委員長	泌尿器科診療科長	小峰 直樹
	臨床工学科副技師長	丸山 広
	臨床工学科主任	赤坂 紀之
	放射線科副技師長	松橋 忠昭
	臨床検査科主任	成田 淳子
	リハビリテーション科技師長	嶋田 誠司
	手術室看護副師長	松阪 綾子
	鴻池メディカル	原田 晶子
	ボイラー技士	鈴木 治義
	資材設備課課長	佐藤 元彦
	事務長	大島 政人
事務局	資材設備課	田村 和輝

【職務】

- ・職員に対する医療機器の安全使用の為の研修を行う。
- ・医療機器安全使用の為の必要となる情報の収集及び改善の為の対策を検討実施する。

【活動内容】

第1回医療機器安全管理委員会開催（令和3年3月16日）

- 1）今年度の医療機器整備状況について
予定されていた医療機器整備は全て納入完了している。
コロナ補助金により人工呼吸器が追加して3台整備され、計5台整備され全て更新された。
- 2）医療機器管理センターの管理機器増加について
来年度シリンジボンプリースについては現行と同様のものを契約予定である。

【研修回の開催状況】

- ・75回開催
- ・延べ参加人数1079人

保険医療対策委員会

委員長 木村 州孝

【設置目的】

保険医療の査定の減少を目的として委員会として検討を行っている。

重要な点については担当医師と医事課担当者に指導を行っている。また、審査結果に疑義があるものについては積極的に再審査請求を行っている。

【委員構成】

委員長 木村 州孝

委員 病院長、薬剤科、事務 計16名

【活動内容】

令和2年度の査定減実績（対医療収入）は0.15%となり、計画0.09%を0.06%上回る結果となった。診療査定で計画が0.09%に対し0.09%、事務査定で計画0.04%に対し0.06%（不突合除く）となっている。査定項目別件数比（下図）では全体で昨年度と同数だが高額な査定が数件多かったのが影響した。再審査請求に関しては64件1,147,074円に対して再審査復活は297,236円であった。

【活動報告・実績 等】

令和2年度内訳（経年3年）

査 定 別	2018年度	2019年度	2020年度
A 項 査 定	281件	362件	354件
B 項 査 定	354件	295件	282件
C 項 査 定	42件	62件	72件
D 項 及 び そ の 他 査 定	744件	739件	713件
計	1421件	1458件	1458件

救急医療委員会

委員長 佐藤 毅

【紹介】

救急委員会は、救急医療に関わる院内各部署の委員（医局、看護部、薬局、放射線、臨床検査、事務）と能代消防署からの外部委員で構成され、毎月第2金曜日に開催しています。救急医療に関わる問題点に関して討議し、改善点を検討しています。

2020年度の主な討議・報告事項や決定事項

- ・救急車お断り症例に関する検討とその対策
- ・救急外来業務の周知徹底と改善
- ・救急外来で生じた種々な問題点の把握とその改善
- ・J T A Sを用いてのトリアージの運用について
- ・コロナ検査情報の救急隊への伝達について
- ・ドクターヘリ運用の確認
- ・救急カートへの薬剤追加
- ・副当直医の現状に対するアンケートの実施
- ・長期休暇時の救急外来での問題点の把握と改善
- ・心肺蘇生を望まない傷病者の対応に対する秋田県の実態調査の報告
- ・秋田県メディカルコントロール協議会で審議された話題の提供
- ・傷病者搬送および受け入れ実施基準改訂の報告
- ・救急隊員との情報交換

褥瘡対策委員会

委員長 矢島 晴美

【令和2年度の活動目標】

安心安全で質の高い医療提供に向け、予防的ケアを充実させ褥瘡新規発生を作らない。

令和2年度褥瘡新規発生P D C Aサイクル

1. 計画：目標

- 褥瘡発生件数・発生率の減少
新規発生件数 30件
褥瘡新規発生率 Q I : 0.1%
褥瘡推定発生率 Q I : 0.5%

3. 評価：改善策の評価

- 褥瘡新規発生件数
- 褥瘡新規発生率
- 褥瘡推定発生率
- 褥瘡発生時の部署検討

2. 実行：改善策の実施

- 褥瘡計画の書の作成
- 高機能マットレスの適正使用
- おむつの正しい使い方
- スキンケア用品の適正使用
- 皮膚確認の状況
- 医療用テープの適正使用

4. 改善：行動

ケアの基本に返り基本的な考えを周知する。
発生の要因を検索する。

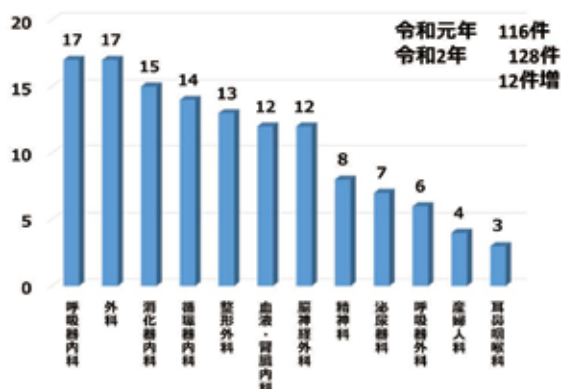
【構成】

医師、看護師長、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師（病棟、外来、手術室）、薬剤師（薬剤主任）、
栄養科技師長、管理栄養士、作業療法士、事務職員

【主な活動内容】

- ① 月1回の委員会の開催
- ② 週1回の褥瘡チーム回診（医師、看護師長、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師（薬剤主任）、管理栄養士、作業療法士）の実施
- ③ 褥瘡の治療やスキンケアのコンサルタント
- ④ 体圧分散マットレス・除圧用具の管理
- ⑤ 院内勉強会開催
R2年6月4日(木)、7月2日(木)、8月6日(木)、9月3日(木)、10月1日(木)、
11月5日(木)
おむつマイスタープロ研修大王製紙(株)
- ⑥ 褥瘡対策マニュアル作成（スキンケア、医療関連機器圧迫創傷など）
R2年6月 褥瘡評価について
スキンケアについて（e-ラーニング）
R2年11月 医療機器関連圧迫創傷について（e-ラーニング）

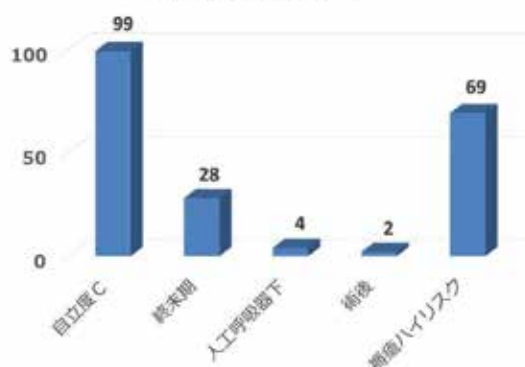
令和2年度 科別新規発生件数



令和2年度ハイリスクケア加算 病棟



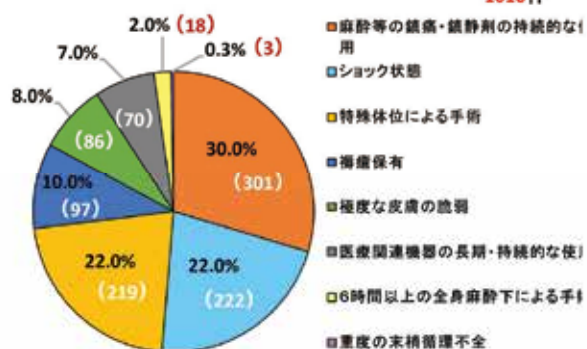
褥瘡発生要因



推定発生率



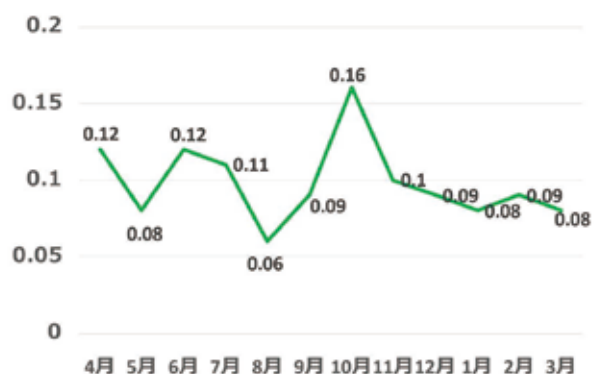
令和2年度ハイリスクケア加算加算項目 加算総数 1016件



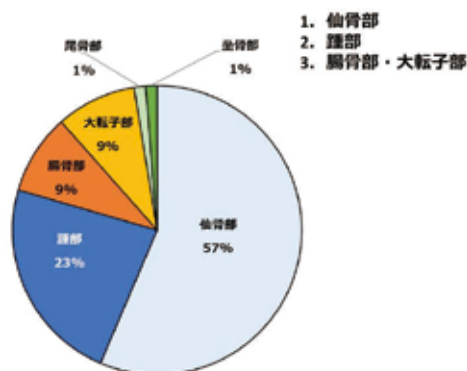
有病率



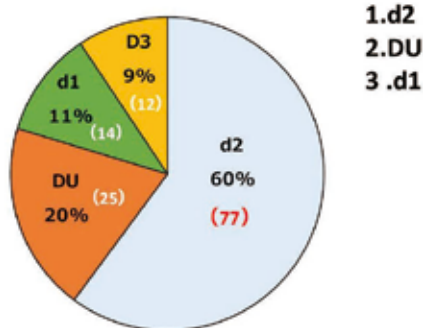
新規発生率



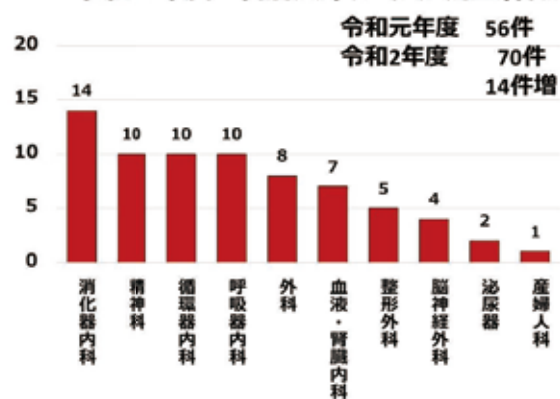
新規発生 部位別



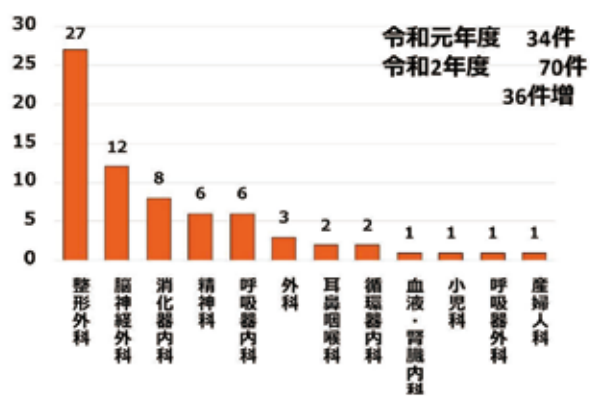
新規発生 深さ別



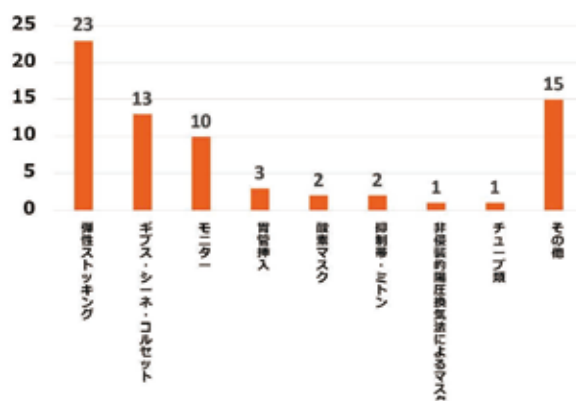
令和2年度 科別スキン-テア発生件数



令和2年度 MDRPU科別件数



医療機器関連圧迫発生要因内訳



緩和医療委員会

委員長 江戸 雅孝

【設置目的】

能代厚生医療センターにおける緩和ケアの推進をはかる

【委員構成】

委員長 江戸 雅孝（耳鼻咽喉科 診療部長）
委員 金田 浩人（呼吸器科 診療部長） 齋藤 英知（精神科 診療部長）
岩間 孝英（放射線科 科長） 大原 正之（薬剤科 薬剤主任）
斉藤 匡昭（薬剤科 薬剤主任） 田中さくら（栄養科 管理栄養士）
安部ひとみ（リハビリテーション科 作業療法士） 小林 真紀（外科外来 緩和ケア認定看護師）
佐藤 明子（6 A病棟 看護師長） 櫻田 美穂（医事課 事務）
伊藤 郁子（緩和ケアセンター看護主任 緩和ケア認定看護師）
澤田 尚子（精神デイケア 臨床心理士）
阿部 綾華（医療福祉相談室 社会福祉士）
菊地真 人（医療福祉相談室 事務課長補佐）

計15名

【活動報告】令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）

1）定例活動

緩和ケアチーム回診数：延べ1551回（1名あたり平均11回訪問）

緩和医療委員会：6回（偶数月）

緩和ケアサポートスタッフ会議：6回（偶数月）

緩和ケアチームカンファレンス：52回（毎水曜日）

緩和ケア通信発行、病院HP掲載：6回（偶数月）

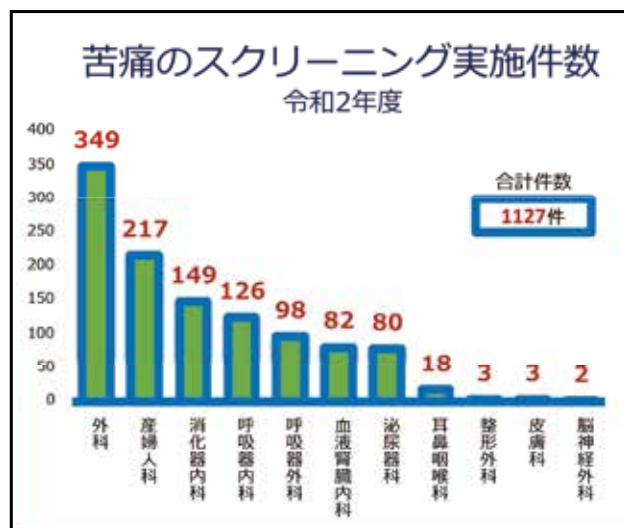
2）緩和ケアチームの新規依頼件数：146件

診療科別：呼吸器内科34件、呼吸器外科32件、消化器内科18件、産婦人科16件、耳鼻咽喉科15件、血液・腎臓内科10件、外科9件、泌尿器科7件、整形外科3件、脳神経外科1件、精神科1件

依頼内容：精神的ケア104件、疼痛緩和60件、家族ケア35件、疼痛以外の症状18件、スピリチュアルケア3件、その他10件（重複あり）

3）苦痛のスクリーニング実施件数：1127件

診療科別：外科349件、産婦人科217件、消化器内科149件、呼吸器内科126件、呼吸器外科98件、血液・腎臓内科82件、泌尿器科80件、耳鼻咽喉科18件、整形外科3件、皮膚科3件、脳神経外科2件



【講演実績、研修会、学会発表など】

1) 院内緩和ケア勉強会（緩和医療委員会&緩和ケアサポートスタッフ主催）

通算回数	開催日	テーマと講師	参加者数
第63回	7月15日	新人看護師・新人医療者対象 集合研修 緩和ケアへつなぐには 看護師緩和ケア「はじめのいっぽ」 講師 伊藤郁子 講師 江戸雅孝医師	31名
第64回	9月8日	4 A病棟 当院の医療用麻薬について 講師 細田優萌薬剤師	15名
第65回	9月8日	6 B病棟 デスカンファレンスの効果 講師 伊藤郁子看護師	10名
第66回	10月15日	外来 告知時のサポートについて 講師 伊藤郁子看護師	20名
第67回	11月17日	7 B病棟 がん患者入院時のサポート 講師 伊藤郁子看護師	7名
第68回	11月26日	5 B病棟 苦痛のスクリーニング 講師 伊藤郁子看護師	8名
第69回	12月10日	7 A病棟 当院の医療用麻薬について 講師 細田優萌薬剤師	12名
第70回	12月25日	4 B病棟 がん患者入院時のサポート 講師 伊藤郁子看護師	8名
第71回	令和2年度	看護師対象 ナーシングスキルe-learning 「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは」	291名

※64回～70回は集合研修を避け、各部署で実施した

2) 能代山本地域 緩和ケア研修会 2020

令和2年12月5日 参加者10名（医師6名、看護師3名、作業療法士1名）

講師：江戸雅孝（耳鼻咽喉科 診療部長）、齋藤英知（精神科 診療部長）

大石 晋（大館市立総合病院 副院長）、秋山博実（大曲厚生医療センター 診療部長）

ファシリテーター：大原正之、斉藤匡昭、安部ひとみ、伊藤郁子

3) 地域における活動、研修会、研究会など

伊藤郁子：秋田県がん診療連携協議会 評価・改善部会 能代市 7月18日 活動報告

秋田県学校保健連合会『移動保健教室』八竜中学校 三種町 9月15日 講師

北秋田医療圏緩和ケア研修会 2020 11月14日 北秋田市 ファシリテーター

家庭教育関係講座『がん教育講座』能代第二中学校 能代市 11月18日 講師

あきたしらかみ看護学院 令和3年2月4日、令和3年2月18日 講師

【秋田県がん診療連携協議会 緩和ケア・教育研修部会活動】

1) 緩和ケア・教育研修部会：年2回（5月13日、3月10日） 計8名参加

2) 秋田県緩和ケアチーム WEBカンファレンス：県内15病院の緩和ケアチーム参加
能代厚生医療センター、秋田大学医学部附属病院、秋田赤十字病院、秋田厚生医療センター、
大曲厚生医療センター、平鹿総合病院、由利組合総合病院、大館市立総合病院、雄勝中央病院、
北秋田市民病院、中通総合病院、市立秋田総合病院、本荘第一病院、能代山本医師会病院、
市立横手病院
年6回（7／8、9／9、10／14、11／11、12／9、1／13、2／10）

計27名参加



緩和ケアチーム

クリニカルパス委員会

委員長 伊藤 博紀（整形外科）

副委員長 千葉 愛（看護部）

【メンバー構成】

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学・作業療法士、事務



【活動内容】

1. 委員会開催（月1回）
2. クリニカルパス使用状況の調査
3. クリニカルパス作成・改訂
4. クリニカルパス啓発活動
5. クリニカルパス大会開催

【活動内容詳細】

当院における2020年度クリニカルパス使用率は63%でした（図1）。

今年度は、前年度に引き続いて患者用パスの標準化に向けた改訂、また新たな取り組みとして病院経営指標に基づいたパスの作成・改訂を進めてきました。医療の標準化と質向上、チーム医療の推進、さらには経営的な観点よりパス承認規定を策定しました。パスの設定期間を原則D P C IIの範囲内とし、適切なアウトカム－観察項目を設定したアウトカム志向パスとする内容などを盛り込んでいます。こうした規定に沿ったパスの見直しを進めました。結果として、院内公開パス294の大部分をD P C IIの範囲内で退院できるような内容とし、アウトカム志向パスへ改定を行いました。

昨年度より、高齢者肺炎パスの運用を病院全体で開始しています。2020年度における高齢者肺炎パス適応症例は100例でした。パス運用を通じ看護アセスメントと記録の標準化および多職種の介入を進めました。標準的な評価のためにテンプレートを作成し運用を進めましたが、アウトカム評価率は病棟間で格差を認め、その評価もばらつきがみられ、今後の課題であると考えています。

さらにワーキンググループ活動を進めました。多職種を中心とした啓発グループでは、デジタルサイネージおよびパス院内広報である“パス通信”を通じた院内全職種を対象とした啓発活動を行ないました。

コロナ感染拡大に伴いパス大会開催は実施できず、また日本クリニカルパス学会も中止となり情報収集はできませんでした。

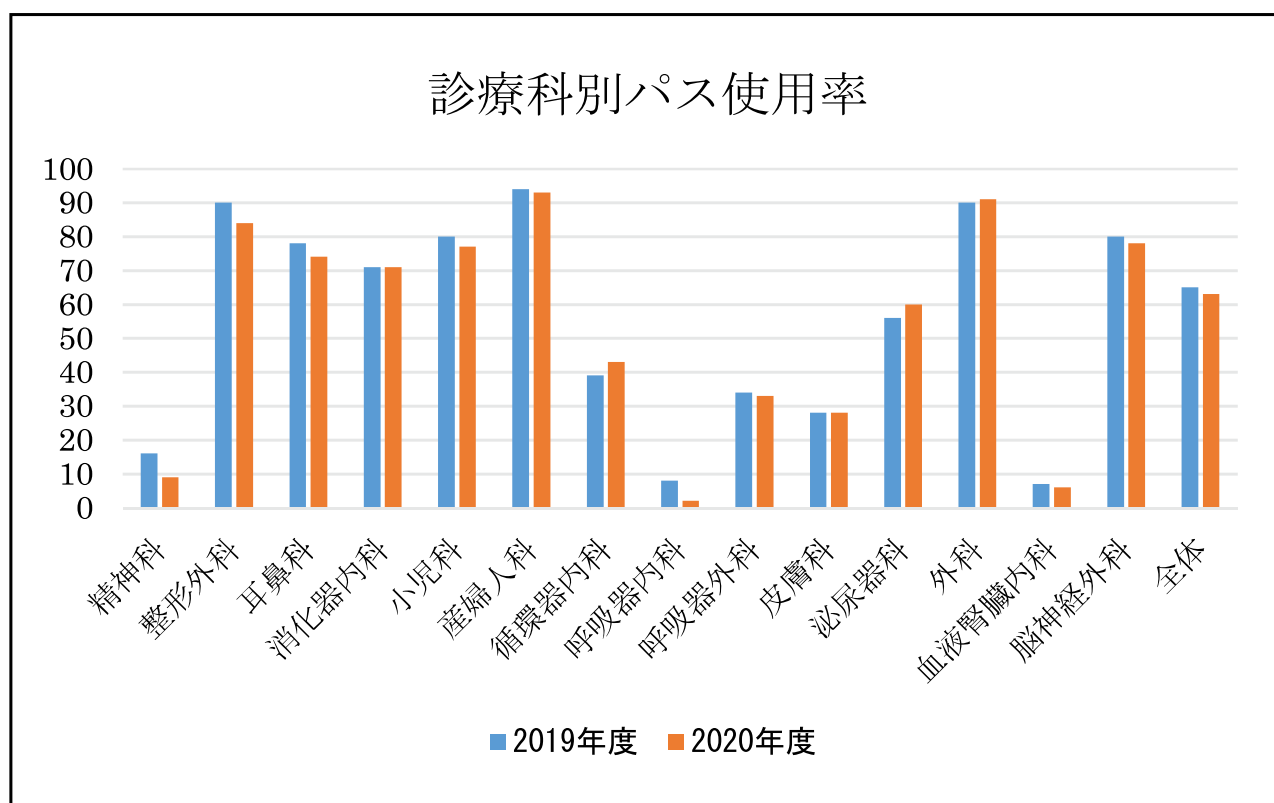


図 1

透析機器安全管理委員会

委員長 小峰 直樹

【設置目的】

透析機器安全管理委員会では、透析機器および透析液水質の適正な管理及び運営を図ることを目的とし、透析液の検査実施および水質基準の管理状況について確認・審議・報告を行っている。

【委員構成】

委員長 小峰 直樹

委員 木村 亜矢子、伊藤 淳志、難波 仁美、高橋 秀光

透析液安全管理者 丸山 広

透析液製造担当者 赤坂 紀之 計7名

【職務】

透析液及び透析用水の清浄化検査

透析機器の保守管理

【活動報告】 令和2年4月～令和3年3月

・ 令和3年3月30日 令和2年度委員会開催

1) 透析機器故障・修理状況について

NCU-1／除気槽より液漏れ 3件

対応：除気槽交換

NPS-50A／給水ラインより水漏れ

対応：給水末端の電磁弁交換

NDF-21／フロートセンサーより水漏れ

対応：フロートセンサー交換

全29台：透析装置エンドトキシン吸着フィルター交換

2) 多人数用透析液変更について

4月よりリンパックTA3からキンダリー2Eに変更

3) 透析液清浄化、エンドトキシン、生菌測定結果について

RO、セントラル、末端コンソール、個人装置で生菌・ETは検出されなかった。

消毒方法を随時検討しこのまま清浄化に努める。



医療情報システム委員会

委員長 近野 勇樹

【設置目的】

医療情報システムが安全かつ効率的に運用されることを目的とする。

【委員構成】

委員長 近野勇樹（小児科科長）

委員 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、管理栄養士、理学・作業療法士、事務の計15名

【職務】

- ・ 当院情報システム運用管理マニュアルに関すること。
- ・ 情報システムに伴う部門間で協議・調整が必要な項目に関すること。
- ・ 定期メンテナンス等システム停止に伴う部門の運用調整に関すること。
- ・ その他これらに関すること。

【活動内容】

委員会は月に1回第2火曜日にNEC担当者にも参加していただき開催しています。

内容は主にNEC担当者より作業報告や各部署または個人からの要望・問い合わせの報告と連絡事項、今後の作業予定などの確認を行っています。また端末含め経年劣化による機器の故障等も増え、予算と必要度を照らし合わせながら検討も行っています。

2011年10月1日より始まった当院の電子カルテの運用は、平成29年度に新システムの導入という本委員会にとっての大きなイベントがありました。多くの職員の協力のもと、新システム導入にあたり、大きなトラブルはありませんでしたが、導入して時間が経過するにつれ改修や変更の要望が届いています。できるだけ各職員・各部署の要望に応えながら、より利用しやすいシステムの構築を目指します。

また個人情報保護含め、当院で運用している病院情報システムの管理・運用に関しても秋田県厚生連9病院で統一したマニュアルがあります。

診療材料委員会

委員長 太田原康成

【設置目的】

本委員会は、院内において良質で廉価な診療材料等の購入及び効率的な物流・物品管理を図り、合理的な運営に資することを目的としている。

【委員構成】

委員長 太田原 康成

委員 副院長、薬剤長、看護副部長、事務長、事務部（資材設備課）

計7名

【職務】

新規診療材料、サンプル申請などの承認の可否を協議する。

【活動内容】

診療材料委員会開催状況

第1回 令和2年6月29日

- ① 新規採用 4品目
- ② サンプル申請 1品目

第2回 令和2年9月4日

- ① 新規採用 1品目

第3回 令和2年11月18日

- ① 新規採用 1品目
- ② サンプル申請 1品目

第4回 令和3年1月26日

- ① 新規採用 1品目
- ② サンプル申請 1品目
- ③ 誤接続防止コネクタに係る国際規格の導入について

第5回 令和3年3月17日

- ① 新規採用 2品目

上記の通り診療材料委員会は5回開催しました。

栄養サポートチーム

文責 高橋 美香

【設置目的】

患者の栄養状態を把握し、適切な栄養管理を指導・提言し、病気からの早期回復・QOLの改善を図ることを目的とする。

【委員構成】

- チーム長 藤島 裕耕 診療部長（消化器内科）
加藤久仁之 外科科長
小嶋 雅人 薬剤主任
高橋紀美代 看護師長（保健福祉活動室）
北嶋 清子 看護副師長（3 B）
岩谷真希子 看護主任（7 A）
櫻田 尚子 看護主任（7 B）
佐々木伸子 看護主任（皮膚・排泄ケア認定看護師）
小柳 大地 言語聴覚士
熊谷 萌生 理学療法士
中山 明美 栄養技師長
市川 宏美 管理栄養士
中島 美希 医事課
- NSTリンクスタッフ （4 A）佐々木琢真 看護師 （4 B）塚本 麻美 看護師
（5 A）豊澤 ユキ 看護主任 （5 B）竹嶋美佳沙 看護師
（6 A）伊藤 達彦 看護師 （6 B）細川かほ子 看護師

【活動報告】

期 間	算 定 件 数	期 間	算 定 件 数
令和2年4月	21	令和2年10月	17
5月	14	11月	7
6月	10	12月	18
7月	12	令和3年1月	6
8月	9	2月	6
9月	15	3月	3
		合 計	138

各種委員会

災害医療支援チーム(DMAT:Disaster Medical Assistant Team)

文責 佐々木 寛

【スタッフ紹介】

医師 2 名、薬剤師 1 名、臨床工学技士 1 名、看護師 4 名、事務 1 名

【紹介】

DMA Tは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義され、災害発生に備えて訓練活動を行っております。

令和 2 年度の活動は以下の通りです。C O V I D - 19 による影響のため、ほぼ訓練活動を行うことはできませんでした。しかし来る災害に備え、今後も院内外の訓練を続けていきたい所存です。

【活動内容】

東北ブロックDMA T技能維持研修

秋田市 令和 2 年 5 月 28 日～29 日

秋田県総合防災訓練

由利本荘市 令和 2 年 8 月 30 日

東北ブロックDMA T参集訓練

宮城県 令和 2 年 10 月 3 日～ 4 日

秋田県C B R N E テロ災害対策医療講習会

w e b 令和 3 年 2 月 14 日



精神科リエゾンチーム

文責 内藤 建介

【メンバー紹介】

所 属	氏 名	所 属 ・ 役 職
精神科医・専任	斎 藤 英 知	精神科 診療部長
精神科医・専任	野 澤 宏 二	精神科 科長
精神科医・専任	山 田 篤	精神科 科長
精神科医・専任	佐 藤 優 真	精神科 科員
常勤看護師・専任	内 藤 建 介	7 B病棟 精神科認定看護師
常勤精神保健福祉士・専任	佐 藤 希	入退院支援センター 3 B病棟
薬剤師	佐々木 真 則	薬剤科 副薬剤長
看護師	工 藤 純 子	認知症看護認定看護師
臨床心理士	澤 田 尚 子	精神科デイケア
経営企画課	内 藤 雅 博	経営企画課 係長

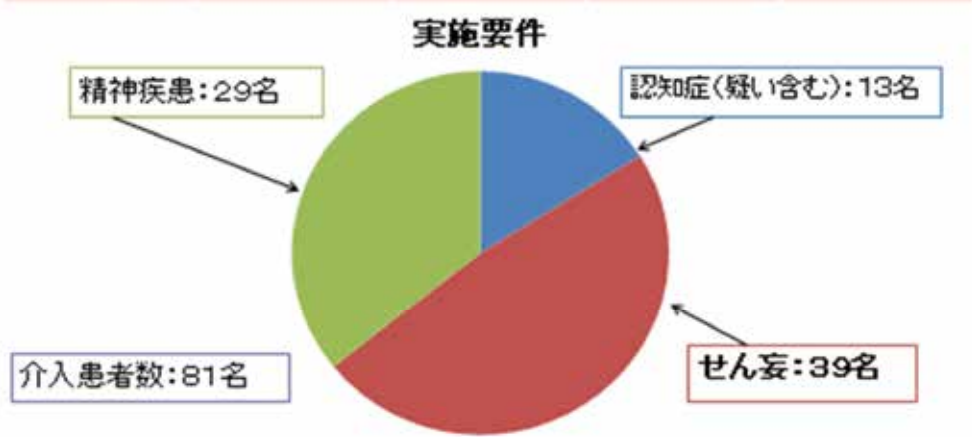
【活 動 目 的】

本チームは能代厚生医療センターに身体疾患の治療目的にて入院している患者の症状緩和・早期退院を推進すべく、精神科専門医療が必要な者への早期発見・精神科専門医療の早期提供を目的とした多職種チームとして2017年9月より活動しております。対象患者はせん妄や抑うつを有する患者・精神疾患を有する患者・自殺企図で入院した患者・その他、精神科リエゾンチームとして介入が適切と判断された患者とし、週1回程度対象患者の病床をチームで回診しております。

【活 動 実 績】

令和2年度 実績

介入件数	加算件数	介入患者数	新規患者数	週平均件数
243	208	81	79	4.7



各種委員会

患者満足度向上プロジェクト

リーダー 野呂江津子

【メンバー紹介】

リーダー 野呂江津子
 サブリーダー 赤坂 紀之
 メンバー 鈴木 輝子
 齊藤 匡昭
 加藤亜有子
 田中富三男
 金子 大輔
 飛澤 一真
 市川 宏美
 事務局 福原 忠佑



【プロジェクト目的】

患者満足度向上のため、病院内の利便性を高め居心地の良い環境を作る。

【活動報告】

	入院アンケート	利便性	情報提供	癒しの環境
	集計・掲示(毎月) 投書の回答	外来案内標識設置		正面花壇 (業者委託)
4月		標識デザイン		
5月				こいのぼり 五月人形展示
6月		アンケート実施		
7月				たなばた 大笹の展示 短冊の祈禱
8月		標識仮設置		中央廊下に 園児作品展示
9月			コロナワンポイント レッスン	アマビエ チョークアート展示
10月	接遇個人表彰	標識本設置	さがけデジタル サイネージに コロナ感染対策	ピアノバイオリン 演奏10回
11月		外来待ち時間の 取り組み		折り紙アート展示
12月		Wi-Fi設置		イルミネーション
1月				職員の作品展示
2月		オンライン面会開始		
3月				

接遇個人表彰



オンライン面会



外来案内標識



たなばた



ピアノ



アマビエチョークアート



イルミネーション



折り紙アート展示



地域連携プロジェクト

リーダー 伊藤 浩

【プロジェクト目標】

地域の患者さんが迷うことなく治療を受けることが出来るように地域の医療機関、介護施設、行政等との連携を強化、構築する。

【チーム構成】

リーダー 伊藤 浩 サブリーダー ○○ ○○

メンバー 医師 1 名 検査技師長 薬剤長 看護師長 2 名 看護主任 リハビリ主任
栄養科主任 社会福祉士 事務 2 名

【活動報告】

・新規

- ① かかりつけ医パンフレット（院内配布）作製 計30件
- ② 診療科紹介パンフレット（関連病院配布）作製
- ③ 経過報告文章の作成推進
 - ・入院患者の退院時報告（全科）
 - ・入院後の経過報告（検査結果、病名、治療内容等）
※消化器内科をモデルケースとして開始予定
- ④ 退院サマリーの見直し→診療録委員会で検討中

・継続

- ① 介護情報交換会（12月4日開催 院外7名（地域包括支援センター）院内9名）
- ② 訪問教室（11月6日八峰町社会福祉協議会 感染症認定看護師）
- ③ 就労支援 実績3件
- ④ かかりつけ医紹介相談 92件



かかりつけ医パンフレット



訪問教室



介護情報交換会



診療科紹介



医療の質向上プロジェクト

リーダー 木村 正行

【スタッフ紹介】

所 属	氏 名	所 属	氏 名
副 院 長	松井 俊彦(機能向上委員会委員長)	放射線主任	伊藤 泰伸
診 療 部 長	松崎 郁夫(サブリーダー)	栄養科主任	松嶋 香織
薬 剤 長	木村 正行(リーダー)	検 査 科	山田 利信
看護副部長	赤塚 悦子	係 長	宮城 康春
看護副部長	桜庭 優子	病 歴	工藤恵理華
リハ技師長	嶋田 誠司		藤原 齊
薬 剤 主 任	小嶋 雅人	経営企画課	経営企画課(事務局)

【部 門 紹 介】

当プロジェクトは、日本医療機能評価機構の認定と継続を維持していくために、状況をチェックし質向上に向けた業務改善を提案します。

日本病院協会Q I プロジェクトにデータ算出・集約し提出します。

日本病院協会Q I のフィードバックデータをベンチマークして、担当部署に改善等を要望していきます。

また全国の病院との比較の中で当院の立ち位置を明確にし、質向上に向けた改善を提案していきます。

各部署のB S Cの管理を行います。B S C発表会を企画し、各部署のB S Cの進捗状況を確認します。

【活 動 内 容】

機能評価受審に向けて、機能向上委員会を設立して準備を行ったがコロナの影響にて、受審を2021の12月に延期することを決定した

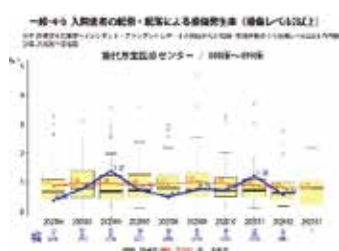
日本病院協会Q I プロジェクトとして、Q I ニュースを作成し、当院の立ち位置と改善の取り組みを紹介した。

Q I のベンチマークを行い、医療安全に転倒転落の改善を提案

転倒転落アセスメントシートの簡略化・パンフレット改訂・マニュアル改訂・頭部受傷時の対応・内服確認・環境整備：低床ベッドとロック付きサイドテーブル購入を行い、転倒転落レベル2以上が減少となった。

B S Cに関するアンケートを行い、B S Cの簡略化を推奨・作成者の業務負担の軽減・作成者の孤立化の防止

以上の事を各部署に対し改善を求めていくことにした。



病院会Q Iのフィードバックが、コロナの影響にて公開されなかったため、電カルにグラフの更新ができなかった。計画したことが延期や中止となり、今年度の活動が目に見えて成果につながらなかった。その中でも、転倒転落や脳疾患患者における薬品使用のパス化による改善。Q Iデータ作成の簡略化、B S Cアンケートなど来年度につながる足掛かり等ができた。 ご協力くださった皆様に感謝申し上げます

情報発信プロジェクト

リーダー 小松 浩樹

【メンバー紹介】

リーダー 事務次長 石川 淳一
サブリーダー 医事課長補佐 二田 康誠
放射線技師 1名 薬剤師 1名
臨床検査技師 1名 作業療法士 1名
管理栄養士 1名 看護師 3名
事務職員 4名 合計12名



【プロジェクト目標】

2012年4月、経営改善プロジェクトのひとつとして産声を上げた当プロジェクトも満8年となりました。当初の目的であった「院内での取り組みを広く周知」、「職員の経営参画意識の向上」において、ある程度の実績を積み重ねることが出来たのではないかと自負しております。

今年度はこれまでの活動に加え、『看護部紹介パンフレット』の新規作成、患者さんが安心して療養できるよう視覚的に優しい印象を取り入れた『入院のご案内』のリニューアルについて、令和3年度中の発行を目指してその準備に注力しております。

【活動報告】

① プロジェクト広報誌「Change」の発行

- ・記事内容を工夫しながら年6回発行しました。内容については、8年も継続していることの反動で、マンネリ化も否定できません。今後は年間発行回数を減らし、その分質の向上を図っていくなどの工夫が必要かと感じている所です。

② 院外広報誌「ふれ愛」の発行

- ・地域の方々に向けた院内情報のお知らせや病院に興味を持ち、足を運んでもらうことを目的とし、10月に発行しました。

③ デジタルサイネージへの要望対応

- ・職員への周知すべき情報を定期的に更新し発信しました。

④ 「看護部紹介パンフレット」の新規作成及び「入院のご案内」のリニューアル・発行に向け、令和3年度中の発行に向け取り組んでおります。



職員満足度向上プロジェクト

文責 清水 盛也

【目 的】

地域の皆様に対し、より安全な医療を提供するために日々頑張っている職員に、働きやすくより良い環境作りを目指して一人一人の声に耳を傾け、職員満足度の向上に繋がっていくことを目的として活動しているプロジェクトです。

【メンバー紹介】

臨床検査技師長	清水 盛也（リーダー）	診療部長	久保田 均（サブリーダー）
看護副部長	出雲 隆子	看護師長	佐藤 明子
診療放射線副技師長	松橋 忠昭	副薬剤長	佐々木真則
リハビリ主任	岸野美代子	栄養科	藤原 志保
総務管理課	渡部菜美子（事務局）	医事課	米谷明沙美（事務局）
総務管理課	東海林大輝（事務局）		

以下の活動報告は、当院管理者のもと開催されるプロジェクトカンファランスにて報告となっております。

【活 動 報 告】

① 提案箱への回答と内容の具現化

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
提案 件数	3	4	2	0	4	1	2	0	4	1	2	3	26

職員皆様から1年間で26件のご提案をいただきました。その内容について

B S Cの取り組み・負担について、ご提案箱回答貼付、名札写真、ピアノ演奏、封筒撤廃、女子ロッカー管理、院内放送チャイム、Web研修室、呼び出しマイク効果音、アーケードお花、Wi-Fi利用、血圧測定コーナー、4 B病棟利用・保育所、献血等々について、新型コロナ関連では玄関出入口通行、応援メッセージ、玄関脇車いす配置、オンライン面会等について返答、実践

* 7 B大鐘富貴子看護師、6 B赤塚悦子副部長、医療安全対策室 櫻庭優子副部長3名の提案が優秀賞として表彰

▼課題：個人や特定集団への誹謗中傷はなくなったが、対象外である労働条件・賃金等についてのご意見は未だあり

* 従来の用紙運用に加えWeb運用（Googleフォーム）も来年度から開始

② バースデーカード・ドトール券発行

* デザイナー新 昨年同様バースデーカードとドトール券と一緒に～500円×2＝1000円券で発行
～2020年度カード配布率：99.5%（上期99.7% 下期99.2%）

◎ 4月生まれの職員にも、早い注文でほぼリアルタイムに
ドトール券を配布することができました

▼課題：3月生まれの方々～短いドトール券交換期間



③ 時間外ラウンド

* 8月11日(火) 院長、事務長、看護部長、プロジェクトリーダー4名で実態調査

* 10月15日(木) 打刻システム導入後のラウンド～時間外申請者／残業者との検討
申請率：74% 病棟間で温度差あり、退勤準備中と申して残業？ 再調査必要

▼課題：定時帰宅増えてきているが、依然としてできていない部署あり（病棟間差あり）

④ 病院大抽選会 令和2年12月25日(金)

* ビールパーティー、忘年会中止の中、職員皆様への還元策として大抽選会を開催
1位：彩5名、2位：雅10名、3位：梅10名、その他No.1～No.8で職員全員へ配布

⑤ Thank you メッセージ

* 血液浄化センターから放射線科、警備の方への感謝のメッセージ2通あり

⑥ ハートフルスタッフ賞（接遇チーム）

* 個人部門：友政元貴（リハビリ） 佐藤孝子 舩屋明海（5B）

* 部署部門：5B 7A 4A

⑦ 接遇チーム活動

* 院内接遇研修会 135名（医師医長以上、他）

① 6月8日(月) ② 6月9日(火) ③ 6月11日(水) ④ 6月12日(木)

* 接遇自慢大会 12月1日

全23部署 各部署2名までの参加 各々2分間での発表

◎ 今後も職員にとって、より良い環境作りにプロジェクトとして関わって行ければと思いますので、皆様からの前向きに心温まるご提案をお待ちしております。

